

弊ウイポ世界の競馬掲示板の妄想

佐月檀

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

『ウイニングポスト9 2021』の掲示板作品。

書きたいものを書き殴ったので、設定や世界観、果てには馬の史実もむちゃくちゃな模様。

なお、作者はこれが初の掲示板形式作品だったりする。どうか温かい目で見守ってもらえれば嬉しい。

※2021/9/6追記

小説パートの幕間も時折だが書くことにした。

目次

三代目ビッグレッド編

三代目ビッグレッド編 その一 新馬戦 ————— 1

三代目ビッグレッド編 その二 函館二歳ステークス ————— 10

三代目ビッグレッド編 その三 ホープフルステークス(米)

16

三代目ビッグレッド編 その四 フロントランナーステークス

26

三代目ビッグレッド編 その五 BCジュヴェナイル ————— 35

三代目ビッグレッド編 幕間その一 手応え ————— 44

三代目ビッグレッド編 その六 弥生賞 ————— 46

三代目ビッグレッド編 その七 皐月賞 ————— 52

幕間・幼駒編 蝶のように舞う子馬 ————— 58

三代目ビッグレッド編 その八 ケンタッキーダービー ————— 60

三代目ビッグレッド編 その九 プリークネスステークス ————— 69

三代目ビッグレッド編 幕間その二 三冠という夢 ————— 76

三代目ビッグレッド編 その十 ベルモントステークス ————— 79

三代目ビッグレッド編 幕間その三 夢の戦い・ダート2000m

三代目ビッグレッド編 その十一 トラヴァースステークス ————— 87

三代目ビッグレッド編 その十二 ジョッキークラブゴールド

90

三代目ビッグレッド編 その十三 BCクラシック

カップ ————— 99

三代目ビッグレッド編 幕間その四 最強王者 ————— 107

三代目ビッグレッド編 その十三 BCクラシック ————— 110

| | | |
|--------------------|------------------|-----|
| 幕間・幼駒編その二 | 次世代の舞手 | 121 |
| 三代目ビッグレッド編 | ラストラン 有馬記念 | 124 |
| 名馬伝 イージーゴア | ※ネタバレ注意 | 130 |
| 豪脚で魅せる舞手編&黒いステイヤー編 | | |
| 豪脚で魅せる舞手編 | プロローグ | 136 |
| 豪脚で魅せる舞手編 | その一 新馬戦 | 139 |
| 豪脚で魅せる舞手編 | 幕間その一 乗り換え | 148 |
| 豪脚で魅せる舞手編 | その二 京都二歳ステークス | 151 |
| 豪脚で魅せる舞手編 | その三 ホープフルステークス | 162 |
| 幕間・幼駒編 | 黒いステイヤーの始まり | 171 |
| 豪脚で魅せる舞手編 | その四 スプリングステークス | 173 |
| 豪脚で魅せる舞手編 | 幕間その二 弱点とローテーション | 180 |
| 豪脚で魅せる舞手編 | その五 仏二千ギニー | 183 |
| 豪脚で魅せる舞手編 | その六 仏ダービー | 190 |
| 豪脚で魅せる舞手編 | その七 パリ大賞典 | 199 |
| 幕間・黒いステイヤー編 | いよいよスタート | 208 |
| 豪脚で魅せる舞手編 | 凱旋門賞 それぞれの挑戦 | 211 |
| 豪脚で魅せる舞手編 | 凱旋門賞 | 215 |
| 黒いステイヤー編 | その一 新馬戦 | 223 |
| 豪脚で魅せる舞手編 | その八 ジャパンカップ | 232 |
| 黒いステイヤー編 | その二 葉牡丹賞 | 242 |
| 黒いステイヤー編 | その三 ホープフルステークス | 253 |
| 四十話記念 | いつかの未来 ※ネタバレ注意 | 266 |
| 幕間・ | 編 魔王降臨 | 269 |
| 黒いステイヤー編 | その四 共同通信杯 | 274 |

| | | |
|--------------|---------------------|-----|
| 黒いステイヤー編 | リベンジと春風と栗毛と | 284 |
| 黒いステイヤー編 | 最も速い馬 | 288 |
| 黒いステイヤー編 | 十二ハロンの決着 | 293 |
| 黒いステイヤー編 | とある鞍上の復帰戦 | 299 |
| 砂上の | 編 降臨デイストピア | 304 |
| 黒いステイヤー編 | 祝福の菊の大輪 | 308 |
| 幕間 | ジャパンカップ前日 挑戦 | 314 |
| 豪脚で魅せる舞手 | ラストラン | 317 |
| 名馬伝 | スワールヴダンサー | 324 |
| 砂上の | 編 晩成デビル | 336 |
| 黒いステイヤー編 | 大逃げグランプリ | 340 |
| 密林を切り裂く影編・序章 | | 345 |
| 1993年編 | | |
| 1993年、始動 | | 349 |
| 砂上の | 編 異変 | 352 |
| 砂上の | 編 掲示板その一 ケンタッキーダービー | 356 |
| 最終章 | 天に捧ぐ凱旋せし星 | |
| 天に捧ぐ凱旋せし星編 | 朝日杯フューチュリティステークス | |

三代目ビッグレッド編
三代目ビッグレッド編 その一 新馬戦

1：名なしの競馬民 ID：Y562i o H F J
スレ立てなう。

2：名なしの競馬民 ID：e M F 2 Q q J E L
立て乙。

3：名なしの競馬民 ID：f v R + o T h E I
乙。

4：名なしの競馬民 ID：h 7 L l b O v 3 P
七月一周目でデビューする予定の馬で注目株とかいる？

5：名なしの競馬民 ID：b l i S c B 7 a q
新人オーナーが新しく所有した外国産馬やな。

6：名なしの競馬民 ID：U y 9 E 9 R U G n
やっぱりそれか。

7：名なしの競馬民 ID：F G N / 5 m 8 / g
外国産馬かあ……正直、馬券にはあまり絡ませたくないなあ……。

8：名なしの競馬民 ID：2 S u b n q T k r
預託先の調教師は「凄い馬が預けられた。必ず勝たせる」と意気込
んでいたが、果たして。

9：名なしの競馬民 ID：w G X f O Q r J w
ところで、その外国産馬の鞍上は？

10：名なしの競馬民 ID：9Kr6gwU+m
なんでも新人らしい。オーナーの意向だよ。

11：名なしの競馬民 ID：/mnlPlMvX
マジ？ 期待は薄くなるなあ……。

12：名なしの競馬民 ID：ijCVgnSA9
確か、今活躍している柴の人の甥だっけか？

13：名なしの競馬民 ID：u3aw5l9Is
でも新人。応援馬券だけ買うか……。

14：名なしの競馬民 ID：EIrnmnqs/H
てつきり皇帝の鞍上か柴の人辺りのトップジョッキーを乗せると
思ってたけど、柴の人の甥、しかも新人とは……。

15：名なしの競馬民 ID：hJWcYpX4S
そういや新人で思い出した。岳巧（たけたくみ）だっけ？ 凄いよ
な、あの新人。

16：名なしの競馬民 ID：IsGs0XAop
騎手になって二年目で、スーパークリークで快進撃を遂げているら
しいね。

17：名なしの競馬民 ID：bNwflgVJ5
ホント凄いよ、あれは。

18：名なしの競馬民 ID：7LTUqtSgf
話をぶった切るけどさ、新人オーナーの外国産馬の血統はどう？

19 : 名なしの競馬民 ID : OFpTYBOnM
父アリダー、母リラクシング、母父バツクパサー。ガチガチに固められたアメリカ血統。

20 : 名なしの競馬民 ID : RtlSASPPQQ
アメリカでは良血やが、日本だとなあ……。

21 : 名なしの競馬民 ID : qkTLKERlt
日本の芝で走るかどうか、やな。

22 : 名なしの競馬民 ID : 4QJflteZl
アメリカはダートが主だからなあ……。

23 : 名なしの競馬民 ID : J3Oeo2r/o
新馬戦もダートにしたら期待度は高かったのに……。

24 : 名なしの競馬民 ID : pr669jvzs
今回その外国産馬が出走してくる新馬戦の馬場は、芝やから……。

25 : 名なしの競馬民 ID : osj5uM+kD
敗北濃厚？

26 : 名なしの競馬民 ID : IC7jbaWqG
あのオーナーには申し訳ないけどせやな。

27 : 名なしの競馬民 ID : yURmtYnIs
いい変態オーナーだったのに……。

28 : 名なしの競馬民 ID : 3O+6kaQgz

あの変態オーナー、「この馬が活躍できたら、擬人化絵を描いてくれ」とか言ってたけど、それは叶いそうにないかもな……。

29 : 名なしの競馬民 ID : W E g v z E Q f l
哀れ……。

30 : 名なしの競馬民 ID : d z Q z w 6 c 4 V
そろそろ新馬戦やでー！

31 : 名なしの競馬民 ID : n H l h / S P Y M
さてはて、福島の新馬戦を観ますかね。

32 : 名なしの競馬民 ID : g G x d p l U I K
えーと、このマル外の馬があの変態オーナーの馬だっけ？

33 : 名なしの競馬民 ID : v k / R 4 9 Z l a
せやね。イージーゴア、か。あの変態にしては、馬名がやけにかっ
こいい。

34 : 名なしの競馬民 ID : t C U D z v 2 D Y
栗毛の牡馬やな。毛艶も良さそう。

35 : 名なしの競馬民 ID : E J q x c g 4 0 C
好走はできるかもな。

36 : 名なしの競馬民 ID : L q C c j c 7 l X
ゲート入りもすんなりといったな。入れ込んでる様子も全くない
し。

37 : 名なしの競馬民 ID : E f S 9 T P D 9 l
おっ、スタートしたで！

38 : 名なしの競馬民 ID : H q f 6 u r W 8 x

いけいけいけえー！

39 : 名なしの競馬民 ID : H v g M r d r q O
押し切れ押し切れ！

40 : 名なしの競馬民 ID : M q n J O e 5 t 3
イージーゴア？ だっけ？ 最後方にポツンと取り残されてないか？

41 : 名なしの競馬民 ID : G O 3 7 E 4 2 R b
あっ……（察し）。

42 : 名なしの競馬民 ID : l N O x C g n G e
これは負けたな。

43 : 名なしの競馬民 ID : t b R 4 o C X v E
最終直線に入ったぞ！

44 : 名なしの競馬民 ID : P m Q X x 2 n q e
ここでもイージーゴアは最後方やな、鞍上しっかりしてくれ。

45 : 名なしの競馬民 ID : u q y v B k L K L
いや待て、様子がおかしい。

46 : 名なしの競馬民 ID : Y a H O l U / 2 9
へ？

47 : 名なしの競馬民 ID : O p 2 s 3 e d t m
は？

48 : 名なしの競馬民 ID : i V C m x L i l n

なんか一頭だけ三倍速ぐらいしてないか!?

49 : 名なしの競馬民 ID : 5 Q F Q f q F b c
ヤベエ! ヤベエ速度で追い上げとる!

50 : 名なしの競馬民 ID : i + J B A v 9 G j
鞍上くんは呆然としとる……。

51 : 名なしの競馬民 ID : H l X j P W x R I
ヤバいつて! 明らかにヤバいつて!

52 : 名なしの競馬民 ID : o M + A t r 6 0 j
恐ろしすぎる……。

53 : 名なしの競馬民 ID : r S c k V d s t Y
先頭に立ったぞ!

54 : 名なしの競馬民 ID : U 5 Y T C Y R O R
差が開きまくつとる!?

55 : 名なしの競馬民 ID : Z f t K a 7 b 4 P
もう三馬身ぐらい開いてないか!?

56 : 名なしの競馬民 ID : O I D 8 d A C d s
後続の馬たちがビビつとる!

57 : 名なしの競馬民 ID : X 3 o r v f l w i
ヤバイよヤバイよ……。

58 : 名なしの競馬民 ID : i s 8 4 J 7 X O +
まだまだ突き放しているぞ!

59 : 名なしの競馬民 ID : w X W J h X g w V
他馬の鞍上たちが絶望してないか? これ。

60 : 名なしの競馬民 ID : l a w Z e H v u Q
そのままゴールイン! もう九馬身ぐらい開いてたぞ。

61 : 名なしの競馬民 ID : O l e U P Q + / P
ヒエツ……。

62 : 名なしの競馬民 ID : q G z y z M h h G
おつそろしい……。

63 : 名なしの競馬民 ID : a M C Z c A E W R
なんだろう、馬券は当たったけどさ、足が竦んで動かん。

64 : 名なしの競馬民 ID : / n Z j o n R P W
イージーゴア、ヤバいな……。

65 : 名なしの競馬民 ID : r m H S n f B 8 V
イージーゴアの鞍上、終始安心してたぞ。

66 : 名なしの競馬民 ID : r f 5 r l 5 l e 2
あんなんヤバすぎるだろ、ミスターシービー並かもしれん。

67 : 名なしの競馬民 ID : w d x Y l u W e a
最後方から一気に馬群をぶち抜くつて……。

68 : 名なしの競馬民 ID : x W e G S / J 6 J
ミスターシービーやぞ……あれ……。

69 : 名なしの競馬民 ID : t a W X R H j 5 S

外国産馬やからどちらかというダンシングブレーヴに近くね？

70 : 名なしの競馬民 ID : N 7 K d q E O z Z

もうなんだろう、ヤバかった。明らかに次元が違う。

71 : 名なしの競馬民 ID : 3 G d J Q u u 3 v

応援馬券が……焼き肉代になった……。

72 : 名なしの競馬民 ID : D W I x g A j V r

その金で焼き肉とは……いいな……。

73 : 名なしの競馬民 ID : t g i D 8 s s 4 3

かーっ！ あの馬が強すぎた！ 馬券は大外れや！

74 : 名なしの競馬民 ID : 9 K a L c H R v n

イージーゴアは三番人気だったからなあ。穴をそれなりに空けるで。

75 : 名なしの競馬民 ID : A D a 9 M 6 5 9 X

シービーや……ミスターシービー……。

76 : 名なしの競馬民 ID : H F 7 r g / g 6 z

だからダンシングブレーヴやろ。

77 : 名なしの競馬民 ID : T e f W 3 g L 2 x

いやいや、シービーや！

78 : 名なしの競馬民 ID : C O D f C f l H u

ダンシングブレーヴだって！

79 : 名なしの競馬民 ID : F o w X t v G u z
なんだこの争いは……。

80 : 名なしの競馬民 ID : W h f s B R s n p
わからん。

三代目ビッグレッド編 その二 函館二歳ステークス

121：名なしの競馬民

今日行われる函館二歳ステークスの有力馬を挙げてくれ。

122：名なしの競馬民

今のところは外国産馬・イージーゴアの一強。新馬戦を圧勝している。函館の洋芝が懸念事項だが、たぶん能力だけでゴリ押すと思う。けど出走間隔が相当短いから疲労が残っている可能性もある。

123：名なしの競馬民

やっぱりイージーゴアかあ……。

124：名なしの競馬民

なお、血統的には函館は相性最悪な模様。

125：名なしの競馬民

軸にするか迷うな……。

126：名なしの競馬民

函館以外だったら間違いない軸だったんだがなあ……。

127：名なしの競馬民

あと鞍上の不安も大きいな。

128：名なしの競馬民

柴の人の甥、はつきり言ってまだまだ発展途上なところがあるからなあ……。

129：名なしの競馬民

惨敗したらヨシトミー！ つて怒号を飛ばしたい案件ですわ。

130：名なしの競馬民

まあでも、柴の人の甥こと柴義富（しばよしとみ）騎手は「あの馬の特徴が徐々にだけど掴めてきたね。今度こそリュック状態じゃないよ」とコメントしているから、たぶん鞍上に不安はないと思う。

131：名なしの競馬民

せやろか……？

132：名なしの競馬民

本当に？

133：名なしの競馬民

大舞台で四着になってそうな気しかしませぬ。

134：名なしの競馬民

無理のない騎乗で掲示板入りしそうな雰囲気は漂うヨシトミ。

135：名なしの競馬民

大成したら、「先生」と呼ばれてそう。

136：名なしの競馬民

そろそろパドックのお時間よー！

137：名なしの競馬民

おっ、イージーゴアとヨシトミはだいぶ調子がよさそうだぞ！

138：名なしの競馬民

イージーゴアの毛艶よし！ ついでにヨシトミも堂々としていて

よし！

139：名なしの競馬民
これで四着になったらお家芸と揶揄するわ。

140：名なしの競馬民
やめて差し上げろ。

141：名なしの競馬民
ゲート入りはどうや？

142：名なしの競馬民
全く嫌がる様子なし。新馬戦の時以上にすんなりと入った。

143：名なしの競馬民
これは勝ったな。馬券買ってくる。

144：名なしの競馬民
フラグ建設はやめろオ！

145：名なしの競馬民
そろそろスタートの火蓋が切られるぞ……！

146：名なしの競馬民
一気にポンと飛び出たぞ！ イージーゴアは！

147：名なしの競馬民
スタートは完璧！ けどなぜか下げに下げまくってる！

148：名なしの競馬民
あー、なるほど。だいたいわかった。

149：名なしの競馬民
どした？

150：名なしの競馬民
どうした、急に。

151：名なしの競馬民
イージーゴアの脚質は追い込み。それ以外に考えられない。

152：名なしの競馬民
俺もだいたいわかったわ。

153：名なしの競馬民
イージーゴアは最後方につけたか。

154：名なしの競馬民
最終コーナーを回りました！ イージーゴアは未だに後方！

155：名なしの競馬民
アツ、ハイ。

156：名なしの競馬民
負けたな、馬券を散らしてくる。

157：名なしの競馬民
誰だよ、「だいたいわかった。脚質は追い込み」とか嘯いたもやしは。

158：名なしの競馬民
えっ、どしたどした？

159：名なしの競馬民

脚質が追い込みの馬は大抵最終コーナーでは中団に行くのよ、けどイージーゴアは最後方。だいたいわかったな？

160：名なしの競馬民

ヨシトミー！

161：名なしの競馬民

これは騎乗ミス……ん？ イージーゴアはどこにいる？

162：名なしの競馬民

先頭にいるぞ！

163：名なしの競馬民

なん……だと……。

164：名なしの競馬民

そのまま押し切った！ 一着！

165：名なしの競馬民

ちよつと待て、今のなに？

166：名なしのそこそこ競馬おじさん

そこそこの競馬おじさんが語るけどさ、たぶん、イージーゴアはダンスングブレーヴに匹敵するぐらいに速い。ダンスングブレーヴの凱旋門賞を観戦していた勢なんだが、そのダンスングブレーヴに重なって見えたどころか、ダンスングブレーヴを抜き去る幻が浮かんだわ。

167：名なしの競馬民

嘘だろ……。

168 : 名なしのそこそこ競馬おじさん

まあ、あくまで幻だから……。

169 : 名なしの競馬民

ヒエツ……。

170 : 名なしの競馬民

結論。イージーゴアは俺たちが思っている以上にヤバい馬なのかもしれない。

三代目ビッグレッド編 その三 ホープフルステークス（米）

1：名なしの競馬民

現在八月の五週目。緊急でスレ立てなう。

2：名なしの競馬民

どしたどした？ 何があった？

3：名なしの競馬民

なんや？ 早く聞かせてくれ。

4：名なしの競馬民

函館二歳ステークスを圧勝したイージーゴアが米国の二歳GIに挑戦するらしいぞ！

5：名なしの競馬民

ファー!?

6：名なしの競馬民

嘘やろ!?! マジで!?! ってか今!?!

7：名なしの競馬民

米国の二歳GI、さらに八月の五週目……ということとは、时期的にホープフルステークス（ダート1400）かな？

8：名なしの競馬民

ローテーションも公開されたよ。なんでも、ホープフルステークスからフロントランナーステークス（ダート1700）、最終的に大本命のBCジュヴェナイル（ダート1700）に挑むらしい。

9：名なしの競馬民

やっぱり大本命はBC（ブリーダーズカップ）よなあ。

10：名なしの競馬民

ってか全部ダートやん、いけるの？　これ。

11：名なしの競馬民

イージーゴアの血統と出身地を思い出せ。

12：名なしの競馬民

父アリダー、母リラクシング、母父バックパサー……やる？

13：名なしの競馬民

そのアリダーの主な勝ち鞍はトラヴァーズステークス（ダート2000）。あとはわかったな？

14：名なしの競馬民

あつ、わかっちゃった。勝利濃厚だな、これは。

15：名なしの競馬民

勝ったな、風呂入ってくる。

16：名なしの競馬民

距離不安もないし、ダートもいけるうえ、あの末脚の持ち主。勝ったな、ガハハハ！

17：名なしの競馬民

だが鞍上が……。

18：名なしの競馬民

鞍上さえ上手く手綱を握れていれば勝てるんじゃない？

19：名なしの競馬民

鞍上のヨシトミにとつてもこれがG I初制覇のチャンスやな。

20：名なしの競馬民

しかもそれが海外G Iとなると、かなりプレッシャーのかかるレースになるぞ。

21：名なしの競馬民

海外G Iを制覇した日本調教馬は一頭もないからなあ……。

22：名なしの競馬民

これに日本調教馬による海外G I初制覇も懸かっているのか、そりゃ楽しみだ。

23：名なしの競馬民

ヨシトミ、頼むよ、いってくれよ。

24：名なしの競馬民

ホープフルステークス（米）のパドックのお時間よー！

25：名なしの競馬民

頼む、頑張ってくれ、イージーゴア……！

26：名なしの競馬民

日本競馬を世界に羽ばたかせてくれ……！

27：名なしの競馬民

現地ではイージーゴアは二番人気。芝のレースしか走っていないのと、日本調教馬だかららしい……。

28：名なしの競馬民

完全に血統による人気だ、こりゃあ……。

29：名なしの競馬民

外国産馬だけど日本調教馬の底力を見せたれーっ！

30：名なしの競馬民

米国を震撼させたれーっ！

31：名なしの競馬民

イージーゴアの毛艶よし！ 入れ込んでいる様子なし！ いける

！

32：名なしの競馬民

そろそろゲート入りや。日本の競馬民としてドキドキしてきた

……。

33：名なしの競馬民

いつも通りゲートを嫌がる様子はないな。

34：名なしの競馬民

運命のスタート……。

35：名なしの競馬民

ホープフルステークス（米）、間もなく火蓋が切られる……！

36：名なしの競馬民

開いたっ！ イージーゴアはポンと飛び出たぞ！

37：名なしの競馬民

だけど飛び出たあとはヨシトミがイージーゴアを下げに下げまくる！

38：名なしの競馬民

完全に追い込む態勢だぞ!? この距離で大丈夫か!?

39：名なしの競馬民

日本のダンシングブレーヴやから大丈夫やろ！

40：名なしの競馬民

いや、そこはミスターシービーだろ！

41：名なしの競馬民

第一コーナーに差し掛かる！

42：名なしの競馬民

イージーゴアは未だに最後方！

43：名なしの競馬民

ヨシトミにも動きなし！

44：名なしの競馬民

つてかこれ、前が完全に塞がれてないか？

45：名なしの競馬民

あつ……。

46：名なしの競馬民

マジかよ……。

47：名なしの競馬民

位置取りもやや外だぞ!? 本当に大丈夫なん!?

48 : 名なしの競馬民
ヨシトミエ……。

49 : 名なしの競馬民
なんてことを……。

50 : 名なしの競馬民
これは……うん……。

51 : 名なしの競馬民
敗戦濃厚か……?

52 : 名なしの競馬民
そやな。でもまだ終わってはないで。

53 : 名なしの競馬民
最終コーナーに入った!

54 : 名なしの競馬民
おや、イージーゴアの様子が……。

55 : 名なしの競馬民
外へ外へと向かっていないか?

56 : 名なしの競馬民
まさか大外からまくるつもりか!?

57 : 名なしの競馬民
ヨシトミが鞭を振るつたぞ!

58：名なしの競馬民

ロケットみたいな加速してないか!?

59：名なしの競馬民

大外の最後方から押し上げてる!

60：名なしの競馬民

一気に先頭の馬も撫で切った!

61：名なしの競馬民

あの数秒間で!?! どこまで規格外なんや!?!

62：名なしの競馬民

まるでダンシングブレーヴだ……。

63：名なしの競馬民

砂のダンシングブレーヴ……。

64：名なしの競馬民

ミスターシービー派どこ……? ここ……?!

65：名なしの競馬民

薙刀のような切れ味を見せ、差し切ってゴールイン!

66：名なしの競馬民

うおおおお! やったぞおおおおッ!

67：名なしの競馬民

実況が「オーマイガー!」ばかり言っていて笑う。

68：名なしの競馬民

競馬場全体が静まり返っておる。

69：名なしの競馬民

日本調教馬による海外G I初勝利だ！

70：名なしの競馬民

着差はどれくらいや!?

71：名なしの競馬民

聞いて驚け。五馬身だ。

72：名なしの競馬民

あそこから五馬身も離れたのか!?

73：名なしの競馬民

うっそだろ……。

74：名なしの競馬民

普通の馬では無理やぞ、こんなん。

75：名なしの競馬民

イージーゴアはやっぱり規格外の馬だった。

76：名なしの競馬民

いやあ、強すぎる。

77：名なしの競馬民

これ、対抗馬とかいなくね？

78：名なしの競馬民

真面目にこいつ一強になりそう、米国と日本の競馬は。

79：名なしの競馬民

盛り上がり的には、ライバルがいてほしいけどなあ……。

80：名なしの競馬民

そうやなあ……。

81：名なしの競馬民

ってかイージーゴアから降りたヨシトミが男泣きしている！

82：名なしの競馬民

初GI勝利で、しかもそれが海外GIだったからなあ。泣くのも無理はない。

83：名なしの競馬民

知ってるか？ これ、大本命のBCジュヴェナイルじゃないんだぜ？

84：名なしの競馬民

確かに。フロントランナーステークスとBCジュヴェナイルはさらに激戦と化しそう。

85：名なしの競馬民

逆にフロントランナーステークスは回避馬が続出したりしそう。

86：名なしの競馬民

まあ、あんな競馬をする馬が出てきてはなあ。

87：名なしの競馬民

あり得ないことを本当にやってのけたからね。

88：名なしの競馬民

勝ったな、イージーゴアのファンになってくる。

89：名なしの競馬民

これはBCを貰ったで！

90：名なしの競馬民

せやせや！

三代目ビッグレッド編 その四 フロントランナー ステークス

2000：名なしの競馬民

やってきました、イージーゴアの米国でのレースの日が。フロントランナーステークスです！

2001：名なしの競馬民

イージーゴアは一番人気か！ まあ、前走のホープフルステークス（米）でのレース運びと結果を鑑みれば妥当だわな。

2002：名なしの競馬民

対抗馬いる？

2003：名なしの競馬民

どの馬も相手にならない、というのが総評みたい。

2004：名なしの競馬民

そのせいか、少し回避馬が多いな……。

2005：名なしの競馬民

十三頭だけだな、このレースは。

2006：名なしの競馬民

それでもセクレタリアトのベルモントステークスの状況にはほど遠いかあ。

2007：名なしの競馬民

あれ、もうほとんど単走みたいなものやからね。

208：名なしの競馬民

イージーゴアには、セクレタリアトみたいに米三冠馬になってほしい……。

209：名なしの競馬民

そこはイージーゴアがベルモントステークスを勝てるかどうかだな。距離の壁を越えられるか。

210：名なしの競馬民

そもそも米三冠の一冠目、ケンタッキーダービーが魔境すぎる件。

211：名なしの競馬民

それな。

212：名なしの競馬民

あれはアメリカ最高峰のレースのひとつであり、三歳馬最強を決める決定戦だからなあ……。

213：名なしの競馬民

ダービー馬のオーナーになるのは、一国の宰相になるよりも難しい定期。

214：名なしの競馬民

そういえばアメリカで思い出した。最近、ある零細血統の馬がかなり強い競馬を見せたらしいね。

215：名なしの競馬民

確か、名前はサンデーサイレンスだっけ？

216：名なしの競馬民

そそ。基本的には馬群の先団辺りにつけて、コーナーで一気に抜け

出すっていう競馬が得意な馬らしい。

217：名なしの競馬民

アメリカだと血統のせいであんまり注目されていないらしいな。

218：名なしの競馬民

ちなみにだが、そのサンデーサイレンス、次走はシャンペンステークス（ダート1600）らしい。

219：名なしの競馬民

うーん……ローテーション的にBCジュヴェナイル目当てか……？

220：名なしの競馬民

だったらイージーゴアとぶつかる可能性があるってことか！

221：名なしの競馬民

BCジュヴェナイルの見どころが増えそうだな。

222：名なしの競馬民

俺が見る限りだけど、案外、サンデーサイレンスはイージーゴアとかなりいい勝負をするかもしれない。

223：名なしの競馬民

現状の米国二歳馬最強はサンデーサイレンス？

224：名なしの競馬民

俺はそう考えている。米国は群雄割拠と見ているけど。

225：名なしの競馬民

そろそろパドックの時間よー！

226：名なしの競馬民

おっ、マジか！ 見なきや！

227：名なしの競馬民

今日のヨシトミはどういう手綱捌きを見せてくれるんや……？

228：名なしの競馬民

ヨシトミがんばえー！

229：名なしの競馬民

柴ア！ いけえーっ！

230：名なしの競馬民

ヨシトミー！

231：名なしの競馬民

ヨシトミ、ホンマに頑張れー！

232：名なしの競馬民

イージーゴアがゲートに……収まりました！

233：名なしの競馬民

静寂を引き裂くようにポンと飛び出た、イージーゴア！

234：名なしの競馬民

ロケットスタート！ やるやん、ヨシトミ！

235：名なしの競馬民

そのまま下がりにいくウ！

236：名なしの競馬民
ポツン騎乗やん！

237：名なしの競馬民
最後方にポツンとイージーゴア！

238：名なしの競馬民
第一コーナー！ 動きなし！

239：名なしの競馬民
まだ仕掛けるのには早すぎるからね。

240：名なしの競馬民
そのままレースを運んでいくウ！

241：名なしの競馬民
「さあさあ、最終直線手前！

242：名なしの競馬民
イージーゴアは未だに最後方だ！

243：名なしの競馬民
最終直線！ 最終直線に入る！

244：名なしの競馬民
イージーゴア、柴義富が仕掛けた！

245：名なしの競馬民
馬群を貫き、イージーゴア、先頭！

246：名なしの競馬民

引き離している！ さらに引き離している！

247：名なしの競馬民

ゴールイン！ イージーゴア、ぶつちぎり！

248：名なしの競馬民

ヨシトミ、いいぞ！ いい調子だ！

249：名なしの競馬民

GI連勝おめでとう！

250：名なしの競馬民

ただただイージーゴアが圧倒的なレースだった。

251：名なしの競馬民

強い！ 強い！ 強い！

252：名なしの競馬民

えーと、どうやら、イージーゴアは八馬身差ほど千切っていたそうです。

253：名なしの競馬民

知ってた。

254：名なしの競馬民

それ、誰も言わなくてもわかる。というかわかつちやう。

255：名なしの競馬民

安定の強さ。

256：名なしの競馬民

そういや、日本ではオグリキャップやスーパークレーク、イナリワ
ンなどが跋扈しているが、イージーゴアはこれらに勝てる？

257：名なしの競馬民

そこはやってみないと本当にわからない。

258：名なしの競馬民

今のような状態を維持していればいけるかもよ。

259：名なしの競馬民

オグリキャップ対イージーゴアとか見てみたいものだ……。

260：名なしの競馬民

俺はイージーゴアの馬券を買うぞ！

261：名なしの競馬民

んじやあ、俺はオグリ！

262：名なしの競馬民

やっぱりオグリつしよ。

263：名なしの競馬民

俺的にもオグリやな。

264：名なしの競馬民

相変わらずオグリの人気は凄いや。

265：名なしの競馬民

騎手も岳巧を始め、柴義富ら若手も活躍し始めているからなあ。

266：名なしの競馬民

若手騎手は岳巧、柴義富、田多信春（ただのぶはる）、山館映二（やまだてえいじ）、横浜典久（よこはまのりひさ）辺りが有力株やな。

267：名なしの競馬民

まあ、そんなところか。

268：名なしの競馬民

中堅だとの矢仁（まとやひとし）が上手くやっている印象。

269：名なしの競馬民

あの人、人気薄の穴馬を扱うのが本当に上手いからなあ。

270：名なしの競馬民

的矢は勝負師だから……。

271：名なしの競馬民

一方、岳は追わせたり先行させたりしたら強い印象。

272：名なしの競馬民

なお、追い込ませた場合。

273：名なしの競馬民

ノーコメントで……。

274：名なしの競馬民

逆に横浜は追い込ませたらかなりのものらしいな。

275：名なしの競馬民

たまに大外から追い込ませてくるから心臓に悪いわ。

276：名なしの競馬民

ホンマそれ。

277：名なしの競馬民

横浜はもう少し前につけてくれ……。

278：名なしの競馬民

田多？ あれは無難に直線で伸ばしてくる。

279：名なしの競馬民

田多エ……。

三代目ビッグレッド編 その五 BCジュヴェナイル

393：名なしの競馬民

いよいよですな……！

394：名なしの競馬民

日本競馬が世界へ挑戦だ……！

395：名なしの競馬民

イージーゴアとヨシトミ、頑張ってくれよ……！

396：名なしの競馬民

十月の五週目、BCジュヴェナイル、決戦の時は来た！

397：名なしの競馬民

ダート1700、天候は日が射していて、馬場はかなり良い状態と見受ける。

398：名なしの競馬民

今週行われる天皇賞（秋）もだけど、やっぱりこのレースも注目されているな。

399：名なしの競馬民

そりやそうよ！

400：名なしの競馬民

日本馬が世界のビッグタイトルのひとつに挑むんだからな！

401：名なしの競馬民

勝ってくれよ、イージーゴア。

402：名なしの競馬民
頑張れとしか言えないが、頑張ってくれー！

403：名なしの競馬民
世界に日本を刻んでやれ！

404：名なしの競馬民
一方、アメリカ側はGIチャンピオンステークスを快勝したサンデーサイレンスが大将格か？

405：名なしの競馬民
でもサンデーサイレンスは三番人気なんだよなあ。

406：名なしの競馬民
一番人気はイージーゴアか。こりやあ、気持ちいいね。

407：名なしの競馬民
血統的にも実績的にも一番手だからね。

408：名なしの競馬民
ホープフルステークス、フロントランナーステークスを最後方からまくりにまくって圧勝。まあ、一番人気は当たり前かもな。

409：名なしの競馬民
だがその分、マークも喰らう。鞍上のヨシトミがこの重圧に耐え切れるかの勝負でもある。

410：名なしの競馬民
まだまだ若手の騎手だから、ちよつと不安だ。

411：名なしの競馬民

いや、ヨシトミはイージーゴアと人馬一体。そんな重圧も跳ね退けるさ。

412：名なしの競馬民

今までずっと乗っているからな、ヨシトミは。

413：名なしの競馬民

ヨシトミ曰く「イージーゴアに乗っていると見える景色が全く違う。手綱を握り締めている腕も自然と軽いし。この馬には鞭はほとんど必要ないとも思えてきてしまう。さらにレースのさなかに、イージーゴアが『こう戦え。こう走らせろ。オレをもつと満足させろ』と訴えてきているような気がするんだ」とのこと。

414：名なしの競馬民

イージーゴアが戦闘狂みたいになっている件。

415：名なしの競馬民

ちなみに調教師は「底が一切見えない。本当に恐ろしいと感じるほどに強すぎる馬。あと大人しくていい」とコメント。

416：名なしの競馬民

ついでに厩務員が「大人しすぎて困ってるよ。レースではあんなに荒々しいのにね」と残している。

417：名なしの競馬民

イージーゴアさん、差が激しいのね……。

418：名なしの競馬民

なお、オーナーはどや顔で「どうよ！ 僕が買った馬は！ 強いだ

ろお!?! ついでに擬人化絵まだー!?!」と。

419 : 名なしの競馬民

まだ諦めていなかったのか。

420 : 名なしの競馬民

オーナーは自重して、どうぞ。

421 : 名なしの競馬民

やはり変態は変態だった……。

422 : 名なしの競馬民

そういや外国産馬で失念してたけれど、イージーゴアってけっこうでかいな。

423 : 名なしの競馬民

あれ、五百キロぐらいはあるらしいぞ。

424 : 名なしの競馬民

でっか!?!

425 : 名なしの競馬民

でかすぎ定期。

426 : 名なしの競馬民

その分、大外から勢いよく追い込むのもキツイ気がするんだがな……。

427 : 名なしの競馬民

ってかそろそろじゃない? パドック。

428：名なしの競馬民
おっ、マジで！

429：名なしの競馬民
中継は？　されてる？

430：名なしの競馬民
されてるぞー！

431：名なしの競馬民
パドックの時間をお知らせします。

432：名なしの競馬民
さて、対抗馬と見受けられるサンデーサイレンスは……内枠か。

433：名なしの競馬民
先行馬っぽいから有利な枠だな。

434：名なしの競馬民
黒毛が太陽の光を浴びて一層輝いている……。

435：名なしの競馬民
対する我がイージーゴアは？

436：名なしの競馬民
大外枠ですね、はい。

437：名なしの競馬民
最悪やん……。

438：名なしの競馬民

位置取りが重要になるな。ヨシトミ、頼むで。

439：名なしの競馬民

ゲートは……各馬順調な模様。

440：名なしの競馬民

開くぞ……開くぞ……。

441：名なしの競馬民

スタートしたッ！

442：名なしの競馬民

イージーゴアとサンデーサイレンス、共にロケットスタート！

443：名なしの競馬民

だがいつものようにイージーゴアが最後方へ！

444：名なしの競馬民

お決まりの位置や！

445：名なしの競馬民

敢えて最後方につけたことで内に行けたぞ！

446：名なしの競馬民

ドキドキしてきた……。

447：名なしの競馬民

第二コーナー、各馬に未だこれといった動きは……いや、イージーゴアが少し前に来ている！

448：名なしの競馬民

前へ前へ進んでいつているぞ!?

449：名なしの競馬民
掛かったか!?

450：名なしの競馬民
最終コーナーをカーブ！ イージーゴアが先頭に——いや、サンデーサイレンスが先に抜け出した！

451：名なしの競馬民
アカン、差せ！ 差せ！

452：名なしの競馬民
イージーゴアも迫ってきているが……残り百メートル！ これはかなり厳しい！

453：名なしの競馬民
ん？ ヨシトミが——鞭を振るった!?

454：名なしの競馬民
えっ、嘘やろ……。

455：名なしの競馬民
なんだよ、あの末脚は……。

456：名なしの競馬民
サンデーサイレンスを、瞬く間に躲した……。

457：名なしの競馬民
まるでイージーゴアだけが五倍速された映像みたいだ……。

458：名なしの競馬民

イージーゴア、一着！ イージーゴア、一着！

459：名なしの競馬民

競馬場が、静寂に包まれている……。

460：名なしの競馬民

そりゃあ、俺たちも信じられないし、見たことがないよ。あんな加
速は。

461：名なしの競馬民

竹を刀で斬り捨てるように、サンデーサイレンスを撫で切った
……。

462：名なしの競馬民

ヨシトミがひとつ指を立てているけど……あの鬼のような末脚が
衝撃的すぎて……。

463：名なしの競馬民

オーマイガーだぞ……。

464：名なしの競馬民

あんなのって、あり得るか？ 普通に……。

465：名なしの競馬民

叩き合うかと思いきや、するりと撫で切った……。

466：名なしの競馬民

恐ろしすぎる……。

467：名なしの競馬民

あれはまるで——鬼神だ。

三代目ビッグレッド編 幕間その一 手応え

——手応えが全く違う。イージーゴアの手綱を取る柴義富は、震える己が腕を一瞥し、そんなことを思う。

レースを勝利したあと、イージーゴアから降りて、ふと考える。

——トップジョッキーであり、皇帝の鞍上だった岡辺幸斗（おかべゆきと）でもなく、若手最有力候補の岳巧でもなく、ましてや自分の叔父で『追い込みの鬼』と呼ばれている柴政彦（しばまさひこ）でもなく、なぜ自分を乗せてくれているんだ？

それが、柴義富には不思議で堪らなかつた。

柴義富は若手だ。騎手生活を三、四年前から始めだした若手である。

競馬学校に在学していたときは、『天才』と持て囃され、騎手としての将来を期待されていた。

しかし、それでも若手は若手。そのような騎手にすぐさま有力馬が舞い込んでくるなんてこともなく、なんとか騎乗数と掲示板を確保して凌ぐ日々だ。

だが今はどうだ。初めてのGⅠタイトルを海外で奪取、柴義富にとつても考えられないような競馬でさらに海外GⅠ三連勝、そしてなにより——イージーゴアの存在だ。

あれに乗っているときの手応えが、他馬とは比べものにならないのだ。

イージーゴアが有力馬ということもあるだろうが、その手応えは恐らく一生に一度ぐらいしか感じられないようなものだ、なんとなくだが柴義富は直感している。

運命の馬に出会った、という騎手がよくいる。実際、その馬でGⅠを勝つ騎手も多い。

「……イージーゴアは、まさしく運命の馬ってか」

柴義富は、ふとイージーゴアを見やった。

調教師——深川にとって、イージーゴアは己が最後に手掛ける最高

の名馬だ。

深川はなんとなくだが察していた。自身の厩舎に、有力馬はもうほとんどいないことを。

さらに年齢的にも引退のタイムリミットは迫ってきている。だからこそ、深川は己の命を振り込んででもイージーゴアを名馬にする。預託されたときから、そう決意していた。

「勝ちましたね、BCジュヴェナイル」

涙腺が緩んで、目が潤んで、よく見えないなか、深川はイージーゴアのオーナーのほうを見向いて言う。

オーナーのほうも感極まったのか、涙を流していた。

「ええ……ええ！ 本当に、本当にありがとうございます！ 深川先生が調教してくださったおかげでもあります！」

「いえいえ、頭を上げてください。私の調教なんて微々たるものです。彼がこのBCジュヴェナイルを勝つのも必然だったのかもしれない」

深川は手で涙を拭い、一呼吸ののち、決心したように口を開く。

「オーナー、しばらく休養させたのち、弥生賞を叩いて皐月賞、それからだいたい変則的ではありますが、ケンタッキーダービー——つまりは、米三冠に挑んでみませんか？」

深川には、イージーゴアに対する絶対の自信と信頼があった。

三代目ビッグレッド編 その六 弥生賞

32：名なしの競馬民

三月の二週目。いよいよクラシックの幕開けよ。

33：名なしの競馬民

今週は桜花賞のトライアルレースのチューリップ賞と、皐月賞のトライアルレースの弥生賞があるね。

34：名なしの競馬民

それぞれのクラシックでの有力馬は？

35：名なしの競馬民

牝馬のクラシックは大混戦かな。本命にできるような馬が全くいない。

36：名なしの競馬民

なお、牝馬のクラシック。

37：名なしの競馬民

牝馬のクラシックだと一応ウイナーズサークル、オサイチジョージが有力候補だが、実際は完全に一強状態なんよな。

38：名なしの競馬民

その一強に勝てるような馬が今の日本のクラシックにいるかと思われる、いないとしか答えることができない……。

39：名なしの競馬民

イージーゴアだな、牝馬のクラシックの最有力馬は。

40：名なしの競馬民

実際、今こうして弥生賞に出走してくるわけだし。

41：名なしの競馬民

「弥生賞を勝ったら皐月賞に行きます」と陣営もコメントしてたからな。

42：名なしの競馬民

ここも圧勝してくるよな。

43：名なしの競馬民

距離不安がちよつと、といったぐらい。

44：名なしの競馬民

日本のホープフルステークス（芝2000メートル）を回避してそのまま休養に入ったからなあ。

45：名なしの競馬民

でも勝つやろ。

46：名なしの競馬民

あんな末脚を繰り出されたら堪らんて……。

47：名なしの競馬民

で、パドックでのイージーゴアの様子は？

48：名なしの競馬民

調子はかなりいい。ついでに鞍上のヨシトミも。

49：名なしの競馬民

調教師の深川は「2500メートルまでならイージーゴアにとっては射程圏内」だつて言ってたから、余裕だろうね。

50：名なしの競馬民

ってか皐月賞のあととはどのレースに出るんやろか。個人的にはケンタッキーダービーを含む米三冠に一票。

51：名なしの競馬民

まあ、BCジュヴェナイルを勝ったから日本ダービーは回避、米三冠ローテの可能性が高い。

52：名なしの競馬民

じゃあ、なんで皐月賞を目指してるんだ……？

53：名なしの競馬民

ケンタッキーダービーの距離と同じだからじゃね？ 馬場は全く違うけれど。

54：名なしの競馬民

やっぱりかあ……。

55：名なしの競馬民

おーい。もうすぐスタートだぞー！

56：名なしの競馬民

えっ、マジ!?

57：名なしの競馬民

スタートオ！

58：名なしの競馬民

イージーゴアはいつものようにロケットスタートからの最後方に下げて脚を溜める準備に入る！

59：名なしの競馬民

ハイハイ、イージーゴアの勝ち。

60：名なしの競馬民

あれ？ ウイナーズサークルやオサイチジョージといった有力候補は？

61：名なしの競馬民

奴らならイージーゴアを恐れてスプリングステークス（芝1800メートル）に行つたぞ。

62：名なしの競馬民

オーノー……。

63：名なしの競馬民

最終直線！ イージーゴアが大外から馬群を撫で切る！

64：名なしの競馬民

いつもの光景。

65：名なしの競馬民

知つてた光景。

66：名なしの競馬民

未来予知できた光景。

67：名なしの競馬民

そのまま押し切つてゴールイン！ 一番人気のイージーゴアが一着！

68：名なしの競馬民

ハイハイ。いつものいつもの。

69：名なしの競馬民

皐月賞でも一番人気だろうな。

70：名なしの競馬民

イージーゴアはマークしようにも最後方に下がるうえ、追い上げてくるときは大外から一気に来るから厳しいらしいね。

71：名なしの競馬民

的矢と岡辺キラーかな？

72：名なしの競馬民

勝つにはあの鬼神のような末脚から逃げ切るしかないという……。

73：名なしの競馬民

鬼畜定期。

74：名なしの競馬民

そういえば、いつかのときの柴政彦曰く、「あの鬼に勝てるかもしれないような馬は、逃げて差せる馬ぐらいしかないらしい」らしい。

75：名なしの競馬民

そんなにかよ……!?

76：名なしの競馬民

確かそれ、弥生賞前のインタビューよね？

77：名なしの競馬民

せやで。あそこまで弱気な政彦は初めて見た。

78：名なしの競馬民

逃げて差せる馬とかおる？

79：名なしの競馬民

いないので今のところイージーゴアが最強定期。

80：名なしの競馬民

デスヨネー。

81：名なしの競馬民

オグリなら……オグリならやってくれるかもしれない……。

三代目ビッグレッド編 その七 皐月賞

39：名なしの競馬民

あー……やっぱりか……。

40：名なしの競馬民

残念だけどそうよなあ……BCジュヴェナイルを勝ったしなあ……。

41：名なしの競馬民

どしたどした？

42：名なしの新聞民

【皐月賞後に米国へ】美浦の深川師、イージーゴアを再び米国へ羽ばたかせる。

皐月賞の三日ほど前、美浦の深川師が突如電撃発表。その内容は皐月賞を経たあと、ケンタッキーダービー——つまりは米三冠を目指すとのことだった。「だいぶ変則的ですよね」と苦笑しながらも、深川師は強い面持ちで「でもね、イージーゴアと柴義富くんは勝ってくれますよ。なんとたつて彼らは最高で最強のコンビですから」、そうコメントを残した。日本調教馬による米三冠への挑戦が今、幕を開ける。

43：名なしの競馬民

悲しいなあ。

44：名なしの競馬民

けどこれでケンタッキーダービーを獲れたら日本は沸くぞ。

45：名なしの競馬民

米国に目にももの見せてやれ！

46：名なしの競馬民
その前に皐月賞、な。

47：名なしの競馬民
アツ、ハイ。

48：名なしの競馬民
一番人気はもちろんイージーゴア、二番人気がスプリングステークスを辛勝したウイナーズサークルか。

49：名なしの競馬民
二番人気以下、全く相手にならない説。

50：名なしの競馬民
イージーゴアの単勝一択だな、悔しいが。

51：名なしの競馬民
そうやな、本当に悔しいが。

52：名なしの競馬民
お前らなあ……。

53：名なしの競馬民
皐月賞はイージーゴアの独走！ つてメディアも報じているからな。

54：名なしの競馬民
だけど日本ダービーは目指さない。つまりは三冠馬の夢がない。

55：名なしの競馬民
確かに、そこは悔しい部分だな……。

56：名なしの競馬民

案外わからんかもよ？ ほら、パドックを覗いてみ？

57：名なしの競馬民

あつ……。

58：名なしの競馬民

深川はいつたいどうしたんだ……。

59：名なしの競馬民

イージーゴアの調子が悪そう……。

60：名なしの競馬民

いつもよりハキハキしていない……。

61：名なしの競馬民

足取りがゆったりとしておるわ、これはアカン。

62：名なしの競馬民

いつもより重そうだぞ、脚が。

63：名なしの競馬民

ちよつとだけわからなくなってきたで。

64：名なしの競馬民

波乱の予感……。

65：名なしの競馬民

やめてくれ、俺の三万が飛ぶ。

66：名なしの競馬民

三万兄貴は成仏して……。

67：名なしの競馬民

お祈りしかねえ……。

68：名なしの競馬民

ゲート入り。案外すんなりとイージーゴアは入りました。

69：名なしの競馬民

ターフが熱気で揺れているように見える……。

70：名なしの競馬民

スタートした……って、イージーゴアは出遅れてるし!?

71：名なしの競馬民

終わった……イージーゴアの伝説は終わった……。

72：名なしの競馬民

ヨシトミの顔がこちらからでもわかるぐらいに青くなってる。

73：名なしの競馬民

これ、もう勝てないやろ。出遅れたし。前もほぼ塞がったし。

74：名なしの競馬民

ん？ イージーゴアが上がってきている……!?

75：名なしの競馬民

暴走してる、だと……!?

76：名なしの競馬民

負けたな、これは……。

77：名なしの競馬民

最終直線に入るッ！ イージーゴアは先行馬の位置にッ！

78：名なしの競馬民

ヨシトミ……お前はよく頑張ったよ……。

79：名なしの競馬民

おやおやおや……イージーゴアが加速していますよ……。

80：名なしの競馬民

ファー!?

81：名なしの競馬民

あまり負けそうだと言うなよ——オレが勝つぞ。なんてイージーゴアが思っそう。

82：名なしの競馬民

三馬身ほど差をつけて先頭だ！

83：名なしの競馬民

これは決まったアアアアッ！

84：名なしの競馬民

ゴールインッ！ 一着は一番人気のイージーゴア！

85：名なしの競馬民

三万兄貴、よかったな。お前の判断は正しかった。

86：名なしの競馬民

暴走気味だったのに勝ったよ……。

87：名なしの競馬民
ケンタツキードービーやね。

88：名なしの競馬民
勝てるで、これは。

89：名なしの競馬民
我らの海外への夢をツ！ イージーゴアへとツ！ 託そうツ！

90：名なしの競馬民
ファイター！

91：名なしの競馬民
ヨシトミー！ いったれーツ！

92：名なしの競馬民
我らの熱を送るツ！

93：名なしの競馬民
逆に調子下がりそう。

幕間・幼駒編 蝶のように舞う子馬

イージーゴアが米国へ旅立つ二週間前。四月の四週目。桜花賞、皐月賞というクラシックの二冠目が終わりを告げたあとの頃。

「これはこれは。オーナー、イージーゴアの走り、圧巻でしたよ。もしやまたあの一歳馬を目当てに来ましたね？」

太めの眉を八の字に緩ませて、ハハハと笑いながら歓迎する男は、牧場長の榎田友彦（かしだともひこ）。目の前にいるオーナーにずいと顔を押し出し、突然剣幕が張られた顔に豹変する。

「それがですね！ 凄いですよ！ いや、本当に！ 詳しくは向かいながらお話します！」

「は、はあ……」

榎田の勢いに完全に気圧されたオーナーは、自分以上の変人を横目に、預託したある一歳馬の話に聞き入ることにした。

「——それですね！ 柵は飛び越えるわ、同世代のリーダーになるわ、さらに追おうにもすばしっこくてこちらの馬がバテてしまうのですよ！ やっぱりヤバイですわ、あの一歳馬は！」

全くといっていいほど間を空けない榎田の話が一段落したとき、ちようどよくオーナーの目当てである一歳馬のもとに辿り着く。

一歳馬はびよんぴよんと跳ねながらオーナーに近づいてくる。

「あつ、危ないですよ」

榎田が急に真顔になった直後、急に一歳馬が柵を飛び越え、オーナーの腹部に突進してきた。

「ぐふう!？」

「お、オーナー!？」

「だ、大丈夫だ。も、問題ない」

オーナーは腹を抑え、声を震わせながらも、一歳馬に「よしよし。ありがとうな、覚えていてくれて」と手を伸ばし、頭を撫でる。

「流石オーナー、頑丈ですね」

「これも若さよ」

「その一言は五十代であるわたしを敵に回す気ですか？」

「よう、五十代独身。魔法使いを超えた大賢者」

「むぐぐ」と悔しそうに口をもごもごと動かす榎田。だがすぐに本題を思い出し、一歳馬を見やる。

「この子は賢いうえに人懐っこいのですよ。本当に可愛い子馬です。それに——」

「それに……？」

「この子の瞬発力はかなりのものです。それこそ、以前こちらに預託していただいたイージーゴア並——いえ、それ以上に。まあ、芝に限るという枕詞はありますが」

オーナーは口をあんぐりと開き、肩を震えさせる。

——まさか、この変人にそこまで言わせるなんて。

「……それは、本当か？」

「ええ、本当です」

聞き返すと、榎田は一秒の間もないうちに答えた。

ふとオーナーが見やると、目の前にいる一歳馬の脚に雷が纏っているように幻視した。

と、そんなとき。一歳馬が唐突にオーナーから距離を置いて。

「……なんだか、踊ってんな」

「踊ってますね、可愛い」

くるりくるりと回り、手足をゆらりと動かす一歳馬。

「——よし！ 決めた！ この馬の名前を！」

「そういえばこの子馬って、欧州から輸入したんですっけ？」

「ああ、そうだが……？」

「欧州っぽい名前、頼みますよ」

「俺をなんだと思ってんだ大賢者、この馬の名前はな——、

——スワーヴダンサーだ」

三代目ビッグレッド編 その八 ケンタツキダー
ビー

1：名なしの競馬民
五月の二週目だがスレ立て。

2：名なしの競馬民
わかるぞ？ 主題はケンタツキダービーだろ？

3：名なしの競馬民
なぜわかった。

4：名なしの競馬民
そりゃあ、ケンタツキダービーに日本の有力馬が出走するから
ねえ！

5：名なしの競馬民
外国産馬・イージーゴア。主戦騎手は若手の柴義富。調教師はミホ
シンザンを手掛けた深川勇二（ふかがわゆうじ）。

6：名なしの競馬民
ミホシンザンの無念を晴らすような快進撃を遂げているな、深川
は。

7：名なしの競馬民
何気にヨシトミもミホシンザンの主戦騎手だった柴政彦の甥だし。

8：名なしの競馬民
……ミホシンザン関連多くね？

9：名なしの競馬民
よく考えれば確かに。

10：名なしの競馬民
ちなみにイージーゴアのオーナーが好きな馬はミスターシービーらしい。

11：名なしの競馬民
ミホシンザンエ……。

12：名なしの競馬民
そこはミホシンザンやろ。

13：名なしの競馬民
じゃあ、イージーゴアがもしも米三冠馬となったら、『ダートのシービー』と呼ばないか？ 最後方からの疾風のような追い上げもシービーを彷彿とさせるし。

14：名なしの競馬民
いいな、それ！

15：名なしの競馬民
イージーゴアに失礼な気もするけどね。

16：名なしの競馬民
最後方、さらには大外からのまくりはシービーのようだからな。

17：名なしの競馬民
さらにシービーは三冠馬。シービーを彷彿とさせる競馬をするイージーゴアにシービーを重ねて見てしまうファンも多いはず。

18：名なしの競馬民
しかもそれが三冠馬となれば、『ダートのシービー』と騒がれるわな。

19：名なしの競馬民
そのためにはまず、米一冠目のケンタッキーダービーを勝ち抜いてほしいところ。

20：名なしの競馬民
勝算は？

21：名なしの競馬民
七割。BCジュヴェナイルで有力馬のサンデーサイレンスに勝っているから、かなり厚い。でもそこそこ厳しい。

22：名なしの競馬民
そのサンデーサイレンスはGIフロリダダービー(ダート1800m)とGIアーカンソーダービー(ダート1800m)を連勝して勢いづいている模様。

23：名なしの競馬民
うーん……勢いはサンデーサイレンスも負けてないか。

24：名なしの競馬民
しかも今週のケンタッキーダービーにも出てくるからね。

25：名なしの競馬民
だけどイージーゴアはそのサンデーサイレンスに圧勝しているからなあ。

26：名なしの競馬民

イージーゴアに分があるかな。

27：名なしの競馬民

ここは日本馬としてイージーゴアに勝ってほしい。

28：名なしの競馬民

負けるなー！ 勝ってくれー！

29：名なしの競馬民

そろそろパドックの時間よー！

30：名なしの競馬民

そして忘れ去られた日本の三歳マイルGI。

31：名なしの競馬民

Oh……。

32：名なしの競馬民

またもや内枠にサンデーがいるな。

33：名なしの競馬民

BCジュヴェナイルと同じような枠だな。

34：名なしの競馬民

イージーゴアは……また大外かよ!?

35：名なしの競馬民

これは酷い。

36：名なしの競馬民

イージーゴア、米国に遠征するとほとんどの確率で大外枠な件。

37：名なしの競馬民

コーナーを曲がるときのスタミナのロスは防げないやろうなあ……。

38：名なしの競馬民

最後方に下がってからの最終直線でまくりにまくる戦法がどこまで通用するか。それがイージーゴアにとっての勝負だ。

39：名なしの競馬民

スローペースにされると間違いなく詰む戦法じゃね？

40：名なしの競馬民

あと大逃げ。

41：名なしの競馬民

厳しい戦いだけどサンデーサイレンスに勝ったんや！ やってみせてくれ！

42：名なしの競馬民

ゲート入りのお時間をお伝えします。

43：名なしの競馬民

サンデーサイレンス、イージーゴア、各馬順調にゲート入り。

44：名なしの競馬民

いけ……いってくれっ……。

45：名なしの競馬民

ケンタッキーダービー………スタートしました！

46：名なしの競馬民

イージーゴアとサンデーサイレンスが共にポンと飛び出て、そのまま……なんと競り合う形で先団につく!?

47：名なしの競馬民

嘘やろ!?

48：名なしの競馬民

先行か!

49：名なしの競馬民

もう競り合うの!?! スタミナは大丈夫!?!

50：名なしの競馬民

残り1200mで……ここでイージーゴアが下がったア!?!

51：名なしの競馬民

後退!?!

52：名なしの競馬民

瞬く間に最後方にいったぞ。本当に勝てるか、これ?

53：名なしの競馬民

あり得ない騎乗だな……ヨシトミ……。

54：名なしの競馬民

残り600m……展開にまだ動きなし! しかしややペースが早い!
い!

55：名なしの競馬民

嘘やろ、イージーゴアの陣営はこれを狙っていたのか……。

56：名なしの競馬民
どうした、急に。

57：名なしの競馬民
先頭見てみ？

58：名なしの競馬民
サンデーサイレンスが先頭！ だけど様子がおかしい！

59：名なしの競馬民
掛かっている！

60：名なしの競馬民
さっきのロケットスタートでサンデーに並びかけ、サンデーの気性を荒ぶらせたのよ。

61：名なしの競馬民
だけどそれ、気性がわかってないといけない芸当だが……。

62：名なしの競馬民
ヨシトミは恐らく、BCジュヴェナイルでサンデーと戦ったときに気づいたのだと思う。BCジュヴェナイルの映像をよく見てみ。サンデーサイレンスがロケットスタートを決めたと同時に上がろうとしていったところがある。

63：名なしの競馬民
ヨシトミはあれだけでサンデーを掌で踊らせたのかよ……!?

64：名なしの競馬民
サンデーサイレンスの気性がかなり激しいことを見抜く力が凄い

よ……。

65：名なしの競馬民

このままだッ！ このままいけッ！

66：名なしの競馬民

残り400m！ サンデーサイレンスがややバテてきた一方、イー
ジーゴアが大外に！

67：名なしの競馬民

イージーゴアが各馬をバツバツと切り捨てていく！

68：名なしの競馬民

九馬身も離れた！

69：名なしの競馬民

本当にヤベエな！ いけるぞ！

70：名なしの競馬民

イージーゴア、十一馬身離してゴールイン！ 有力馬のサンデーサ
イレンスは四着！

71：名なしの競馬民

やった！ やったぞ！

72：名なしの競馬民

常識どころか既成概念すら作戦で越えてくる名馬……。

73：名なしの競馬民

ただどよく持ったよね、サンデーサイレンスと競り合ったのに。

74：名なしの競馬民

そこは最後方に下げたのもあったね。

75：名なしの競馬民

短時間で脚を溜めれるイージーゴアもヤバいけど。

76：名なしの競馬民

ヨシトミ、ヤベー奴だった。

77：名なしの競馬民

普通ならあり得ない騎乗よな。

78：名なしの競馬民

ケンタツキーダービー制覇！ おめでとう！

79：名なしの競馬民

次走はブリークネスステークス（ダート1900m）やな。

80：名なしの競馬民

米一冠目、日本がゲットだぜ！

三代目ビッグレッド編 その九 プリークネスステークス

165：名なしの競馬民

米二冠目、プリークネスステークス。過去の例を鑑みればケンタッキーダービーを制した馬の多くがここも勝っている。

166：名なしの競馬民

プリークネスステークスは競馬場は違えど、だいたいケンタッキーダービーのようなものだからね。

167：名なしの競馬民

ここでの一番人気はイージーゴア。まあ、ケンタツキーダービーを十馬身以上も離して勝ったからな。

168：名なしの競馬民

サンデーサイレンスは前走での暴走もあつて一気に五番人気に落ちてるな。

169：名なしの競馬民

でもたぶん、今回は暴走しないよ。恐らくあの先行への対策もしているだろうし。

170：名なしの競馬民

あとイージーゴアの得意技であるロケットスタートと怒涛の追い込みへの対策も各陣営ごとにできているらしい。

171：名なしの競馬民

見事にイージーゴア包围網ができあがったな……。

172：名なしの競馬民
これを突き破れるかどうか……。

173：名なしの競馬民
勝つよ、イージーゴアは。

174：名なしの競馬民
どうした、急に。

175：名なしの競馬民
あの馬ならやってくれる。そう信じるしかない。

176：名なしの競馬民
日本代表としてケンタッキーダービーを掴み取ってくれた優勝だからな。応援するほかないわな。

177：名なしの競馬民
馬券を買えないのが残念。

178：名なしの競馬民
馬券はぜひとも買ったかった……。

179：名なしの競馬民
パドックタイム！

180：名なしの競馬民
相変わらず雄大な馬格をしておるわ、此奴め。ハハハ。

181：名なしの競馬民
げえっ、イージーゴア！

182：名なしの競馬民
お前らはなにやつとんねん……。

183：名なしの競馬民
イージーゴアの状態は言わずとももうわかるな？

184：名なしの競馬民
おうさ！ 絶好調なんだろう！

185：名なしの競馬民
その通り！

186：名なしの競馬民
やったぜ。

187：名なしの競馬民
こりやあレースが楽しみ。

188：名なしの競馬民
今日はこういう競馬をしてくれるんだろう。

189：名なしの競馬民
ヨシトミガンバレー！

190：名なしの競馬民
各馬、本馬場入場！

191：名なしの競馬民
ゆつたりとゲートに収まっていく！

192：名なしの競馬民

ホント、イージーゴアはゲートを嫌がらんよね。

193：名なしの競馬民
不思議な馬だわ……。

194：名なしの競馬民
スタートオツ！

195：名なしの競馬民
おやおや、イージーゴアは平凡なスタート。一方、サンデーサイレンスはロケットスタートですねえ。

196：名なしの競馬民
なるほど、ロケットスタートを敢えて決めさせなかったか。

197：名なしの競馬民
そう来るとなると……。

198：名なしの競馬民
包囲網に真っ向から突っ込む気だな、イージーゴア陣営は。

199：名なしの競馬民
イージーゴアは最後方ではなくまさかの馬群に呑まれての後方、最悪な位置についた！

200：名なしの競馬民
内はやや確保できたけど圧倒的に不利だわ……。

201：名なしの競馬民
逃げ馬を眺めるようにサンデーサイレンスは先団。

202：名なしの競馬民

位置取りもやや内。イージーゴアのやや内側に寄った。

203：名なしの競馬民

イージーゴアとサンデーサイレンスの距離は五馬身開いている……。

204：名なしの競馬民

残り800m！

205：名なしの競馬民

イージーゴアは完全に包囲されているが……大丈夫か!? いや、こ
んなの抜け出せる馬はいるのか!?

206：名なしの競馬民

最内に追い詰められている……。

207：名なしの競馬民

ヨシトミの表情に焦りが滲み出てきたぞ……。

208：名なしの競馬民

残り400m！ イージーゴアは未だ後方！ サンデーサイレン
スは先頭に立った！

209：名なしの競馬民

残り300mのところまで……ヨシトミが鞭を振るった！

210：名なしの競馬民

鞭を振るったか！

211：名なしの競馬民

残り200mの最終直線に入ったと同時に、イージーゴアが馬群を貫いた！

212：名なしの競馬民
割れるように一瞬開いた内を通ったア!?

213：名なしの競馬民
しかしサンデーサイレンスとの距離は三馬身！ これは流石に届かないか!?

214：名なしの競馬民
いや、ヨシトミがまた鞭を振るって……。

215：名なしの競馬民
さらに加速した！ だけどサンデーサイレンスも負けじと粘る！

216：名なしの競馬民
叩き合いにもつれ込んだぞ！

217：名なしの競馬民
イージーゴアとサンデーサイレンスの追い比べ！

218：名なしの競馬民
手綱を押して押して押しまくるヨシトミ！ 互いに順位はわからないほどに並んでいるツ！

219：名なしの競馬民
そのまま並んでゴールインツ！

220：名なしの競馬民
どっちだ!?! どっちだ!?!

221 : 名なしの競馬民
写真判定らしい……。

222 : 名なしの競馬民
どうやどうや!?

223 : 名なしの競馬民
頼む！ 頼むッ！

224 : 名なしの競馬民
発表され……。

225 : 名なしの競馬民
おお、そう……か……。

226 : 名なしの競馬民
どしたん!?

227 : 名なしの競馬民
イージーゴアは……。

228 : 名なしの競馬民
なあ……。

229 : 名なしの競馬民
ハナ差の、二着や……。

三代目ビッグレッド編 幕間その二 三冠という夢

——イージーゴアが、敗れた。

鞍上の柴義富は、信じられないという表情でイージーゴアから降りる。

「……………」

ただ何も言わず、イージーゴアの頭をそつと撫でる。

しかし撫でていないほうの左腕は、悔しさのあまり震えていた。

イージーゴアはそんな義富を、目を細めて見つめる。それから小さくぶるる、と嘶く。

それが義富には『レース内容は悪くなかったぞ。次こそあのいけ好かない黒毛に先着してやろう』と励ましてくれているようではなかった。

「ありがとうな、イージーゴア」

義富の口から自然とそんな言葉が零れる。イージーゴアも応えるように小さく頷く。

すう、と息を吸って、落ち着いた眼差しで義富は言う。

「俺はお前という名馬に恥じないような、そんな騎手になるよ。だから、いつでも見守っていてくれ。」

いついかなるレース、馬であっても、必ず力を引き出して勝たせる。そんな騎手になりたい、いや、なるんだ。だからな、イージーゴア——

——お前に乗った俺を超える、超えてみせる。それでお前の一步先に行つて、こう言つてやるよ。『俺は待ってるぜ』ってな」

それはまさしくイージーゴアに対する、義富なりの誓い。

イージーゴアは義富に接触するギリギリまで顔を近づけて、足を二度踏み鳴らす。

——『やれるものならやってみせろツ、ヨシトミツ！』

馬の声などわからないはずなのに、義富にはそのように聞こえた。

「ハハッ、ありがとうな、イージーゴア。そのためにはまずお前を勝たせてからだ」

ぶるる、とイージーゴアは応えた。

「――義富」

落ち着いていて、けれど震えている声で――調教師の深川勇二がひとり頭の前に立つ。

それを察したのか、義富は真剣な眼差しで深川の目に視線を定める。

「本当にすみません。次こそは勝ちます」

「ああ、わかっている。次は勝ってくれ。ちなみに、イージーゴアの次走はもちろん、ベルモントステークスだ」

「……なるほど、米二冠を獲りにいくのですね」

「そうや。鞍上は義富、お前しかおらん。だからな、次は本当に頼む」

「……わかりました」

深川は心底悔しがっていた。この場では堪えているのだろうが、腕が震えていたのが義富には見てとれた。

義富に背を向けて去る姿は、まさに夢が破れた男の、悲しきそれだった。

「……深川先生」

ぼつりと悲しき男の名を呟く。

「あの人は二度も、夢が破れてしまったか」

――一度目はミホシンザンという馬を調教していたとき。その馬は皐月賞を圧勝し、三冠は間違いないと確実視されていたさなかに骨折。二冠目の日本ダービーへの出走を断念せざるを得なかった。

――二度目は今、このとき。米三冠を余裕で獲れるほどの実力を持ったイージーゴアが、米二冠目のプリークネスステークスで惜敗。

「……あの人は幾度も、三冠への夢が阻まれてしまっているな……」

どこか悲しげな表情で義富は言う。

と、そんなとき――。

「……どうした？」

イージーゴアが目で義富に訴える。その瞳には、確かな闘志の炎が滾っていた。

「わかった、やってやろう。出るレース全部勝ってやろうぜ」

義富はイージーゴアの頭をポンと撫でた。

三代目ビッグレッド編 その十 ベルモントステークス

301：名なしの競馬民

今年の日本ダービーははつきり言つて地味すぎたな……。

302：名なしの競馬民

勝ち馬はウイナーズサークルかあ。

303：名なしの競馬民

イージーゴアの皐月賞とケンタッキーダービーでの走りが衝撃的すぎたのが悪い。

304：名なしの競馬民

そのイージーゴアも米三冠、正確には二冠目を僅差で逃してしまふし……。

305：名なしの競馬民

あれは本当に惜しかった。

306：名なしの競馬民

包围を喰らっていたとはいえ、あそこであんな凄まじい末脚を披露しても差せなかった……。

307：名なしの競馬民

必死に抜け出してからの怒涛の追い込みは本当に評価できる。

308：名なしの競馬民

絶望的な局面でも写真判定までもつれ込ませた怪物。

309：名なしの競馬民

凱旋門賞でのダンシングブレーヴ以上の末脚で追い上げても勝てない。世界は広い……。

310：名なしの競馬民

一方で、そのイージーゴアを負かしたサンデーサイレンスの国内での評価はかなり上がったらしいぞ。

311：名なしの競馬民

あんな怪物みたいな日本からの刺客を破ったんだからな。

312：名なしの競馬民

でも血統的に種牡馬としては全く期待されていない模様。

313：名なしの競馬民

これはイージーゴアが日本で種牡馬としても猛威を振るうのですね、わかります。

314：名なしの競馬民

血統的には完全にダートだけだな……。

315：名なしの競馬民

父アリダー、母リラクシング、母父バックパサー。今考えてもよくこんな良血馬を輸入できたな。

316：名なしの競馬民

変態は人脈も変態説。

317：名なしの競馬民

ってか、イージーゴアの勝鞍を思い出せ。

318：名なしの競馬民

ケンタツキードービー、BCジュヴェナイル、皐月賞、ホープフルステークス（米）……あら？ 芝のレースもけっこう勝ってるぞ。

319：名なしの競馬民

新馬戦も芝だったね、そういえば。

320：名なしの競馬民

イージーゴア、両刀説。

321：名なしの競馬民

オーナーも変態なら馬も変態なんだな。

322：名なしの競馬民

イージーゴアくんは変態だった……？

323：名なしの競馬民

話をぶった切るけど、その変態は今、ベルモントステークス（ダート2400m）に挑もうとしているらしいね。

324：名なしの競馬民

まあ、ここは余裕やろ。

325：名なしの競馬民

「イージーゴアは2500mまでならいける！」と陣営も主張しているからな。

326：名なしの競馬民

ヨユーヨユー。

327：名なしの競馬民

敗北フラグが立っているのは気のせいかな？

328：名なしの競馬民

大丈夫や。イージーゴアならそんなものを叩き折ってくれる。

329：名なしの競馬民

そういや、オグリキャップの調教師がイージーゴアのことをどこかで評価していたような。

330：名なしの競馬民

「本当は認めたくないが、ダートに限ればオグリキャップどころか自分が今まで見てきたどの馬よりも遥かに格上。でも芝だったら勝算はある」とかコメントしてたな。

331：名なしの競馬民

やっぱりダート馬やんけ。

332：名なしの競馬民

ついでに岳巧曰く、「ダートなら世界最強だし、日本競馬史上最強の五本指に入ると思う。あれに乗れる義富さんが羨ましい」と。

333：名なしの競馬民

大きくコメントしたな、この若手騎手は。

334：名なしの競馬民

そんな最強は、ベルモントステークスで改めて最強を示せるかな？

335：名なしの競馬民

パドックのお時間をお伝えするマン。

336：名なしの競馬民

イージーゴアは相変わらず運がないね。大外だわ。

337：名なしの競馬民
まあ、いけるいける。

338：名なしの競馬民
一番人気はイージーゴア。二番人気はサンデーサイレンス。距離不安であり差はない感じ。

339：名なしの競馬民
ゲート入りの時間だー！

340：名なしの競馬民
各馬、ゲート入りは順調な様子。

341：名なしの競馬民
米二冠……米二冠……。

342：名なしの競馬民
スタートの火蓋が切られたツ！ サンデーサイレンスが大きく出遅れた様子ツ！

343：名なしの競馬民
イージーゴア、サンデーサイレンスが共に最後方！

344：名なしの競馬民
勝ったな、うん、勝った。

345：名なしの競馬民
おっと、サンデーサイレンスが少し無理矢理だが上がっていく！

346：名なしの競馬民

言つては悪いが、勝敗は決したな。

347：名なしの競馬民

最終直線ッ！ サンデーサイレンスはスタミナ切れであまり伸びないッ！

348：名なしの競馬民

イージーゴアの伸び足がいい！ 大外一気にスタミナ切れした馬たちを躲した！

349：名なしの競馬民

サンデーサイレンスは二着争い！ イージーゴアが既に十三馬身も離しているッ！

350：名なしの競馬民

さらに引き離すッ！

351：名なしの競馬民

これはどこまで伸びるんだ!?

352：名なしの競馬民

そのまま押し切つてのゴールインッ！

353：名なしの競馬民

何馬身だ!?! 何馬身離れたんだ!?! まさに怪物、名剣以上の切れ味ッ！ アメリカよ、これこそが紅蓮の怪物だッ！

354：名なしの競馬民

ちなみに差は十九馬身の模様。

355：名なしの競馬民
嘘やろ……。

356：名なしの競馬民
嘘でしょ……。

357：名なしの競馬民
こりやあ、『紅蓮の怪物』ですわ。

358：名なしの競馬民
栗毛が赤く見えるから『紅蓮の怪物』やな。

359：名なしの競馬民
不利なしのこいつにダートで勝てる馬とかおる？

360：名なしの競馬民
いるとしたら、セクレタリアトぐらいだな。

361：名なしの競馬民
それぐらいやろうな……。

362：名なしの競馬民
ヨシトミもよく頑張った、お疲れ様や。

363：名なしの競馬民
次走はどう？

364：名なしの競馬民
どうやら一旦帰国。しばらくの休養を経てトラヴァースステークスに出走する予定らしい。

365：名なしの競馬民

ローテーション的には、そこからG Iジョッキークラブゴールドカップ（ダート2000m）を叩いて、BCクラシックに挑むつもりか。

366：名なしの競馬民

とりあえず、盛大に祝おうぜ。米二冠馬の誕生を。

367：名なしの競馬民

イージーゴア、ありがとう！

368：名なしの競馬民

ヨシトミもお疲れー！

369：名なしの競馬民

日本競馬が世界に認められそうやな。

370：名なしの競馬民

イージーゴアのおかげだぞ、本当に。

赤毛の巨躯が音速に等しい末脚で、二頭を瞬く間に抜き去った。

『ここで一番人気——セクレタリアトが先頭に躍り出たッ！ まだ800mもあるぞ！』

今、この瞬間——義富は確信した。してしまった。あれに手も足も出ずに負ける、と。

だが、だからこそ、だからこそだ。

義富は知っている。窮地に陥れば陥るほど、イージーゴアは強くなる。

今までで一番力強く、鞭を三度振るう。

「なあ、イージーゴア！ 楽しいなあー！」

イージーゴアが、一瞬でアメリカカンファラオ、ジャステイファイを躲す。

「俺もこういう窮地では、勝たせ甲斐があるって——もんよッ！」

もうわけもわからず、ただがむしやらに手綱を押し上げる。

『おっと?! イージーゴアが疾風のように加速、怒涛の豪脚でセクレタリアトに迫る！ 残り200m！ イージーゴアとセクレタリアトとの差は二馬身ほど！ 残り50m——並んだ並んだッ！ 二頭並んでゴールインッ！』

義富は左手を挙げて、ガッツポーズを取る。

と、そんなとき。

空が、ダートが、ガラスのようにひび割れていく。

しかし義富とイージーゴアは至って冷静に、赤毛の馬——セクレタリアトのほうを見向く。

——夢とはいえ、楽しかったぞ！ 誇れッ、お前たちは伝説に並んだッ！

セクレタリアトが天に嘶く。それと同時に、世界は砕け散った。

「——ハッ!?!」

義富は冷や汗を拭いながら、目を覚ます。

起き上がって、手を握ったり開いたりしてみる。
「……夢、か？」
しかしその手は、どこか一段と力強かった。

三代目ビッグレッド編 その十一 トラヴァーズ
テークス

501：名なしの競馬民

夏競馬はいよいよ後半戦と来たか。

502：名なしの競馬民

そうやね。個人的にはあの馬の動向も気になるけど。

503：名なしの競馬民

ああ、あの馬は米国にまた遠征しているね。

504：名なしの競馬民

確か米国に日本馬の実力を再度披露する、とか言ってたような。

505：名なしの競馬民

何度わからせれば気が済むんだ……。

506：名なしの競馬民

もうやめて！ アメリカ競馬のライフはゼロよ！

507：名なしの競馬民

三歳最強の馬をケンタッキーダービーで完封し、それにプリークネスステークスで超僅差で敗れても、ベルモントステークスで十九馬身もの差をつけて圧勝する。

アメリカにとっては絶望でしかないぞ、これ。

508：名なしの競馬民

イージーゴアさんは自重してあげて。

509：名なしの競馬民

十戦九勝一敗。一着九回二着一回。

改めて確認すると、連対率が本当に怪物。

510：名なしの競馬民

今思えば、新人騎手を鞍上にここまで勝ち越した馬っておる？

511：名なしの競馬民

ヨシトミが超大型新人だったのもあつた定期。

512：名なしの競馬民

夏競馬でもちよこちよこ連対したり、追い込ませて勝つたりとかしてたね。

513：名なしの競馬民

特にダートで乗鞍があつたらだいたい勝っているからなあ。

514：名なしの競馬民

ダートに限れば本当に上手いらしい。

515：名なしの競馬民

でも芝のレース。

516：名なしの競馬民

芝は七月に七勝したぐらい……。

517：名なしの競馬民

重賞だと大概四着だからなあ。

518：名なしの競馬民

芝で逃げて四着、ダートで追い込んで一着だったな、ヨシトミは。

519：名なしの競馬民

ダートだと鬼みたいに強いのに……。

520：名なしの競馬民

芝だと岡辺、柴（叔父のほう）、岳を乗せていれば有力馬はだいたい勝つと噂されているけど、ダートだとヨシトミを乗せとけという風潮になっていきそう。

521：名なしの競馬民

あとヨシトミは馬の特徴を掴むのも早いらしいから……。

522：名なしの競馬民

新馬戦でも真価を發揮してきているな。

523：名なしの競馬民

ダートの新馬戦であまり注目されていない馬にヨシトミが乗っていたら注意かも。

524：名なしの競馬民

それな。俺はそのダートの新馬戦で見事にヨシトミにしてやられた。

525：名なしの競馬民

もうこれ、穴騎手だろ。

526：名なしの競馬民

ダートだと馬券荒らし。

527：名なしの競馬民

かといって芝で騎手買いをしたら四着に撃沈する……。

528：名なしの競馬民
騎手買いで迷うんだよな……。

529：名なしの競馬民
ってか思い出した、そのヨシトミもアメリカに行ってた。

530：名なしの競馬民
しかも騎乗馬はイージーゴアやろ？ 勝ったな。

531：名なしの競馬民
出走するレースはトラヴァーズステークスだな。イージーゴアを
含めて六頭が出てくる。

532：名なしの競馬民
……あれ、少なくてね？

533：名なしの競馬民
イージーゴアのせいで回避馬が続出した結果。

534：名なしの競馬民
サンデーサイレンスも敵わないと見たか急遽パシフィッククラ
シック（ダート2000m）に路線変更したそうだし。

535：名なしの競馬民
やったね！ ほぼ単走だよ！

536：名なしの競馬民
これはもうイージーゴアの勝利だろう。

537：名なしの競馬民

つてか、トラヴァーズステークスは今日開催される。

538：名なしの競馬民

レースを生中継で観なきや。

539：名なしの競馬民

イージーゴアがどういう勝ち方をしてくれるか、そこしか見どころがない。

540：名なしの競馬民

さてさて、パドックを眺めるとしますかねえ。

541：名なしの競馬民

イージーゴアはいつも通りっぼいな。

542：名なしの競馬民

歩調も軽そう。

543：名なしの競馬民

勝利確定演出。

544：名なしの競馬民

また大外をぶん回して追い込んできそうだ。

545：名なしの競馬民

ゲート入りか、そろそろ。

546：名なしの競馬民

各馬、順調に入っております。

547：名なしの競馬民

さあ、開かれるぞ……！

548：名なしの競馬民

スタートしましたッ！ 好スタートを決めたのは毎度お馴染み

イージーゴア。

549：名なしの競馬民

だが前には位置取らず、ここも最後方へと下がる。

550：名なしの競馬民

おっと、先行している馬のペースが少し速くなったか。

551：名なしの競馬民

完全にイージーゴアを警戒してのペースアップだな。

552：名なしの競馬民

つてか二頭が大逃げしているぞ。

553：名なしの競馬民

最後方に行くからマークも包囲もできんし……。

554：名なしの競馬民

さらに速いうえに、大外一気に突っ切ってくる。

555：名なしの競馬民

だからイージーゴアは強い。というか強すぎる。

556：名なしの競馬民

そのせいで、アメリカのホースマンからは『赤き絶望』とか呼ばれているんよ。

557：名なしの競馬民
かつこよすぎて笑う。

558：名なしの競馬民
なんや、そのやけにかっこいいあだ名は。

559：名なしの競馬民
そんなこんな言っているうちに、最終直線に入るぞ。

560：名なしの競馬民
コーナーをカーブすると同時に大外から伸びてきたッ！

561：名なしの競馬民
はいはい。勝った勝った。

562：名なしの競馬民
すんなりと大逃げしていた二頭を躲して残り400mで先頭に！

563：名なしの競馬民
馬なりでもう十四馬身も離れたッ！

564：名なしの競馬民
さらに引き離していくぞ！

565：名なしの競馬民
ゴールインッ！ 差はなんと、二十二馬身ッ！

566：名なしの競馬民
ファー!?

567：名なしの競馬民

これ、セクレタリアト以上じゃないのか……？

568：名なしの競馬民
どうしてブリークネスステークスでは負けたんだ……。

569：名なしの競馬民
あれは相当に強い馬でも惨敗するぐらいの不利を喰らっていたから仕方ない。

570：名なしの競馬民
ヨシトミが指を七本立てたぞ！

571：名なしの競馬民
そういえば、イージーゴアはこれまでGIを六勝……つまりは！

572：名なしの競馬民
これでGI七勝！ あの皇帝シンボルドルフに三歳にして並んだぞ！

573：名なしの競馬民
おおおおお！

574：名なしの競馬民
マジかよ!?

575：名なしの競馬民
皇帝超えはなるか？

576：名なしの競馬民
真面目に皇帝超えがあり得るぞ、これは。

577：名なしの競馬民

しかも並んだのがミスターシービーを彷彿とさせる追い込みを披露してくれる馬だぞ。

578：名なしの競馬民

そう考えるとエモいな。

579：名なしの競馬民

目指せGI八勝目！

580：名なしの競馬民

王手！ 王手！

三代目ビッグレッド編 その十二 ジョッキークラ ブゴールドカップ

788：名なしの競馬民

いよいよ秋のGI争奪戦が始まる。

789：名なしの競馬民

まずはスプリンターズステークス(芝1200m)、そののちに秋華賞(芝2000m)、菊花賞(芝3000m)、秋の天皇賞(芝2000m)、エリザベス女王杯(芝2200m)、マイルチャンピオンシップ(芝1600m)、ジャパンカップ(芝2400m)、チャンピオンズカップ(ダート1800m)、大トリの有馬記念(芝2500m)だな。

790：名なしの競馬民

秋の天皇賞、ジャパンカップ、有馬記念はやはり外せんよな。

791：名なしの競馬民

現在、秋の古馬中長距離路線で有力なのは、芦毛の怪物オグリキャップ、菊花賞馬スパークリーク辺りらしい。

792：名なしの競馬民

タマモクロスが引退してしまったから少し面子が寂しい。

793：名なしの競馬民

そうやなあ……。

794：名なしの競馬民

タマモクロスとオグリキャップの秋の中長距離GI争奪戦は見て盛り上がったわ……。

795：名なしの競馬民

あの二頭は、まさにライバルよな。

796：名なしの競馬民

だからこそ、オグリの人気も爆発的に上がったのよね。

797：名なしの競馬民

つてかさ、オグリの鞍上が変わったって本当？

798：名なしの競馬民

せやぞ。主戦騎手がタマモクロスの鞍上だった南みなみ克海かつみに乗り換えらしいぞ。

799：名なしの競馬民

なんだろう、複雑すぎる……。

800：名なしの競馬民

タマモクロスの鞍上の南かあ。オグリファンとしては、宿敵の鞍上を乗せていることは確かにエモいけれど、上が言っている通り複雑。

801：名なしの競馬民

正直、南には乗らないでほしかった。せめて的矢仁、柴政彦とかがよかった。

802：名なしの競馬民

柴義富は……？

803：名なしの競馬民

あいつはイージーゴアに騎乗しているうえ、よく海外遠征に行くから厳しい。

804：名なしの競馬民

岳巧とかどうよ？

805：名なしの競馬民

同じようにスーパークリークをお手馬としているから駄目。さらに秋のGIでは、オグリキャップとスーパークリークが激突するし。

806：名なしの競馬民

まあ、スーパークリークに乗るわな……。

807：名なしの競馬民

岳にとつても思い出深い馬だし……。

808：名なしの競馬民

話を変えるけど、今週はイージーゴアが出走するレースがあるよな。

809：名なしの競馬民

アメリカのGIジョッキークラブゴールドカップ（ダート2000m）だね。

810：名なしの競馬民

確か、ここを獲ればイージーゴアは日本競馬史上初のGI八勝馬。

811：名なしの競馬民

イージーゴアにはぜひとも勝ってGI八勝馬となつてほしいところ。

812：名なしの競馬民

今回出走してくる馬は十一頭。回避馬も確かにいたけど、ここだけ

は死守するという気持ちがありありと伝わってくる。

813：名なしの競馬民

今回はサンデーサイレンスが出てくるか？

814：名なしの競馬民

いや、サンデーならダート路線を諦めて芝路線のジョーハーシュターフクラシックステークス（芝2400m）に変更したぞ。

815：名なしの競馬民

なんでも、ダートを認識したら走らなくなったらしい。

816：名なしの競馬民

イージーゴアに散々負かされたからかなあ。

817：名なしの競馬民

つてことは、サンデーはBCターフ（芝2400m）を目指しているのか。

818：名なしの競馬民

そういうことだね。

819：名なしの競馬民

さて、そろそろか。

820：名なしの競馬民

ジョッキークラブゴールドカップのパドックのお時間やな。

821：名なしの競馬民

イージーゴアは例の如く一番人気。だが枠は大外。

822：名なしの競馬民
いつもの定期。

823：名なしの競馬民
逆に大外枠のほうが有利説まである。

824：名なしの競馬民
ゲート入りは順調。ヨシトミもイージーゴアも気合い十分な模様。

825：名なしの競馬民
来るぞ……来るぞ……。

826：名なしの競馬民
スタートの火蓋が切られ、イージーゴアがダツシュを決めるッ！

827：名なしの競馬民
異常なくらいにスタートが上手いな、この紅蓮の怪物は。

828：名なしの競馬民
イージーゴアが下がる……えっ。

829：名なしの競馬民
他馬が外に出て被せてきやがった！

830：名なしの競馬民
前もイージーゴアの進路を塞ぐように広がってんぞ!?

831：名なしの競馬民
後ろもだ！ これ、アカンわ！

832：名なしの競馬民

瞬く間に包围されたぞ……。

833：名なしの競馬民

そのせいで下手に中団に位置取るしかなかった……。

834：名なしの競馬民

まるでブリークネスステークスのときと同様だ……。

835：名なしの競馬民

展開に動きは……イージーゴアがもう仕掛けたッ！

836：名なしの競馬民

嘘だろ!?! まだ1000mもあるぞ!?!

837：名なしの競馬民

けどイージーゴアが進む先々は他馬に覆われている。はっきり言って絶望的だぞ。

838：名なしの競馬民

ん？ だんだん外に寄れていつているぞ！

839：名なしの競馬民

まさか……。

840：名なしの競馬民

最終直線に入ったと同時に、イージーゴアが姿を消したぞッ！

841：名なしの競馬民

大外も塞がれているなら、その外、超大外を曲がればいいってことかよ!?!

842：名なしの競馬民

でもイージーゴアのスタミナも保たないかもしれん。

843：名なしの競馬民

観客席ギリギリのところを駆け抜けて……今ゴールインッ！
イージーゴアが一着！

844：名なしの競馬民

超ロングスパートを、超大外でやるなんて……。

845：名なしの競馬民

よく頑張ってくれた！ イージーゴア、ありがとう！

846：名なしの競馬民

差は八馬身。文句なしの圧勝劇や。

847：名なしの競馬民

次がいよいよ大本命のレースか。

848：名なしの競馬民

アメリカ競馬の最高峰、BCクラシック（ダート2000m）。果たして、イージーゴアは栄冠を掴めるのか。

849：名なしの競馬民

常識外れのあの馬なら、必ず勝ってくれるさ。

850：名なしの競馬民

あと遅くなってしまうが、GI八勝目の大偉業もおめでとう！

851：名なしの競馬民

まさに日本が誇れる大名馬だ！

852：名なしの競馬民

世界最高峰を、どうか獲ってきてくれ。

三代目ビッグレッド編 幕間その四 最強王者

——イージーゴアは、アメリカ競馬にとっては史上最悪の悪魔^{ヒール}だ。ケンタッキーダービーを日本調教馬として初めて制した際に、誰ともわからぬアメリカの競馬評論家が発した言葉である。

BCクラシックの前日。オーナーは新聞に書かれたイージーゴアに関する記事を読みながら、ハハハと苦笑する。

「随分と悪役ですな、イージーゴアは」

「あんな競馬を、それも本場のダートで見せられては堪ったものではないでしょう。彼らなりのイージーゴアへの称賛です」

意にも介さないように、深川が言う。

だが、そんな深川にも懸念があった。

「……オーナー、ここだけの話ですが、少しよろしいですか？」

「……どうされました、先生」

鞍上の柴義富を乗せてダートを単走するイージーゴアを尻目に、深川は口を開く。

「BCクラシックは勝てます。イージーゴアなら確実に」

「……はい」

「ですが問題はその後です」

「はい……？」

「これを勝てば、間違いなくイージーゴアは有馬記念のファン投票で一位になれると思うのです。しかし問題は相手です」

「まさか……」

「はい、そのまさかです。ダートなら確実に勝てますが、芝となると厳しい戦いになるでしょう。なにせ相手は芦毛の怪物オグリキャップです」

オグリキャップ、その名をオーナーは小声で呟く。

「真つ黒い話になりますが、日本競馬はイージーゴアを嫌でも有馬記念に引つ張り出してくるでしょう。その場合、オグリキャップやその他の有力馬も出走し、イージーゴアを叩き潰さんと全力で向かってきます」

「……………」

「はつきり言つて、イージーゴアにはオグリキャップほどの芝適性がありません。有馬記念では、能力をこっそり持っていていかれます。ですが勝たせませず、必ず」

オーナーには、深川の目に紅蓮の炎が宿つて見えた。

だからこそ——競馬はやめられない。

手を額に当て、オーナーは大きく笑った。

逆境を越えられる馬こそ、真の名馬だ。

イージーゴアは、まさにそうだ。

「やりましょう！ 先生！ そのためにはまず、BCクラシックを勝つ！ 日本に最高の栄誉をもたらす！ そしてオグリキャップにも勝つ！」

強敵など、なににするものぞ。イージーゴアはそれすら喰らう怪物だ。

芦毛の怪物といえど、イージーゴアであれば勝てる。

各々、思いを馳せる。もちろん、イージーゴアこそ最強だと信じて。

——このオレが、オレこそ最強だ。相手がどうあろうと知らん。ただ勝つ。それだけだ。

「イージーゴア？ 急に立ち止まってどうした？」

急に立ち止まり、オーナーと深川のほうを向くイージーゴアを不思議に思い、義富は声をかける。

ぶるる、とイージーゴアは喉を鳴らす。

「——ああ。必ず勝とうぜ。どんな強敵だろうと、どんな不利を受けようど！」

イージーゴアは、大きく嘶いた。

三代目ビッグレッド編 その十三 BCクラシック

512：名なしの競馬民
いよいよだぞ。

513：名なしの競馬民
イージーゴア……頑張ってくれ……。

514：名なしの競馬民
今年の出走馬は僅か五頭かぁ。

515：名なしの競馬民
知名度皆無の馬が四頭。パドックで一際違うオーラを撒き散らしているのが我らがイージーゴア。

516：名なしの競馬民
四頭ともイージーゴアに怯えていて笑うんだが。

517：名なしの競馬民
子馬みたいにビクビクしとる。

518：名なしの競馬民
犠牲馬が増える増える……。

519：名なしの競馬民
哀れ……。

520：名なしの競馬民
あの馬を見るだけで暴れるようになった馬もいるぐらいだからな
……。

521：名なしの競馬民

アメリカだと史上最悪の悪魔ヒールと忌々しく思われているイージーゴアさん。

522：名なしの競馬民

なんでや！ かつこいいやろ！ 特に大外一氣に駆け抜けていくところ！

523：名なしの競馬民

それは本当にわかる。

524：名なしの競馬民

ジョッキークラブゴールドカップで披露したシンザンのような超大外一氣は痺れたわ。

525：名なしの競馬民

あれだけでわかる。こいつ、セクレタリアト並だと。

526：名なしの競馬民

トラヴァーズステークスで叩き出した二十二馬身の衝撃も忘れてはいけない。

527：名なしの競馬民

後方からの大外まくりでよくあそこまで引き離れたな、まさに紅蓮の怪物だわ。

528：名なしの競馬民

鞍上のヨシトミがサンデーサイレンスを翻弄したケンタッキーダービーも伝説的なレースじゃないの？

529：名なしの競馬民

ヨシトミもヤベー奴だと判明した名レース。

530：名なしの競馬民

そのヨシトミが立てた七本の指で皇帝シンボリルドルフに並び、それすらも追い抜いた。

531：名なしの競馬民

GI八勝馬だね。

532：名なしの競馬民

今思えば、今年の皐月賞はこいつに賭けておくべきだった……。

533：名なしの競馬民

忘れていたけど皐月賞馬でもあったな、イージーゴアは。

534：名なしの競馬民

今年は日本ダービーよりも皐月賞のほうが来場者が多かったという。

535：名なしの競馬民

今年のダービー馬ウイナーズサークルさんが泣いておられる……。

536：名なしの競馬民

イージーゴアが強すぎただけ。

537：名なしの競馬民

残念ダービーとか言われて泣いて泣くわ。

538：名なしの競馬民

国内はオグリが盛り上げてくれるだろ。

539：名なしの競馬民
でもアメリカ。

540：名なしの競馬民
阿鼻叫喚らしいね。

541：名なしの競馬民
「悪夢の年を乗り越えろー」って……。

542：名なしの競馬民
完全にヒール扱いだわ、イージーゴアさんは。

543：名なしの競馬民
どうして……。

544：名なしの競馬民
まあ、海外馬が自国の主要レースを総なめしていく姿は、見ている
楽しいものじゃないわな……。

545：名なしの競馬民
一応アメリカ産馬なんだけどなあ……。

546：名なしの競馬民
だが日本調教馬である。

547：名なしの競馬民
イージーゴアさん……。

548：名なしの競馬民
ド派手な競馬をしてくれるも、嫌われるイージーゴアさん……。

549：名なしの競馬民

だけどなぜかこれと当たってしまった馬のほうが可哀想と思える
不思議。

550：名なしの競馬民

イージーゴアは本物の悪魔だった……？

551：名なしの競馬民

残酷なまでに強すぎた定期。

552：名なしの競馬民

話をたたつ斬るが、そろそろゲート入りだぞ！

553：名なしの競馬民

二頭がゲート入りを嫌がってんな。

554：名なしの競馬民

イージーゴアに怯えきっている……。

555：名なしの競馬民

ここまで来ると哀れむしかない。

556：名なしの競馬民

ようやくゲートに入って……最後に最内枠にイージーゴアが入る。

557：名なしの競馬民

逆に不利な気がする最内枠。

558：名なしの競馬民

そろそろだぞ……！

559：名なしの競馬民
いけーっ！

560：名なしの競馬民
火蓋が切られたッ！

561：名なしの競馬民
イージーゴアは風を切って飛び出てきた！

562：名なしの競馬民
もちろん、最後方にズルズルと後退。

563：名なしの競馬民
脚を溜める態勢だぞ！

564：名なしの競馬民
最後方で内を突き、最初のコーナーを曲がっていくッ！

565：名なしの競馬民
いい位置取りだな。

566：名なしの競馬民
残り1000m。各馬に動きなし！

567：名なしの競馬民
イージーゴアも変わらず内で脚を溜めに溜めている！

568：名なしの競馬民
残り500m！ イージーゴアが大外に出てきて……上がってきたあッ！

569：名なしの競馬民

一瞬で先頭に躍り出てきたッ！

570：名なしの競馬民

そのまま引き離す！

571：名なしの競馬民

脚色は全く衰えない！ これはもう十五馬身も差がある！

572：名なしの競馬民

残り200mでその差は十九馬身！ だがさらにさらに開いていくッ！

573：名なしの競馬民

いけいけーッ！ 押し切れーッ！

574：名なしの競馬民

イージーゴア、押し切つてゴールインッ！ その差はなんと、二十八馬身だッ！

575：名なしの競馬民

ヤバすぎるだろ……。

576：名なしの競馬民

セクレタリアトを超えたわ、これは。

577：名なしの競馬民

『ジャパニーズビッグレッド！ イージーゴアアアアッ！』つて実況がうるさくて笑った。

578：名なしの競馬民

『日本の悲願のひとつが今ツ、叶いましたッ！』
まさにその通りだぞ！

579：名なしの競馬民
ありがとう……ほぼ単走状態とはいえ、勝ってくれて本当にありが
とう……。

580：名なしの競馬民
これが日本だぞ、世界よ！

581：名なしの競馬民
まさに日本に夢をもたらしした名馬。

582：名なしの競馬民
ヨシトミが大きく手を振ったぞ！

583：名なしの競馬民
それから「イージーゴアアアアアアアアアアッ！」と実況以上に
咆哮した！

584：名なしの競馬民
競馬場も釣られるように大歓声があがってきてるぞ。

585：名なしの競馬民
イージーゴア！ イージーゴア！

586：名なしの競馬民
これでヨシトミは、日本人騎手で唯一世界最高峰のレースを制した
ことになるのか。

587：名なしの競馬民

よくやってくれたよ、ヨシトミは。

588：名なしの競馬民

イージーゴアも本当にお疲れ様。

589：名なしの競馬民

ところで、勝ったあとはどうすんだろ。

590：名なしの競馬民

もうすぐ勝利インタビューがあるから、そこで発表するやろ。

591：名なしの競馬民

おつ、オーナーと調教師の深川、鞍上のヨシトミが会場に出てきたで。

592：名なしの競馬民

さてさて、イージーゴアの今後はいかに。

593：名なしの競馬民

……え？

594：名なしの競馬民

マジかよ！ 夢の対決だ！

595：名なしの競馬民

次走はまさかの……。

596：名なしの競馬民

有馬記念の予定かよ!?

597：名なしの競馬民

こりやあ大事だぞ。

598：名なしの競馬民

最強VS最強が繰り広げられるのか……。

599：名なしの競馬民

紅蓮の怪物対芦毛の怪物、か。

600：名なしの競馬民

有馬記念はイーゾーゴアに賭けたいところ。

601：名なしの競馬民

両雄が遂に激突する……！

602：名なしの競馬民

オグリ、頑張れー！

603：名なしの競馬民

どっちも勝ってほしいし、どっちにも負けてほしくない。

604：名なしの競馬民

めっちゃわかる。

605：名なしの競馬民

どちらにも最強であってほしいよな。

606：名なしの競馬民

だけどいつかぶつかり合ってしまうのが競馬よ。

607：名なしの競馬民

残酷だなあ……。

608 : 名なしの競馬民

ヨシトミと南の意地の張り合いでもあるな。

609 : 名なしの競馬民

本当に楽しみだわ。

610 : 名なしの競馬民

暮れの有馬はこれでほぼ一騎打ちムードやな。

611 : 名なしの競馬民

柴の意地か、南の意地か。

幕間・幼駒編その二 次世代の舞手

イージーゴアが左後ろ脚を痛めた。その報告は関係者を非常に動揺させた。

現在、十一月の二週目。さんさんと降り積もる雪を踏みしめながら、はあ、と溜め息をついてオーナーは頭を抱える。

「有馬記念までには治る、か」

雪に覆われた地面をサクサクと軽快な音を立てて進む。

そんな音とは裏腹に、心は纏っている防寒着が乗っかっているように重かった。

しばらく歩いていると、オーナーは目的地に辿り着き、頬を両手で叩く。

「スワーヴダンサーに会うんだ。馬主が暗い気持ちでいてどうすんだ」

しかしオーナーの足取りは重くなる一方だった。

「あつ、オーナー。今日はどうなさい、まし……」

牧場長の檜田は、オーナーの表情を観察して――察した。

ああ、と思わず声を出す。

「……何かお辛いことがあったご様子で」

「まあ、そうやね」

「……よろしければ、お伺いしても？」

「わかった。一から話すわ」

それからオーナーは、イージーゴアがレース後に脚を痛めていたこと、けれどそれは有馬記念までには治ることを、弱々しい声音で説明した。

榎田はただ、それに対して相槌を打つのみだった。

「オーナー、有馬記念にイージーゴアを出走させるご予定で？」
「……………」

「こくり、とオーナーは頷く。」

「止めはしません。イージーゴアが望むようでしたら、出してあげてください」

ポンと突然、榎田が手を叩く。

「そうだ！ スワールヴダンサーに会いに行きませんか？ あれからさらに成長したのですよ！」

「ほら、早く早く！」と言いながら、強引にオーナーの腕を引っ張って、柵の前に立たせる。

すると、一頭の一歳馬——スワールヴダンサーが駆け出してきて、柵を軽く飛び越える。

だが止まり切れず、オーナーの腹部にダイブする形となった。

「ゴフツ!？」

「オーナー!？」

「だ、大丈夫だ。問題ない」

腹部に乗っているスワールヴダンサーの頭を撫でながら、オーナーは満足げに微笑む。

「すまん、ちよいと重い」

申し訳なさそうにオーナーが言うと、渋々といった様子でスワーヴダンサーは彼から離れる。

「このスワーヴダンサーなんですけど、将来必ず大物になりますよ！」

嬉々とした語調で、榎田が口を開く。

オーナーはドヤ顔で鼻息を吹いた。

「当たり前だろう。俺の相馬眼を舐めるなよ」

「ははは」

「おい、なんの感情も込めずに笑うな」

「フウハハハハハ！」

「それは込めすぎイ!? しかもなんだか偉そう!？」

そんなツツコミを入れたのち、オーナーはふうと深呼吸する。

そして、スワーヴダンサーのほうに振り返る。

「——勝ってくるからな、スワーヴダンサー」

——ああ、勝ってきてくれよ！ 次はこの俺の出番らしいからな！

オーナーにはどこか、スワーヴダンサーがそう言ったように聞こえた。

三代目ビッグレッド編 ラストラン 有馬記念

——あいつに乗っていると、なんだか風になったような気分になる。本当に不思議な感覚だった。手綱越しでもわかるほどに、あいつは力強かった。岡辺さんがよく「欧州の芝は重いから、スピードよりパワーが重要」だと説いていたが、あいつなら日本の芝と同じように走れそうなくらいだった。あいつはやけに賢かった。こちらが手綱をクイと少し引つ張るだけでも、その意図を理解して指示通りに動いてくれる。

——あいつは……本当にいい名馬だった。俺なんかにはもったいなさすぎるほどに。そんなあいつに、俺は報いたかった。

——俺は、あいつの力に、本当になれていたのだろうか。

十二月の最終週。大晦日が近づき、年越しが迫っている頃。

中山競馬場には、多くの人集りができていた。

「今年の暮れの有馬は豪華すぎるよな！」

「なんとたって、紅蓮の怪物と芦毛の怪物が遂にぶつかるんだろ!？」

「オグリキャップとイージーゴアの馬券は記念品としてとっておこう

……！」

「一番人気がおグリ、二番人気はイージーゴアか」

その一方で、馬主席にオーナーは着いていた。

だが緊張のあまり、足がぶるぶると震えている。

——頼むぞ、ヨシトミくん。イージーゴアに、有終の美を飾らせてあげてくれ。

そう祈りながら、オーナーは深呼吸をした。

「……義富、今乗ってどんな感じや？」

パドックにて、深川は表情に焦りを滲ませ、義富に訊ねる。

「……絶不調、といったところですね。全盛期の走りはもうできないと思います」

「そうか……」

深川は全身の力が抜けてへたり込みそうになるも、なんとか持ち堪える。

空は雲ひとつない快晴となっていて、深川の気持ちはどんよりとした曇り空だった。

それは義富も同じである。

脚を痛めて以来、明らかにイージーゴアの競走能力は削れていた。

この状態では、普段の十分の六しか末脚を保たせられないだろう。

今、十分の十の力を引き出させれば、間違いなく――。

義富は悲惨な結末を浮かべそうになるも、首を大きく振ってそれを払う。

と、そんなとき。

イージーゴアが天に向けて嘶いた。

――そうか。イージーゴアは賢いしな。これが最後の晴れ舞台だ

と、わかっているんだ。だからこそ、勝ちたいんだ。

――勝たせるツ、ヨシトミツ！

義富は手綱を強く握り締め、熱くなった目元を拭うと、

「行つてきます。勝ちに」

三代目ビッグレットを、駆け出させた。

『暮れの有馬に集いし強豪馬たち。今年の中山に、どんなドラマを花開かせてくれるのでしょうか。GI有馬記念、順調にゲート入りが進んでおります』

「いってくれエ！ オグリイ！」「今度こそ勝つてくれイナリワン！」

「今年の三歳代表として頑張つてくれ！ イージーゴアア！」

『各馬、ゲート入りが完了しました』

刹那、火蓋が切られたと同時にイージーゴアが飛び出た。

『スタートしました。イージーゴアがロケットスタートを決めハナに立つ……いえ、後方に下がっていきます。』

イージーゴアは最後方に。南克海騎乗のオグリキャップはそのひとつ前、イナリワンが並びます』

最後方に位置を取り、最終直線でまくりまくる。それこそが、イージーゴアの必勝法だ。

——まずは内で脚を溜めて溜めて溜めまくる。いつものようにはいかないと思うが、最終コーナーでそれを爆発させるツ！

ゴールまで残り2000m。

オーナーは冷や汗を額に滲ませて、馬たちがターフを駆け抜けていく様を眺めていた。

内心ではイージーゴアの勝利と無事を祈るばかりだった。

「だが……あの状態で普通は勝てない……」

目を伏せ、オーナーは呟く。

だが、だからこそ、だ。

「そこから勝ってくれる馬こそが、真の名馬だ。もちろん、無事が一番だが」

競馬場に視線を定め直すと、オーナーは目を見開いた。

ターフを駆けるイージーゴアが、紅い熱気を帯びているように見えたからだ。

「これだから——競馬はやめられんよ！」

オーナーは笑みを浮かべる。いつの間にか足の震えは収まっていた。

ゴールまで残り1000m。

——いいぞツ！ もつとオレを熱くさせろオツ！

最終コーナー前。先頭に立つ逃げ馬がコーナーに差しかかった途

端。

『イナリワンだ！ イナリワンがここで仕掛けてきた！』

それに続くように南もオグリキャップの手綱を押し始める！』

義富はそこで驚いた。

——早仕掛けか!? やられたッ！

予想外の早仕掛けに、義富は一瞬戸惑う。

しかし——。

——こちらも仕掛けるぞ、ヨシトミツ！

イージーゴアが人間風というなら、不敵に笑っているように見え
た。

それはまるで、絶対王者の余裕であった。

本当は、余裕なんてないはずなのに。

「いってくれやアッ！」

『イージーゴアが内を突いて七番手に上がってきた！ 六番手、五番
手も伺う勢いだ！ 残り500mを切りました！』

義富は必死に手綱を強く押す。押して押して押しまくる。

『イナリ先頭！ イナリ先頭！ しかしオグリだ！ オグリがあつと
いう間に躲した！ 残り200m！ イージーゴアはようやく三番
手！ だが二番手との距離は二馬身！』

「……ッ！」

届かない。義富が絶望しかけたそのとき。

——鞭だッ！ 振るえッ！

「そんなに勝ちたいのか!? もう限界なんだろう!?!」

涙を浮かべて、義富はイージーゴアに叫ぶ。

——そうだッ！ オレは勝ちたいッ！ 絶対にッ！

「もうッ……どうなっても、知らん、ぞッ……!?!」

鞭が三度、イージーゴアに入る。

そして三代目ビッグレッドは、目覚めた。

『残り50m！ オグリ一着——いや、イージーゴアが来た！ イージーゴアが来た！ なんとという恐ろしい末脚！ 二頭もつれてゴールインッ！ これは写真判定か!?』

イージーゴアは、息を荒くしながらも駆け抜けた。

『——まさかまさかです！ ハナ差で一着は——イージーゴアです！ 差し切りました!』

観客席がどつと沸き上がる。競馬場の熱気は今このとき、最高潮を迎えた。

『紅白の怪物決戦、これを制したのはイージーゴアですッ!』

イージーゴアが観客席を駆け抜けていく。

鞍上の義富は左腕を突き上げた。その目には、既に涙が伝っていた。

「みなさま、イージーゴアを応援してくださいましたみなさま、本当にありがとうございましたッ……」

有馬記念のトロフィーを抱えて、マイクを片手にオーナーは涙を零す。

義富も、深川も、みな泣いていた。

「みなさまには申し訳ない報告となってしまうのですが、この有馬記念を以て、イージーゴアは引退となります」

その言葉を放った瞬間、観客からどよめきが起こる。

だがオーナーはすかさず義富にマイクを渡し、彼もそれを受け取る。

「新馬戦のときから、今日に至るまで、この馬と在り続けられて、俺は本当に幸せ者です」

そう言いながら、義富はイージーゴアの首元をポンと優しく叩く。「イージーゴア……ありがとう……」

最後には、義富は泣き崩れてしまった。

それを心配したのか、イージーゴアが義富に顔を近づける。

「深川先生にも、ヨシトミくんにも、イージーゴアにも、今はありがとう

うという言葉しか出てきません……」

——みなさま、本当にありがとうございました！

そうして——暮れの有馬は幕を閉じ、一頭の怪物がターフから去っていった。

「すみません、俺です。一頭、そちらの子馬を購入したいのですが、よろしいですか？ 取引額は……四億ほどでどうでしょう？」

ありがとうございます！ 正直、前々から来てほしかった馬だったので、とても嬉しいですよ！ 本当に！ それでは、これにて」

名馬伝 イージーゴア ※ネタバレ注意

イージーゴア 牡

生年：1986年 競走馬現役期間：1988年～1989年 種
牡馬現役期間：1990年～2008年 没年：2018年

父アリダー 母リラクシング 母父バックパサー

日本が誇るダート史上最強馬の一頭。種牡馬としても猛威を振る
い、怪物の血は2021年現在も流れている。

絶望的なまでの強さでアメリカ競馬を蹂躪したことから、アメリカ
では『紅蓮の悪夢』、日本では当時現役だった『芦毛の怪物』オグリ
キャップになぞらえて『紅蓮の怪物』と呼ばれていた。

また、日本に於ける大種牡馬サンデーサイレンスの大きすぎる壁と
して立ちほだかり、大幅な路線変更を余儀なくさせた。

国際レーティングは史上最強馬レベルの149。長年破られな
かったセクレタリアトの148を上回ってみせる大偉業を成し遂げ
る。2010年代にウインクスが驚異の150を叩き出すまで、この
記録を越えるような馬はいなかった。

戦績は14戦13勝。一着13回、二着1回。主な勝鞍は、ケン
タッキーダービー(ダート2000m)、ベルモントステークス(ダー
ト2400m)、BCクラシック(ダート2000m)、トラヴァーズ
ステークス(ダート2000m)。

主な産駒は、ミセスウイニング(牝馬、母父：ミスターシービー、主
な勝鞍：オークス)、ブラックレッド(牡馬、母父：ライスシャワー、
主な勝鞍：天皇賞(春))。

ダートはもちろん、芝の長距離レースも適性範囲の産駒がいる場合
もあり、絞るのがなかなか難しい。

幼駒時代はとにかく好奇心の塊だった。何事にも近づき、観察する。そんな子馬だったと評されている。また、走るのが大好きだったようだ。

一歳になった頃、彼はある人物と運命の出会いを果たす。その人物こそ、今は亡きあの変態オーナーである。

イージーゴアをひと目見たオーナーは「いくらかかってもいいから、あの馬を買いたい」と生産者に必死に頭を下げた結果、破格の八億円で取引され、日本に渡ることとなった。

日本に輸入されたあと、イージーゴアは多少戸惑いながらも、新たな環境に馴染んでいったという。

また、イージーゴアを預託された牧場でのこの馬の評価は非常に高く、当時牧場長だった故・樫田友彦曰く、「間違いなく怪物の器だと、来たときから確信していた」とのことだった。

——競走馬時代

二歳となり、しばらくの育成を経たあと、イージーゴアは美浦・深川勇二厩舎に預託される。

故・深川勇二元調教師はイージーゴアを見た瞬間に、「こいつを必ず歴史に残る名馬にします」と自身も気づかぬうちに宣言していたらしい。まさに調教師の勘が当たったときであった。

鞍上に当時新人だった柴義富を据え、いざ新馬戦へと臨む。柴は鞍に跨ったときから、並々ならぬ威圧感を感じていた。

「この馬をここで負けさせてはいけない」という直感が、当時の柴にはあったらしく、「完全にリユックだった」と振り返っている。

だがそんな柴をよそ目に、イージーゴアは新馬戦を最後方から九馬身千切る、衝撃的な競馬を見せつけ、デビューを果たす。

その後、重賞である函館二歳ステークス(芝1200m)を音速の末脚で制すると、オーナーの要望もあり、米国の二歳GIホープフルステークス(ダート1400m)、フロントランナーステークス(ダート1700m)、BCジュヴェナイル(ダート1700m)への出走を

明らかにする。

ホープフルステークス（米）、フロントランナーステークスを連勝し、鞍上の柴に初GIを捧げると共に、日本調教馬による海外GI初制覇を成し遂げた。

完全に勢いづいたイージーゴアだが、しかしBCジュヴェナイルは一味違った。

のちにプリークネスステークスで彼の米三冠を結果的に阻むこととなるサンデーサイレンスと、ここで初めてぶつかる。

人気はサンデーサイレンスとイージーゴアで完全に二分化されていて、ややイージーゴアが優勢と見られていた。

レースはサンデーサイレンスが先行し、イージーゴアはいつものように最後方につける形となる。最終直線でイージーゴアが抜け出す前に、サンデーサイレンスは先頭に立つ。サンデーサイレンスが勝った、とここで誰しもが思ったに違いない。

しかし残り100mのところイージーゴアが急加速。なんとサンデーサイレンスを刹那で撫で切り、一着をもぎ取ったのだ。

帰国後、しばしの休養を経て弥生賞（芝2000m）に出走。ここでも自慢の切れ味を見せつけ、続く日本のクラシックの一冠目、皐月賞（芝2000m）も快勝。

その後はアメリカへと再度飛び立ち、ケンタッキーダービーに挑戦することとなる。

レースはサンデーサイレンスがイージーゴアと並んだ結果、暴走を起こし、イージーゴアが完勝する形で幕を下ろした。当時、日本調教馬によるケンタッキーダービー初制覇に、日本競馬は大いに盛り上がった。

だが競馬に絶対などなく、敗北のリスクは常につき纏うものなのは、この馬でも変わらなかった。

運命の米二冠目、プリークネスステークス。ここでまさかの事態が発生する。

ロケットスタートを決め、最後方に下がろうとした途端、なんとほとんどの出走馬が、イージーゴアを包囲。進路を完全に塞がれてしま

う。

それすらもブツちぎり、先頭に立とうとし、写真判定のもつれ合いにまで持ち込むも、サンデーサイレンスのハナ差二着に敗れてしまふ。

鞍上だった柴は「人生で一番悔しかった」とコメントするほど、イージーゴアの米三冠を今も惜しんでいる。

けれども、二着に敗れても絶対王者は色褪せなかった。

せめて米二冠は、という思いで挑むベルモントステークス(2400m)。

ここでイージーゴアは伝説を立ててみせる。

サンデーサイレンスが大きく出遅れ、暴走していくのを尻目に、イージーゴアは最終直線でまくりにまくりまくる。

その伸びは、異常といつていいほどに。伸びに伸びて、まくりにまくり、最終的に十九馬身もの差をつけ、大勝した。

この時点で、サンデーサイレンスの陣営はイージーゴアに挑むことを諦めた。

一時の帰国と休養を経て、続けて挑んだのはトラヴァースステークス(ダート2000m)。父のアリダーも制したレースである。ちなみに、サンデーサイレンスはこのレースを回避。

ここでも最後方からド派手に追い込む競馬を披露。なんと二十二馬身も離してのゴールだった。

しばらくの月日をアメリカで過ごし、続いてはジョッキークラブゴールドカップ(ダート2000m)に参戦。

しかし、ブリークネスステークスの時のようにまたもや完全に包囲されてしまう。

だが、ここで鞍上の柴が意地を發揮する。

残り1000mのところまで馬群の穴を突き、イージーゴアが目視できなくなるほどの大外をぶん回し、快勝。『紅蓮の怪物』の威光を煌めかせた。

なお、このレースでイージーゴアは『皇帝』シンボリルドルフが持つGI最多勝利——GI七勝という記録を上回った。

いよいよ大本命の、アメリカ最高峰のレース、BCクラシック(ダート2000m)。

イージーゴアが出走してくる、という情報が知れ渡ってから回避馬が続出してしまい、彼を含め、僅か五頭立ての寂しいレースとなってしまう。

けれども、そこで『紅蓮の怪物』は魅せた。

やはりド派手に追い込む。それこそが、イージーゴアの魅せ方であり、必勝法だ。

だがそんな競馬をして、最終的に二十九馬身も引き離す馬などこの世にいるのだろうか。まさに『紅蓮の怪物』である。

——『紅蓮の怪物』。誰しもが彼こそが最強だと信じて疑わなかった。だからこそ、最強対最強の競走を、誰もが望んだ。

そう、『芦毛の怪物』オグリキャップ。日本の競馬界を席卷せし『怪物』の一角。それとの競走を競馬ファンは願ひ、有馬記念のファン投票にイージーゴアとオグリキャップの名を刻んだ。

そしてそれは叶った。ファン投票一位のイージーゴア、ファン投票二位のオグリキャップがそれぞれ出走を表明した。

迎えた有馬記念。暮れの中山競馬場は、ファンたちによってぎゅうぎゅう詰めの状態となっていた。

いよいよ火蓋が切られた。

イージーゴアが最後方、オグリキャップがその前につける形でレースが運ばれ、運命の最終直線。

オグリキャップが先に抜け出し、先頭に立つ。しかしこのとき、イージーゴアはまだ八番手から動かなかった。

残り200mでイージーゴアはようやくやく三番手に上がる。けれどオグリキャップとの差は既に開いており、絶望的な戦局となる。

残り50m。奇跡は、起きた。

『オグリ一着——いや、イージーゴアが来た！ イージーゴアが来た！』

大慌てで実況するアナウンサー。そんなことなど知るかとばかりに、イージーゴアとオグリキャップはもつれて同時にゴールインし

た。

白熱したゴールイン。その勝者は、イージーゴアだった。ハナ差での圧勝であった。

競馬ファンの誰もが熱狂したこの一戦は、『紅白決戦』と今でも日本競馬史に刻まれている。

——引退。そして種牡馬へ

有馬記念での表彰式。そこでイージーゴアの陣営は電撃引退を発表。競馬場に大きなよめきを起こした。

初年度の種付け料は異例の800万円と設定された。

しかし種牡馬入りして一年後、とんでもない事態が。

驚いたことに、サンデーサイレンスがアメリカから日本に輸入されたのである。

さらに初年度産駒がフジキセキを始めとした大物揃いだったことによつて、一気にリーディングサイアーを奪取され、種牡馬としては完敗する形に。

それでも粘り強く種牡馬として活躍し、数多の大物産駒を送り出したものの、リーディングサイアーには結局輝けず。

最終的に2200万円まで種付け料を高騰させたが、二十二歳で種牡馬を引退。

その後は功労馬として繋養され、数多くのファンがイージーゴアのもとを訪ねた。

——ビッグレッド、天へ

2018年の四月一日の朝。立っているのに馬房から出てこないことを不審に思い、スタッフがイージーゴアの様子を確認したところ、立ったまま息を引き取っていることが判明。享年三十二歳だった。

柴はこれに「嘘だと言ってくれよ……でも、ありがとうな……」と涙した。

豪脚で魅せる舞手編&黒いステイヤー編 豪脚で魅せる舞手編 プロローグ

七月。真夏の猛暑がさらに強くなり、セミもうるさくなっていく時期。

一頭の二歳馬が、ぴよいと芝の上で飛んだ。

後ろ脚で器用に地面を踏みしめ、その場でくるくると踊っているような動きをとる。

オーナーは、思わず飲んでいた飲料水を吹き出してしまう。

「ははは！ いい身体と柔軟性を持つてるな！」

二歳馬——スワーズダンサーは、まるでトランポリンの上で跳ねているようなフットワークで駆け回る。

苦笑しながらも、オーナーが手を発声機みたいに口元に当てて言う。

「あんまり走りすぎないでくれよー！」

その言葉を聞き、スワーズダンサーはやや不満げに耳を垂らす。

「あの一、突然すみません。オーナー」

と、オーナーに声をかける者がひとり。

牧場長の榎田だ。

オーナーは振り返り、「どした？」と訊ねる。

しかし榎田には、躊躇いがあった。

「ええと……はい……」

言い淀む榎田に疑念を抱きつつ、オーナーは再度訊ねる。

「大丈夫か？ 本当にどうした？」

心配そうな声を発せられたら、もうどうしようもない。

意を決して、榎田は告げる。

「オーナーの所有馬をできれば預らせていただきたい、と名乗り出てくださいった調教師の方がいらっしやいました……」

「ふむ。その方とは？」

「なんでも、最近開業されたばかりらしく。ですけれど、あの目は本気

でした」

「わかった。まずはお会いしよう。その方とは、連絡が取れる？」

「はい、しばしお待ちを」

榎田は柵からだいぶ離れて連絡したのち、すぐさま戻ってくる。

「……今からこちらに向かうとのことですか」

「……こつちから向かったほうがよくない？」

「まあまあまあ」

時間としては二時間ぐらいだろうか。榎田がその人物を出迎え、オーナーの前に連れ出し、榎田自身は席を外した。

顔には皺がいくつか刻まれているが、身体つきは非常にがっちりとしている、四十代〜五十代と見受けられる男性だった。

オーナーはその顔を目にし、驚くもすぐさま表情を取り繕う。

「初めまして。吉長正之よしながまさゆきと申します」

予想外に丁寧な敬礼に、オーナーは呆気にとられる。

オーナーは知っていた。目の前の調教師があつての破天荒で有名な名手だったことを。

「ええ、初めまして」

見定めるような視線を送りながら、オーナーも一礼する。

「そういえば、わたしが所有している二歳馬を預かりたいと？」

「はい。とても失礼ながら」

「……理由をお伺いしても？」

「以前、オーナーのイージーゴアの末脚をテレビ越しとはいえ、観させていたいただいたことがあります。そこで驚きました。あの末脚に」

「……それで？」

「あれほどの馬を見抜いたオーナーは何者だと、どうしても気になったわけで探りを入れさせていただきました。するともう一頭、馬をお持ちだったことがわかって、こうして預らせていただければと、強欲ですが、思い立ったのです」

オーナーは顎に手を置いて熟考したのち、口を開く。

「……とりあえず、馬を見ましようか」

「スワーヴダンサー、ですか」

実際に馬を目の当たりにして、吉長は驚嘆する。

「見たところ、柔軟性と瞬発力がずば抜けている印象ですね」

「そうでしょうか？　ぴよいと跳ねるうえに、非常にすばしっこい馬ですよ」

それで、とオーナーは言葉を繋ぐ。

「あなたは、この馬を御することができますかな？」

吉長は決心したように返す。

「はい、必ず」

「ではお任せします。あのスワーヴダンサーを」

驚くように、吉長は目を見開く。

表情を直すと、オーナーに向かって深く礼をする。

「ありがとうございます……！　必ず、このスワーヴダンサーを立派に育ててみせます！」

吉長は、拳を握り締めて胸に当てた。

それはまるで、オーナーとスワーヴダンサーへの誓いのようだった。

豪脚で魅せる舞手編 その一 新馬戦

61：名なしの競馬民

今年の日本競馬に暗雲が漂ってないか？

62：名なしの競馬民

日本ダービーを大逃げしたアイネスフウジン、皐月賞を無敗で制したハクタイセイが怪我で脱落状態だもんなあ……。さらに挙げるとオグリも精彩を欠いてきたし……。

63：名なしの競馬民

秋の天皇賞で六着に大敗したのが痛すぎる。

64：名なしの競馬民

遂にオグリは終わってしまったか……。

65：名なしの競馬民

オグリの次走はジャパンカップって発表されてるが……無理やろうな……。

66：名なしの競馬民

スーパークリーク、イナリワン、イージーゴアは引退してしまった。寂しいよ。

67：名なしの競馬民

まあ、日本ダービー二着のメジロライアン、今年の菊花賞馬メジロマックイーンがおる！彼らが日本競馬を盛り上げてくれると信じられない。

……両方の馬主が同じだが。

68：名なしの競馬民

メジロエ……。

69：名なしの競馬民

菊花賞はライアンと横浜典久に勝ってほしかったのが本音。

70：名なしの競馬民

横浜の騎乗さあ……。

71：名なしの競馬民

悔し泣きしてたけどさ、横浜の騎乗でライアンが勝てなかったんだぞ。

72：名なしの競馬民

言っっては悪いが、陣営もそろそろ横浜を降ろしそう。

73：名なしの競馬民

岳か叔父柴を大人しく乗せていけば……。

ヨシトミ？ あれはダート限定騎手。

74：名なしの競馬民

いうてヨシトミは上手いやろ、芝でも。

75：名なしの競馬民

クラシックの出走馬には乗ってなかったけど、ダートで荒らしてくる印象。

76：名なしの競馬民

ダートであれば鬼みたいに強いのに……。

77：名なしの競馬民

ダートだとよく追い込んでくるよな。

78：名なしの競馬民

それで大抵勝つから心臓に悪い。

79：名なしの競馬民

そんなヨシトミだけど、アメリカに武者修行しに行つたつて本当？

80：名なしの競馬民

フアー!?

81：名なしの競馬民

すまん、今知つた。

82：名なしの競馬民

行くなヨシトミ、ダートでお前がいれば騎手買いができるんだ

……。

83：名なしの競馬民

なお、いきなりケンタツキーダービー出走馬であるアンブライドルドを任された模様。しかも勝つた。

84：名なしの競馬民

何気にケンタツキーダービーを二連覇するのやめろ。

85：名なしの競馬民

ブリークネスステークスは二着だったようだ……。

86：名なしの競馬民

イージーゴアの呪いかな？ 泣けるんだが。

87：名なしの競馬民

ベルモントステークスは四着だ。

88：名なしの競馬民

でもBCクラシックで巻き返したらしいな……。

89：名なしの競馬民

こちらにも二連覇ジョッキで笑う。

90：名なしの競馬民

ケンタッキーダービーとBCクラシックを同年に二連覇したヤ
ベー奴。

91：名なしの競馬民

アメリカ競馬を荒らしまくる日本人騎手として雑誌にも顔が載っ
ているとかいう。

92：名なしの競馬民

話を変えるんだが、イージーゴアのオーナーが所有している馬が今
日の新馬戦に出てくるで。

93：名なしの競馬民

えっ、マジ？

94：名なしの競馬民

どうせ一発屋馬主だろ。負ける負ける。

95：名なしの競馬民

なんでも、スワヴダンサーっていう海外から輸入した馬という情
報。

96：名なしの競馬民

へえー。厩舎は？

97：名なしの競馬民

吉長正之厩舎。今年ぐらいに開業したばかり。

98：名なしの競馬民

じゃ、じゃあ、鞍上は？

99：名なしの競馬民

サクラ一族の主戦騎手で有名な田嶋太たしまふとしの予定。オーナーの主戦であるヨシトミが海外遠征してるのが痛い。

100：名なしの競馬民

あー、ならいけるかもな。

101：名なしの競馬民

よほど弱くなければ勝てる。

102：名なしの競馬民

それで、新馬戦の距離は？

103：名なしの競馬民

芝の1800m。新馬戦としては若干長い。

104：名なしの競馬民

うーん、その馬の血統は？

105：名なしの競馬民

父グリーンダンサー、母シユアヴィテ、母父アレツジド。

106：名なしの競馬民

……正直、この馬のことが全く読めん。すまぬ。

107：名なしの競馬民

父グリーンダンサーとかいう読めないやつ。

108：名なしの競馬民

ってか、もうその新馬戦、ゲート入り完了してスタートしようとしていない？

109：名なしの競馬民

嘘やろ!? もう始まるの!?

110：名なしの競馬民

あー、既に始まっちゃってましたねえ……。

111：名なしの競馬民

スワールヴダンサーはどこや!?

112：名なしの競馬民

八頭中の六番手！ やや後方に緑色の横線がふたつ入った胸部が紫、袖が青の勝負服に身を包んだ騎手がおるやろ？

113：名なしの競馬民

ホントや！ おるおる！ あれが田嶋やな？

114：名なしの競馬民

ってか最終直線に突入したぞ！

115：名なしの競馬民

早っ!? いや、俺らが遅すぎただけか！

116：名なしの競馬民

おっと、だが馬群に吞まれているぞ。大丈夫か？

117：名なしの競馬民

待て、まだ勝負は終わっていない。

118：名なしの競馬民

あ、馬群の僅かな穴をくぐって先頭に立った。

119：名なしの競馬民

引き離す！ 脚色は衰えない！

120：名なしの競馬民

一着！ 一着！ 一着は二番人気のスワーヴダンサー！

121：名なしの競馬民

二番人気かよ……。

122：名なしの競馬民

ちなみに差は三馬身。そこまで強くないな……。

123：名なしの競馬民

二着は一番人気のミスターシービー産駒、シャコーグレイドだな。

124：名なしの競馬民

はつきり言ってシャコーグレイドのほうが強い競馬を見せてくれた印象。ゴール前でスワーヴダンサーに詰め寄ってたし。

125：名なしの競馬民

もう少し距離があればシャコーグレイドが勝ってたわ。

126：名なしの競馬民

シャコーグレイドの鞍上、よく見たら岳巧やんけ!?

127：名なしの競馬民

あの巧が溜め殺しをしなかったとは……。

128：名なしの競馬民

巧の騎乗が光った一戦やな。

129：名なしの競馬民

一方、スワーヴダンサーの鞍上である田嶋太。

130：名なしの競馬民

顔を青くしてて笑えない……。

131：名なしの競馬民

シャコーグレイドの追い込みに焦ってたようだな。

132：名なしの競馬民

田嶋、しつかりしてくれよ。

133：名なしの競馬民

本当にそれよ。

134：名なしの競馬民

ヨシトミが鞍上なら圧勝できていた可能性。

135：名なしの競馬民

あのオーナーの馬に乗ったヨシトミとかいう悪夢。

136：名なしの競馬民

ヨシトミ、早く帰ってきてくれ……。

137：名なしの競馬民

田嶋もなかなかベテランなのに……。

138：名なしの競馬民

終始展開と馬に振り回されていたような。

139：名なしの競馬民

田嶋エ……。

140：名なしの競馬民

頑張ってくれよ……。

豪脚で魅せる舞手編 幕間その一 乗り換え

「なんとか勝てたよ、吉長さん」

顔を真っ青にしたまま、汗を拭い、スワーヴダンサーから降りるのは鞍上を務めた田嶋太。騎手を長い間続けているベテランジョッキーでもある。

だが、そんなベテランジョッキーが顔を青くしているのだ。吉長も何事かと背筋に冷や汗を伝わせる。

「どうした、太。何があつた？」

それに対して太は眉を顰め、言葉を詰まらせる。

吉長からすれば、あの太が馬のことで言い淀んだのだ。基本的にはすんなりと話す太が。

「……まだまだ成長途上ですわ、こいつ。本格化の時期はだいたい来年の四月からだと予想してます」

スワーヴダンサーのほうに向き直り、太がようやく口を開く。

「脚質は差しつてところですよ。馬群の中団か後方につければ相当に強いですよ。」

……あと、ここだけの話ですがね。自分が今まで乗ってきた馬の中では一番速くて、賢かった印象があります。けど……」

太はまたもや口を閉ざし、顎に手を置き、逡巡する。

その様子を悟った吉長には、彼が何で迷っているのか、わかってしまった。

「……今後は乗れないってことか」

「言いにくいですが、その通りですね……」

元騎手である吉長は、それだけで話の意図を掴む。

騎手だからこそ、乗れない理由も推測できた。ましてや太はトップジョッキーの一角だ。

「実は、来年からあいつ——サクラユタカオーのある産駒の鞍上を任されて、立場的にも断るわけにはいかないんです。あとは秋のGI戦線で多忙なのもありますし……本当にすみません」

申し訳なさそうに、太は頭を下げる。

「……わかった。代わりの騎手を捕まえる。乗ってくれてありがとう
な」

スワーヴダンサーの新馬戦から一週間を経たあと。

吉長は頭を抱え、悩み抜いていた。

「オーナーとしては、なんとしてでも二歳の重賞を獲らせたいようだな……」

はあ、と溜め息をつく吉長。調教師という職の責任を、彼は改めて痛感する。

「騎手……騎手かあ……。もうこの際、俺が乗るか……？」

いや、俺は引退したから駄目だわ。かといってベテランは大抵断つてくるしなあ……」

再度頭を抱えて唸り声をあげて俯く。

今の吉長には、ある望みがある。

それは——スワーヴダンサーにGIを勝たせるということだ。

ひと目見たときから、スワーヴダンサーという馬の凄さがわかった——否、わかってしまった。

その才覚は、速さは、末脚は、自身が今まで騎乗してきた馬たち以上のものだった。

騎手時代に出会えていれば、どれほど勝たせてやれただろうか。彼はスワーヴダンサーを瞳に収めたときから、それに魅了された。

だが——今の吉長は騎手ではない。調教師だ。

馬を預かり、馬に競馬を教え、そうやって勝たせていく側だ。

騎手でなくなったことを、少し無念だと捉えることもあった。けれど調教師であっても——馬を勝たせることに、変わりはない。

だからこそ、吉長は必死なのだ。

スワーヴダンサーに合う騎手、というのはやすやすと見つかるものではない。あの馬に乗るために必要なのは——折り合いだ。

そんな折り合う技術を有する騎手は、大概がベテランであり、開業したての厩舎の馬に乗ってくれることは少ない。

「このままじゃあ、まずいな……」

いよいよ悩む吉長の額から一粒の雫が滴り始める。

と、そんなときだった。

「……すみませーん、吉長先生はいらっしゃいますか？」

現れたのは、ひとりの若い青年だった。

どうやら、厩舎巡りに来たと思われる若手騎手のようだ。

「おっ、いいところに来た！ この馬に乗ってくれ！」

あまりにも必死で思考が整わないまま、吉長は若手騎手の背を押し、無理矢理帽子を被せて、強引に芝のコースにいるスワーヴダンサーに乗せる。

一か八か。吉長は藁にもすがる思いであった。

若手騎手は疑問を浮かべるように首を傾げるも、まあいいかというような表情でスワーヴダンサーの手綱を握った途端――。

スワーヴダンサーが芝のコースを、力強く踏み込み、駆け抜ける。一瞬、若手騎手は動揺するも、即座に反応し、手綱を抑える。するとスワーヴダンサーも従うように減速していく。

――これだ！ これしかない！

吉長は大慌てでスワーヴダンサーを止めた若手騎手に近寄る。

「き、きみっ！ 名前は!?」

「えっ、あっ、はい。」

――蘆名正義あしなまぎよしと言います」

「よし！ 次のレースでのこいつの鞍上は任せる！ オーナーにもそう説明しておく！」

「えっ」

若手騎手――蘆名正義はこの日、有力馬の鞍上を務めることとなった。

豪脚で魅せる舞手編 その二 京都二歳ステークス

204：名なしの競馬民

十一月の四週目でいよいよジャパンカップだ。

205：名なしの競馬民

例年通り海外勢がかなり揃ったな。

206：名なしの競馬民

日本勢はオグリキャップを筆頭に、ホワイトストーン、ヤエノムテキらが主力か。

207：名なしの競馬民

頼むぞオグリ……。

208：名なしの競馬民

今年は完敗しそう。

209：名なしの競馬民

まあ……うん……。

210：名なしの競馬民

正直、ジャパンカップよりも二歳重賞に期待しているわ。

211：名なしの競馬民

今現在、有力な二歳馬とかいたっけ。

212：名なしの競馬民

まだまだ混戦模様。未勝利馬がいきなり化けてくることもあるから侮れん。

213：名なしの競馬民

新馬戦でスワーヴダンサーに詰め寄ったシャコーグレイドに頑張ってほしいところ。

214：名なしの競馬民

ミスターシービー産駒でもあるしな。

215：名なしの競馬民

三冠馬の産駒だから、ぜひともGI馬になってくれ。

216：名なしの競馬民

そういや、ミスターシービーで思い出した。あのシンボリルドルフの産駒も今年デビューするらしいぞ。

217：名なしの競馬民

はえー！　どんな馬か楽しみや！

218：名なしの競馬民

シンボリルドルフってあまりの強さから『皇帝』と恐れられた三冠馬で、イージーゴアが登場するまでは日本のGI最多勝利記録である七勝を挙げた七冠馬だよな？

219：名なしの競馬民

そうそう。だけど当時はミスターシービーたちの世代による華やかさに対し、シンボリルドルフの場合は王道の先行競馬で皇帝一強時代を創り出したため、あまり人気はなかった模様。

220：名なしの競馬民

でも最近になってから日本競馬最強格と認識され始めてきたんだよね。

221：名なしの競馬民

ミスターシービーが三冠という覇道を突き進んだというなら、シンボリルドルフは三冠という王道を駆け抜けたとでもいうべきか。

222：名なしの競馬民

そんなミスターシービーの鞍上だった吉長正之とかいう破天荒騎手。

223：名なしの競馬民

大胆すぎる逃げか追い込みを繰り出してくる名手。

224：名なしの競馬民

馬券荒らしの一角だった。

225：名なしの競馬民

つてかさ、調教師に転身してからは破天荒な一面を見せなくなったような気がする、吉長は。

226：名なしの競馬民

確かに。少し寂れた感がある。

227：名なしの競馬民

急に大人しくなったうえに、真面目にもなった気がしてならない。

228：名なしの競馬民

なお、破天荒騎乗が代表的すぎるせいで預託された馬は非常に少ない様子。

229：名なしの競馬民

それはな……。

230：名なしの競馬民

まあ、仕方ない。調教師になっても現役騎手時代のイメージは纏わりつくものだし。

231：名なしの競馬民

吉長厩舎で思い出したわ。確か、スワーヴダンサーって馬がいるよな。

232：名なしの競馬民

いるいる。新馬戦を辛勝した馬やろ？

233：名なしの競馬民

騎手はサクラユタカオーなどの鞍上だったことで有名な田嶋太だったわ。

234：名なしの競馬民

その田嶋、スワーヴダンサーから降ろされたって噂が立ってんだが……。

235：名なしの競馬民

嘘やろ!?

236：名なしの競馬民

ベテランジョッキーを降ろした、だと……!?

237：名なしの競馬民

逆に考えろ。田嶋の予定が厳しすぎてそうなった可能性もある。

238：名なしの競馬民

十一月から十二月はGⅠがずらりと並んでいるしな……。

239：名なしの競馬民

田嶋などのベテランジョッキーを欲する調教師は多い。さらに言つては悪いが、調教師としてはまだまだ三流だからな、吉長は。

240：名なしの競馬民

……じゃあ、スワローヴダンサーには誰が乗るんや。

241：名なしの競馬民

そこは今週中にわかる。

242：名なしの競馬民

ほほう。なぜ？

243：名なしの競馬民

だって今週の京都二歳ステークス（芝2000m）に出走するらしいからね、スワローヴダンサーが。

244：名なしの競馬民

えっ、マジで？

245：名なしの競馬民

しかし八番人気である。

246：名なしの競馬民

新馬戦が辛勝だったうえ、田嶋ともあまり折り合えてなかったっばいから……。

247：名なしの競馬民

スワローヴダンサーは完全に穴馬扱いだわ……。

248：名なしの競馬民

正直期待は薄い。

249：名なしの競馬民
せやな……。

250：名なしの競馬民
って今日やん！ 京都二歳ステークス！

251：名なしの競馬民
おっ、マジか。観なきや。

252：名なしの競馬民
既に観戦待機勢よ、パドックのほうは正直どう？

253：名なしの競馬民
うーん。どれもいまいち来ない。

254：名なしの競馬民
……蘆名正義って誰や。スワーヴダンサーの鞍上の。

255：名なしの競馬民
無名の騎手が乗ってるやんけ!?

256：名なしの競馬民
これは穴馬確定。

257：名なしの競馬民
けど、今日はスワーヴダンサーがやけに不気味な雰囲気を出しているんやが。とても落ち着いているし。

258：名なしの競馬民

来ない来ない。負ける負ける。

259：名なしの競馬民

スワーヴダンサーを軸に馬券を組み直す必要がありそうだな……。

260：名なしの競馬民

全然どの馬が勝つかわからない件。

261：名なしの競馬民

これはスワーヴダンサーですな。間違いない。

262：名なしの競馬民

えっ、なぜなぜ？

263：名なしの261

あの馬、超大物ですぞ。今のうちに馬券を買つときなされ。

264：名なしの競馬民

いうてそんなにか？

265：名なしの馬好き

なんとなくの直感ですぞ。あ、拙僧はただの馬好きです。以後、ちよくちよく現れますのでお見知りおきを。

266：名なしの競馬民

は、はあ……。

267：名なしの競馬民

そんなこんな話しているうちにゲート入りが始まってんぞ。

268：名なしの競馬民

当のスワーヴダンサーはすんなりと入ったな。

269：名なしの競馬民
さあて、そろそろか。

270：名なしの競馬民
いくぞーっ！

271：名なしの競馬民
スタートしました！ 各馬、順調な出だし！

272：名なしの馬好き
スワーヴダンサーは……と、やはりそこに着けられましたか。

273：名なしの競馬民
馬群の後方にいるな。

274：名なしの競馬民
1000m通過！ ややスローペース！ 後方勢には厳しい展開
！

275：名なしの競馬民
終わったあ……。

276：名なしの競馬民
このまま撃沈かな、スワーヴダンサーは。

277：名なしの馬好き
ううむ。ここからですな。残り800m辺りから、ですかな。

278：名なしの競馬民

おっと、スワーヴダンサーが残り800mで馬群から抜け出そうと
している！

279：名なしの競馬民

……さては馬好きめ、未来人だな。

280：名なしの馬好き

いえいえ。ただ読めただけですぞ。

281：名なしの競馬民

あと、今気づいた。スワーヴダンサーくん、折り合ってるぞ！ 鞍
上の蘆名って奴と！

282：名なしの競馬民

スワーヴダンサー、先頭！ スワーヴダンサー、先頭！ 場内はど
よめきに満ちている！

283：名なしの競馬民

ぐんぐん引き離すスワーヴダンサー！ 脚色は衰えるどころかさ
らに伸びている！

284：名なしの競馬民

マジかよマジかよ!?

285：名なしの競馬民

ゴールイン！ 八番人気のスワーヴダンサーが九馬身差で一着！

286：名なしの競馬民

他馬は最終直線で手も足も出せない状態だったぞ……。

287：名なしの競馬民

スワーヴダンサーとかいう鞍上が変わるだけで化ける馬。

288：名なしの競馬民
真面目に強すぎん？

289：名なしの馬好き
そういえば、今回のレースですが、勝ち馬のスワーヴダンサーは走りにくそうにしていた印象ですな。

290：名なしの競馬民
あいつ確か、欧州血統だよな……。

291：名なしの競馬民
まさか、本気を出せない状態であんなに強いってことなのか？

292：名なしの競馬民
鞭も一切打ってないしな。

293：名なしの競馬民
今回のレースって京都競馬場だよな？ しかもそこは馬場が軽いから……。

294：名なしの競馬民
スワーヴダンサーにとってはかなり不利やんけ!?

295：名なしの競馬民
それであそこまで引き離すとか……。

296：名なしの競馬民
あの馬、次走はどこだろ。

297：名なしの競馬民

恐らく出走間隔的にはホープフルステークス（芝2000m）と思われる。

298：名なしの競馬民

やっぱりそこら辺よね。ホープフルステークスはGIだし。

299：名なしの競馬民

今年の二歳馬はスワロヴダンサーで決まりだわ。

300：名なしの競馬民

清々しいまでの掌返し。

301：名なしの競馬民

これに詰め寄れたシャコグレイドはいったい何者なんだ。

302：名なしの競馬民

あれもなかなか強いのかね。

303：名なしの競馬民

来年のクラシックが楽しみだ。

豪脚で魅せる舞手編 その三 ホープフルステークス

62：名なしの競馬民

ホープフルステークスの日になりましたね。

63：名なしの競馬民

なに言っただ馬鹿野郎、暮れの有馬記念の日だろ！

64：名なしの競馬民

いやあ、今年の有馬記念も盛り上がっているのは盛り上がっている。けれど大本命不在となったねえ。

65：名なしの競馬民

オグリはジャパンカップで燃え尽きたと確信したし、メジロライアンも決め手には欠けるし……。

66：名なしの競馬民

事実上の王者不在の決戦と化している。

67：名なしの競馬民

混戦だな。

68：名なしの競馬民

ホープフルステークスは一強ムードなのに。

69：名なしの競馬民

いうてホープフルステークスの一番人気、大本命馬スワーヴダンサーもここで陥落するやろ。馬場と血統が一切合っていないうえに、当日の馬場状態は良いと来た。

70：名なしの競馬民

苦戦はしそうだけど、連には絡んできそうなのが本当に恐ろしい。

71：名なしの競馬民

強い馬つてのはよく連対してくるから、穴党にとってはこれ以上なく厄介。

72：名なしの競馬民

他に有力馬おる？

73：名なしの競馬民

おらん。対抗馬候補のシャコーグレイドは未勝利戦に出てて間に合わなかった。

74：名なしの競馬民

だから一強か。これは二着、三着を狙うしかない。

75：名なしの競馬民

スワーヴダンサーが勝つか、もしくは連に絡むかが見どころ。

76：名なしの競馬民

四着以下だったら笑えんぞ。

77：名なしの競馬民

鞍上の蘆名へのプレッシャーが凄い……。

78：名なしの競馬民

騎乗ミスなんかがあったら許されない一戦。

79：名なしの競馬民

蘆名にとつても初GI制覇のチャンスだな。

80：名なしの競馬民

マサヨシー！ 気を抜くなよー！

81：名なしの競馬民

惨敗だけはやめちくり。

82：名なしの競馬民

ホープフルステークスの時刻はまだかー？

83：名なしの競馬民

有馬記念も忘れんなよ！

84：名なしの競馬民

いけーっ！ マサヨシーっ！

85：名なしの競馬民

スワーヴダンサーも頑張ってくれよ！ 俺らの金が懸かってんだぞ！

86：名なしの競馬民

パドックのお時間が到来。

87：名なしの競馬民

おおっ、そこで暴れるとはとんでもない。

88：名なしの競馬民

どうして……。

89：名なしの競馬民

パドックに出た途端に荒ぶるスワーヴダンサーくん。

90：名なしの競馬民

蘆名も振り回されててもう笑うしかない。

91：名なしの競馬民

落ち着きがなさすぎて泣く。

92：名なしの競馬民

おや、スワーヴダンサーくんの様子が……。

93：名なしの競馬民

観客席に向けて蟹歩きみたいなステップを踏んで見せるのやめい
！

94：名なしの競馬民

面白すぎて笑った。

95：名なしの競馬民

一番恥ずかしそうにしているマサヨシくん。

96：名なしの競馬民

顔が赤くなつとる。可愛い。

97：名なしの競馬民

おっと、天高くスワーヴダンサーが嘶いた！

98：名なしの競馬民

なぜか観客席のボルテージもマックス！

99：名なしの競馬民

「俺は勝つぞオラァ！」とでも宣言しているようだ！

100：名なしの競馬民
混沌すぎる。

101：名なしの競馬民
これ、ゲートは大丈夫か？

102：名なしの競馬民
諦めろ。

103：名なしの競馬民
けどすんなりと入ってるぞ。

104：名なしの競馬民
先ほどの嘶きと暴れっぷりはいったい……。

105：名なしの競馬民
ゲート入り完了！

106：名なしの競馬民
ホープフルステークス。スタートしました。先行していく馬がやや多いか。

107：名なしの競馬民
馬券を散らさせるなよ……。

108：名なしの競馬民
スワローヴダンサーはやや後ろに位置を取る！

109：名なしの競馬民

差し切る競馬か……。

110：名なしの競馬民
各馬、特に目立った動きがないまま300mを通過。

111：名なしの競馬民
ここで仕掛けるのはいくらなんでも早すぎるわ。

112：名なしの競馬民
誰も仕掛けないな。逃げてる馬がちらほらいるぐらいか。

113：名なしの競馬民
この流れのまま1000mを通過しそう。

114：名なしの競馬民
スローペースにもなっていない、ほどよいレース運びだ。

115：名なしの競馬民
1200mを通過。ここで先行馬がやや伸びてきた。

116：名なしの競馬民
ん？ スワーズダンサーが後退してないか？

117：名なしの競馬民
うそーん!?

118：名なしの競馬民
あつ、マサヨシが鞭を打ったぞ！

119：名なしの競馬民
でも負けたな。馬券を撒いてくる。

120：名なしの競馬民

待て待て。残り200mでごぼう抜きして三番手に着いてるぞ。

121：名なしの競馬民

勝ったな。交換してくる。

122：名なしの競馬民

清々しいほどの掌返し。

123：名なしの競馬民

凄まじい末脚！ これはどこまで伸びるか!?

124：名なしの競馬民

何馬身離した？

125：名なしの競馬民

もう五馬身ぐらい離してる。

126：名なしの競馬民

押し切れ！ 押し切れ！

127：名なしの競馬民

スワールヴダンサー一着！ スワールヴダンサー一着！

128：名なしの競馬民

一番人気のスワールヴダンサーが一着でゴールイン！ あの嘶きは

勝利への凱旋だった！

129：名なしの競馬民

暴れる、嘶くからのコンボで八馬身も千切って圧勝した怪馬。

130 : 名なしの競馬民
謎の圧勝確定コンビ。

131 : 名なしの競馬民
だけど馬っ気を出さなかっただけマシ。

132 : 名なしの競馬民
あれはアカン。

133 : 名なしの競馬民
いろいろな意味で恥ずかしいわ。

134 : 名なしの競馬民
今後このコンビが来るか？

135 : 名なしの競馬民
ないやろ。

136 : 名なしの競馬民
できれば止めてほしい……。

137 : 名なしの競馬民
心臓に悪い。寿命と老後の資金が減るわ。

138 : 名なしの競馬民
それな定期。

139 : 名なしの競馬民
馬券で稼ごうとすな!?

140：名なしの競馬民

老後の資金はちゃんと働いて稼ぎなさい！

141：名なしの競馬民

めっ！ だぞ！

「すみません。そちらのある子馬を買いたいのですが、よろしいでしょうか？

……よろしいのですか!?! ありがとうございます！ 正直買えるとは思っていませんでしたから……。

あ、はい。では輸送のほうをお願いします。それでは」

「——嵐が来るぞ、これは」

幕間・幼駒編 黒いステイヤーの始まり

二月が明け、冬の寒さからだんだんと暖かくなってきた時期。

三月。日本競馬ではクラシックへの優先出走権を獲得するために、各々の若駒が躍動し始める——そんな時期である。

今年は、どのような俊英が現れるのだろうか。

一強時代を創る絶対王者か、はたまた互いに競い合う群雄たちか。果たして果たして——いったいどんな馬がこの時代を彩るか。

一頭の黒毛馬がオーナーの服の袖に噛みつく。噛みつくといつても、甘く噛んでいるだけであるが。

「ははは」と噛まれている本人は幸せそうに笑う。

「うちのライスシャワーです、可愛いでしょう?」

自慢げに鼻を鳴らすオーナー。どうやら、この可愛さにやられたようだ。

「血統は父リアルシャダイ、母ライラックポイント、母父マルゼンスキーですか。距離適性は中距離から長距離といったところですね」

オーナーが所有している馬——ライスシャワーを見に訪れた吉長が言う。

「しかし可愛いですね、このライスシャワーは。人懐っこいですわ」

近寄ってきたライスシャワーの首元を撫でる吉長も、明らかに表情が緩んでいた。

このように関係者はみな、この黒毛馬の人懐っこさと可愛らしさに心を鷲掴みにされている。

やはり可愛い人は人を癒やす。オーナーはライスシャワーを購入してから再認識するようになった。

「では、本題に移りましょうか」

そう言ってオーナーが顔を強張らせる。

可愛い子には旅をさせよ。今がそのときだ。

「吉長先生、ライスはどうかでしょうか。俺としては日本ダービーも夢

ではないと考えておりますが」

吉長は首を傾げ、ライスシャワーのほうを向く。

「わたしの直感ですが、この馬は将来大物になってくれると思います。可愛らしくも力強い眼差しもそうですが、とにかくタフな馬だと予想できました」

顎に手を当ててオーナーはただただ頷く。

確かにライスシャワーの馬体は小柄ながらも、愛らしい双眸にはどこか闘志が静かに眠っているようだった。

その闘志を、元騎手であり、かつてこのような馬の鞍上だった吉長が察知できないはずがない。

「この馬の素質は、闘志を燃やせれば非常に高いです。かつてのわたしの騎乗馬で似たような馬がいましたね。こういうのを見抜くのは得意なんです」

自慢げに笑みを浮かべる吉長。

かつて無冠と謳われた天皇賞馬の背に跨った彼の姿を、オーナーは幻視する。

「なら、お願いしてもよろしいでしょうか」

「……はい？」

唐突な発言に、吉長は呆気にとられる。

「ライスシャワーですよ、ライス。よろしければ、この馬のことをお願いいたします」

深々と頭を下げるオーナー相手にたじろぐも、吉長は両頬を叩いて気を取り直す。

「わかりました。スワーズダンサーでお世話になっていることもありますからね。この馬にも必ずGIを獲らせませす」

「ありがとうございます！ それでは、これからですが——」

今後の予定を話し合ったのち、吉長はふとライスシャワーを見つめる。

——ライスシャワーの瞳には、蒼い闘志の炎が宿っていた。

豪脚で魅せる舞手編 その四 スプリングステークス

344：名なしの競馬民

今年のクラシック戦線なんだが、嫌な予感しかしてない。

345：名なしの競馬民

どうした、急に。

346：名なしの競馬民

なんというか、主軸になる馬が次々と抜けていく未来しか見えん。

347：名なしの競馬民

スワーヴダンサーは流石に日本ダービーを目指すやろ、なに言ってるんだ。

348：名なしの競馬民

あとトウカイテイオーだっけ。こちらがクラシック戦線に乗り込むのはほぼ確定でしょ。

349：名なしの競馬民

きさらぎ賞を圧倒的な速さで制し、一躍クラシックの有力候補に名乗り出た馬だよな。

350：名なしの競馬民

そうそう。しかも父が『皇帝』と称された三冠馬シンボリルドルフ。だから父子三冠制覇を狙ってくる可能性が高い。

351：名なしの競馬民

なるほど。今のところ、スワーヴダンサーとトウカイテイオーの一

騎打ちムード？

352：名なしの競馬民

まあ、そうやな。できれば弥生賞で衝突してほしかったが……。

353：名なしの競馬民

けどトウカイテイオーは若葉ステークス(芝2000m)、スワーヴダンサーはスプリングステークス(芝1800m)に向かっちゃったってわけね。

354：名なしの競馬民

弥生賞で彼らのぶつかり合いを見てみたかったんだけどな……。

355：名なしの競馬民

行っちゃったものは仕方ない。

356：名なしの競馬民

トウカイテイオーは無事に若葉ステークスを快勝。皐月賞の優先出走権を掴んだぞ。

357：名なしの競馬民

残るはスワーヴダンサーのスプリングステークスってわけだな。

358：名なしの競馬民

だな。どう勝ってくれるかが気になる。

359：名なしの競馬民

さてきて、スプリングステークスのパドックは……。

360：名なしの競馬民

スワーヴダンサーは快調。これは余裕勝ちだわ。

361：名なしの競馬民

勝ったな、風呂に入ってくる。

362：名なしの競馬民

負けフラグやめろオ！

363：名なしの競馬民

それ以上はいけない。ステイだ。

364：名なしの競馬民

と、とりあえず。スワーヴダンサーはごねることなく十一番のゲートに収まったぞ。

365：名なしの競馬民

ここだけは素直。

366：名なしの競馬民

あのオーナーの馬あるある。基本的にゲート入りを嫌がらない。

367：名なしの競馬民

吉長もよくあんな馬を調教できたもんだわ。

368：名なしの競馬民

ホープフルステークスで荒ぶった末に嘶く。が、今回は非常に大人しい。

なんや、この差は。

369：名なしの競馬民

このレースがGⅡだからじゃないの？

370：名なしの競馬民
あり得すぎる……。

371：名なしの競馬民
大舞台ではあなる可能性があるのか……。

372：名なしの競馬民
さて、大外枠の馬がゲートに入り……。

373：名なしの競馬民
そろそろスタートだ！

374：名なしの競馬民
スタートしました！

375：名なしの競馬民
おっとスワーヴダンサー、これは出遅れた。今回はやる気が全くな
さそうだ。

376：名なしの競馬民
ウワアアアアアアアアアアツ!?

377：名なしの競馬民
爆死兄貴は成仏して……。

378：名なしの競馬民
なにやつとんねん、鞍上は。

379：名なしの競馬民
マサヨシが手綱を押してなんとか馬群の最後方に着けたか。

380：名なしの競馬民
オワタ。オワタわ。

381：名なしの競馬民
もう駄目だあ……お終いだあ……。

382：名なしの競馬民
「さあさあ、最終直線！」

383：名なしの競馬民
蘆名正義がスワーヴダンサーに鞭を叩き込む！

384：名なしの競馬民
明らかに焦ってんじゃん。

385：名なしの競馬民
だが伸びてる！ 大外をまくってきている！

386：名なしの競馬民
ゴール板直前で先頭の馬を差し切った！ 差し切った！ そのままゴールイン！

387：名なしの競馬民
一馬身差かあ、危ないな……。

388：名なしの競馬民
ホープフルの時のような闘志は一切見られなかったな……。

389：名なしの競馬民
けどこれでスワーヴダンサーも皐月賞への優先出走権を獲得したぞ。

390：名なしの競馬民

マサヨシ、苦勞人説。

391：名なしの競馬民

今のレースはマサヨシじゃなかったら勝てなかったかもな。

392：名なしの競馬民

そういや、トウカイテイオーの鞍上って誰だっけ？

393：名なしの競馬民

なかはつてるぎ
中原輝貴。どうやら最初は岡辺とかの予定だったらしいが……。

394：名なしの競馬民

確か、中原が乗せてくれと頭を下げて頼み込んだんだか。

395：名なしの競馬民

あのプライドが高いことで有名な中原がかよ!?

396：名なしの競馬民

「スワーヴダンサーに勝ちたいなら俺を乗せてください。俺なら勝てます」って宣言したんだよな。

397：名なしの競馬民

その中原曰く、「スワーヴダンサーは間違いなく世代最強格。当たったら絶望していい。だがトウカイテイオーであれば勝機がある」とのことらしい。

398：名なしの競馬民

それほどかよ!? トウカイテイオーの潜在能力って!

399：名なしの競馬民

中原はスワーヴダンサーに対抗心を燃やしていると見られる。

400：名なしの競馬民

これは皐月賞本番が楽しみだぞい。

401：名なしの競馬民

そうやな。無敗対無敗だからな。

402：名なしの競馬民

世代の頂点同士がぶつかり合うのか。

403：名なしの競馬民

まあ、どちらかが急な路線変更をしなければだけど。

豪脚で魅せる舞手編 幕間その二 弱点とローテーション

スワーヴダンサーは、あまりにも奇怪な馬だ。

調教に普通に従うし、ゲート入りも嫌がらない。そこだけ目を向ければ素直な馬としか思えない。

ではなぜ奇怪なのか。その理由は――。

「オーナー、こいつに乗らせてもらってわかったんですが、大舞台だと異常なまでに強いです」

そう、生粋のエンターテイナーということだ。

もちろん、馬にも大舞台に対する得意不得意がある。

だがこのスワーヴダンサーの場合、緊張しているどころかむしろ楽しんでる節があった。

前々走であるGIホープフルステークスの時なんかいい例だ。

観客席前で独特なステップを踏んだ挙げ句、最後には『勝つてやる！』とでも言わんばかりの嘶きを発し、観衆に笑いと不安をもたらしただ。

「コーナーを回るのが非常に上手くて、鞭にもしつかり反応してくれます。ただ、ひとつだけ困ったことが……」

追い切りのため、スワーヴダンサーに騎乗した正義が目元を伏せる。

この馬には、致命的ともいっていい弱点があった。

「こいつ、大舞台ではないことがわかってしまうとすぐにやる気をなくすんですよ」

オーナーの隣に立つ吉長も「そうだ」とばかりにうんうんと首を縦に振る。

彼の最大且つ致命的な弱点、そう、エンターテイナーだからこそ、大舞台以外では力を発揮しない。

もしも前走のGIIスプリングステークスで正義以外の騎手が乗っていたなら、確実に二着か三着に敗れていただろう。

「鞭を打って無理矢理走らせましたからなんとか勝てましたが、この手が二度通用するとはどうしても思えないですね……」
はあ、と溜め息をつく正義。吉長も頭を抱えていた。
競走馬というのは、レースでは常に全力で走るものだ。
それが手を抜くことは、どうしても痛手である。
類まれな才を誇るのに弱点のせいで台無しになるケースは多々ある。

と、ここで吉長が口を開く。

「確かに強いのです、スワローヴダンサーは。あまり公言したくありませんが、それこそミスターシービー並です」

むず痒そうに口を閉ざすも、吉長は再度言葉を紡ぐ。

「……そこでわたしから提案です、オーナー」

「……ほほう？」

吉長は深く息を吸い吐きし、いよいよそれを告げる。

「スワローヴダンサーで凱旋門賞制覇を目指しませんか？」

その言葉は、オーナーの血を滾らせるには十分すぎた。

「……やりましょう！ 吉長先生！ 蘆名くん！」

オーナーは笑顔の花を顔中に満開に咲かせる。

この言葉は、凱旋門賞挑戦は、オーナーにとって待ちに待ち侘びたものだ。

「あつ、ありがとうございますっ！ でしたら、ローテーションは——」

「——仏三冠でしょう、狙い目は」

間髪入れずオーナーが切り込む。

吉長も納得した様子で顔を綻ばせる。

「なるほど！ そのうちパリ大賞典は凱旋門賞と同じ競馬場、しかも同じ距離ですからね！」

珍しく、吉長は興奮していた。自身があの三冠馬ミスターシービーに騎乗していたときのよう。

一方で、正義は表情を明らかに強張らせていた。

今後予想される激戦では、騎乗にミスが許されなくなる。

常に完璧な騎乗ができる自信が、正義にはない。

と、そのとき。不意にスワーヴダンサーが正義を振るい落とそうと暴れる。

慌てて正義は手綱を引っ張り、スワーヴダンサーを制止した。

「…………お前…………」

——自信を持たねえ奴はこうだ！ オラア！

正義は笑みを浮かべ、手綱を握り直す。

「そう、だな……………！ そうだよな……………！ 俺たちこそが世界の頂点に登るんだよな……………！」

正義は吉長とオーナーのほうに振り返り。

「勝ちましょう！ 獲りましょう！ 必ず凱旋門賞を——この手に！」

豪脚で魅せる舞手編 その五 仏二千ギニー

428：名なしの競馬民

トウカイテイオーとスワーヴダンサーの無敗対決をこの目でしかと見届けたかった……。

429：名なしの競馬民

本当に残念だ……。

430：名なしの競馬民

トウカイテイオー陣営の中原ですら顔を悔しそうに歪めて「とても残念。できれば出てきてほしかった」って皐月賞前に言つとるしなあ。

431：名なしの競馬民

皐月賞はトウカイテイオーの先行押し切り勝ちだったよな。

432：名なしの競馬民

けど、鞍上の中原はトウカイテイオーから降りても身体を震わせたままだったし、勝者インタビューでも「勝った気がしない。胸が苛立って仕方ない」と。……中原にそこまで言わせるとは……。

433：名なしの競馬民

ああ見えて中原って闘争心は人一倍強いらしいから。

434：名なしの競馬民

続く日本ダービーもトウカイテイオー一強の一番人気だし。

435：名なしの競馬民

一方、スワーヴダンサー陣営。

436：名なしの競馬民

今日の仏二千ギニーを皮切りに仏国のクラシックを目指すと宣言。

437：名なしの競馬民

どうしてだよ……。

438：名なしの競馬民

狙いは凱旋門賞と見た。

439：名なしの競馬民

あー……なるほどな……。

仏二千ギニーとパリ大賞典(芝2400m)の舞台はロンシャン、つまりは凱旋門賞と同舞台だしな。

440：名なしの競馬民

三歳限定の凱旋門賞の前哨戦であるGⅡニエル賞(芝2400m)は挟むのかな。

441：名なしの競馬民

ローテーション的に厳しいからパリ大賞典から直行でしょ。

442：名なしの競馬民

でもニエル賞を叩かないと闘志を切らしそうな気もするが……。

443：名なしの競馬民

よほど下手な調教さえしなければ大丈夫だろ。

444：名なしの競馬民

それもそうか……。

445：名なしの競馬民

つてかスワーヴダンサーはこれが初の海外遠征だろ。大丈夫か？

446：名なしの競馬民

陣営は大丈夫と答えているが実態はいかに……。

447：名なしの競馬民

あんな馬だからこそ大丈夫じゃろ。大舞台にめっぽう強いのもある。

448：名なしの競馬民

しかも仏国の二千ギニーと来た。これはもう勝つたろ。

449：名なしの競馬民

スワーヴダンサーの血統も欧州の深い芝にはベストマッチ。

450：名なしの馬好き

これはスワーヴダンサーの一点買いですなあ！

451：名なしの競馬民

出たぞ！ 馬好きだ！ とっ捕まえろ！

452：名なしの競馬民

アイアイサー！

453：名なしの馬好き

なあんですとお!?

454：名なしの競馬民

ヨシ！ 確保！

455：名なしの競馬民

あの野郎、ホープフルステークスでスワーヴダンサーが勝つと聞いて馬券を買い直したら本当に当たっちゃまったじゃねえか！

456：名なしの競馬民

ただの称賛で笑う。

457：名なしの馬好き

今年の仏二千ギニー、ズ・バ・リ！ スワーヴダンサーが圧勝するでしょう！

458：名なしの競馬民

馬好きの宣言キター！

459：名なしの競馬民

そーいや、馬好きで思い出した。

460：名なしの競馬民

ンンン、どうなされた？

461：名なしの競馬民

口調が移ってんぞ……。

462：名なしの競馬民

こいつ、スワーヴダンサー以外のスレツドにも時折現れては大抵単勝を当てていくんよな。

463：名なしの馬好き

まあまあそんなことは今は置いておきましょうぞ。さき、ご覧あれ。仏二千ギニーのパドックのお時間ですぞ。

スワーヴダンサーの毛艶はピツカピカの好馬体！ 暴れっぷりは普段以上ですが。

464：名なしの競馬民

二足で立ち上がんなよ。お茶を吹き出したじゃねえかよ。

465：名なしの馬好き

対抗馬は重賞勝ち馬のヘクタープロテクターですな。けれどもあ
あ、悲しきかな悲しきかな。この馬は間違いなくスワローヴダンサーに
圧倒されるでしょう。

466：名なしの競馬民

今回は七頭立てか。スワローヴダンサーは一番人気だな。

467：名なしの競馬民

そろそろスタートだー！

468：名なしの競馬民

スワローヴダンサーは……大外枠です。

469：名なしの競馬民

あのオーナーの所有馬はここから勝たなきや。

470：名なしの競馬民

スタートしましたッ！ スワローヴダンサーはやや遅れてゲートか
ら飛び出す！

471：名なしの競馬民

この程度なら大丈夫や。

472：名なしの競馬民

馬好きよ、展開を読め。

473：名なしの馬好き

ははっ。スワーヴダンサーは残り500mで蘆名正義騎手の手綱捌きで上がってくるでしょう。七頭立てなうえ、欧州ではまだ名も知れていないので、イージーゴアの時のような包围はないと思っていいです。安心してくだされ、勝ちますよ。

474：名なしの競馬民

残り500mを通過と同時に蘆名が手綱を押しして押しまくる！

475：名なしの馬好き

……拙僧の読み、ご覧いただけただけか？

476：名なしの競馬民

スワーヴダンサーが先頭！ヘクタープロテクターも伸びてくるがこれは届かない！差がどんどん開いていくばかり！

477：名なしの馬好き

さてさて。ここでひとつ関係のない預言を。

478：名なしの競馬民

ん？なんだなんだ？

479：名なしの馬好き

あのオーナー、1991年から1992年の末にもう一頭、馬を買われますよ。牝馬を。

480：名なしの競馬民

スワーヴダンサー一着！スワーヴダンサーの完勝だ！差は六馬身！

481：名なしの競馬民

オーナー……どれだけ金を持つてるんだ……。

482：名なしの競馬民

やはり変態だよ。

483：名なしの競馬民

それではこれにて。拙僧は失礼致す。

484：名なしの競馬民

牝馬か。いったいどんな牝馬だ……。

485：名なしの競馬民

さあ……？

486：名なしの競馬民

その預言は流石に外れるだろ。

487：名なしの競馬民

そうだそうだ！

「——ええ、はい。よろしければなんですが、そちらの牧場で産まれた子馬を買わせていただけませんか？」

——来年であればいいですか。わかりました。では先に評価額の二倍の額を払わせていただきます。

……！ あ、ありがとうございます！ で、では、来年の一月に来てくれるということですね！ はい、その手はずでお願いします。それでは「

豪脚で魅せる舞手編 その六 仏ダービー

708：名なしの競馬民

今年のダービーも幕を下ろしたなあ。トウカイテイオーの圧勝で。

709：名なしの競馬民

中原、本当に上手すぎだろ、ダービーを逃げ切るなんてさ。

710：名なしの競馬民

まさかアイネスフウジンみたいに早くも先頭に立って抜かせなかつたとは……。

711：名なしの競馬民

だけどゴール前でちよつと差を詰められてたよな、岳巧騎乗のシヤコーグレイドに。

712：名なしの競馬民

それでも二馬身も離れたんや。強いことに変わらない。

713：名なしの競馬民

バテている様子もなかった。

714：名なしの競馬民

これは三冠確定。

715：名なしの競馬民

なお中原の表情。何が起きたかはわからんが真っ青だったぞ。

716：名なしの競馬民

なんでやろう、勝つたのに。

717：名なしの競馬民

あの中原がウイニングランも控えめに終わらせたし……いつたい何が……。

718：名なしの競馬民

……もしかして骨折、とか？

719：名なしの競馬民

真面目にあり得るぞ。

720：名なしの競馬民

となれば、菊花賞は回避……三冠は達成できない……。

721：名なしの競馬民

勝者インタビューで笑いながら「三冠は目前。この勢いを維持したい」ってコメントしていたんだが……。

722：名なしの競馬民

あれは作り笑いにしか見えなかったぞ……。

723：名なしの競馬民

スワーヴダンサーのことを尋ねられたら即行で何か答えるけど、今回に限っては答えずそそくさと戻っていったし……。

724：名なしの競馬民

心に余裕がないって感じ。

725：名なしの競馬民

そんなお前らに悲しいお知らせがひとつ。

726：名なしの競馬民

えっ……。

727：名なしの競馬民
まさかとは思うが……。

728：名なしの競馬民
二冠馬トウカイテイオー、ダービー後に脚を痛めた模様。けど前哨戦さえ使わなければ菊花賞にはなんとか間に合いそうとのこと。

729：名なしの競馬民
あー……やっぱりな……。

730：名なしの競馬民
でも菊花賞に間に合うのが不幸中の幸いだ。

731：名なしの競馬民
安堵したわ……。

732：名なしの競馬民
あとこちらも忘れてはいかんど。スワーヴダンサーが出走する仏ダービーを！

733：名なしの競馬民
これ勝てば仏二冠馬だ！

734：名なしの競馬民
レースは今から行われるんよね？

735：名なしの競馬民
そうそう。フランスで今からや。

736：名なしの競馬民

頼むからフランス旅行だけで帰国するのはやめてくれ……。

737：名なしの競馬民

フランス旅行という名目で仏二千ギニーを勝ってるやろ！ いい加減にしろ！

738：名なしの競馬民

テンションさえどうにかなれば大丈夫でしょ。抑えられるかは話が別だが。

739：名なしの競馬民

二足歩行だけは心臓に悪いからしないでくれ……。

740：名なしの競馬民

スワロヴダンサーは一番人気。対抗馬はなく一強状態と報じられている様子。

741：名なしの競馬民

仏二千ギニーを勝っているうえ、距離不安もないし妥当。

742：名なしの競馬民

やな。そのせいかまた五頭立て。ちなみにスワロヴダンサーは五番。

743：名なしの競馬民

少なすぎ問題。これは勝利確定演出。

744：名なしの競馬民

もうすぐゲートに入るぞ。

745：名なしの競馬民

何度も言ってるんだが、あのオーナーの持ち馬ってゲートを嫌がる馬がない。

746：名なしの競馬民

ゲート芸馬がホントいないよ。正直スワーヴダンサーにごねてほしかった。

747：名なしの競馬民

ガチで強い競馬するのにネタ馬扱いなスワーヴダンサーエ……。

748：名なしの競馬民

仏ダービー、いよいよ発走よー！

749：名なしの競馬民

スタートですっ！ 各馬、平凡すぎるスタート。

750：名なしの競馬民

辛辣で笑った。

751：名なしの競馬民

五番の日本勢、スワーヴダンサーは最後方。しかし超スローペースに持ち込まれた。これは撃沈か!?

752：名なしの競馬民

非常にキツイ展開。

753：名なしの競馬民

1000mを通過！ 超スローペースな展開は変わらない！

754：名なしの競馬民

なんとかここから少しでも上がってくれば……。

755：名なしの競馬民

いや、それは無理。前が壁になってるもん。

756：名なしの競馬民

撃沈濃厚だわ……。

757：名なしの競馬民

最終直線！ 最終直線！ スワーヴダンサーがスパートをかけ始めた！

758：名なしの競馬民

しかし馬群は横一列に広がっている！ これを貫けるか!?

759：名なしの競馬民

穿て……穿て……。

760：名なしの競馬民

いけえええッ！

761：名なしの競馬民

蘆名が鞭を振るう！

762：名なしの競馬民

貫いた！ 貫いた！ 馬群の僅かな穴から一気に抜け出した！

763：名なしの競馬民

他馬の鞍上たちがあんぐりと口を開けてて笑う。

764：名なしの競馬民

それだけ衝撃だったってことだ。

765：名なしの競馬民

構わずスワーヴダンサーは駆け抜ける！

766：名なしの競馬民

押し切った！ 押し切った！ ゴールインツ！

767：名なしの競馬民

仏ダービーは日本のスワーヴダンサーが五馬身差で制した！ 仏二冠の戴冠だ！

768：名なしの競馬民

ヨシ！ 前が塞がれたときはヒヤリとしたが、よくぞ勝ってくれた！

769：名なしの競馬民

観客からも歓声があがっているなか、蘆名が右腕の拳を天高く突き上げた！

770：名なしの競馬民

「つしやおらアッー」って聞こえたんじやが……。

771：名なしの競馬民

これで蘆名も晴れてダービージョッキや。

772：名なしの競馬民

仏ダービーだけどね。

773：名なしの競馬民

これで仏二冠。残すはパリ大賞典。

774：名なしの競馬民

そしていよいよ凱旋門賞、やる？

775：名なしの競馬民

狙いはたぶんそれだな。

776：名なしの競馬民

パリ大賞典を勝てれば凱旋門賞勝利も堅いぞ！

777：名なしの競馬民

凱旋門に日本の旗を打ち立ててくれ！

778：名なしの競馬民

そのためにまずはロンシャン制圧やぞ。

779：名なしの競馬民

次のパリ大賞典で仏三冠馬……。

780：名なしの競馬民

スワーヴダンサーなら勝てるで！

781：名なしの競馬民

世界に日本を刻めええッ！

782：名なしの競馬民

仏三冠！ 仏三冠！

783：名なしの競馬民

一方、ただただ蹂躪されるフランス勢。

『スワーヴダンサーっていいのか。とても面白そうな馬がジャパンから来たようだね。』

——でも僕たちは負けないよ。この僕、アレン・ムンラと愛馬のジェネラスは、最強なんだから。

だから次のダービー、必ず勝とう。ジェネラス』

その日、欧州に電撃が走った。

——ダービーを大差で制する馬、現る！ 鞍上はアレン・ムンラ騎手！

豪脚で魅せる舞手編 その七 パリ大賞典

89：名なしの競馬民

日本競馬は例年通り夏競馬。が、今年の俺らの注目はそこじゃない。

90：名なしの競馬民

スワーヴダンサーが仏三冠目のパリ大賞典をどうやって勝つのか、に焦点がいつてる。

91：名なしの競馬民

競馬場はパリロンシャン。芝2400mのクラシックディスタンス形式。凱旋門賞の前哨戦で有名なニエル賞・フオワ賞に似たようなレースだ。

92：名なしの競馬民

パリロンシャン競馬場は仏二千ギニーが行われた場所でもあったよな？ だったらスワーヴダンサーが勝つ。

93：名なしの競馬民

意外とわからんで。あそこでのクラシックディスタンス(2400mのレース)は高低差とコーナーが激しいから、スタミナ勝負にもなる。

94：名なしの競馬民

それにつけ加えるなら、パリロンシャン競馬場名物の偽りの直線フォルストレーと呼ばれる250mの直線では、騎手がどうやって馬を騙すか。もしくはレースが続いているかを認識させる勝負所でもあるぞ。

95：名なしの競馬民

騎手の技量が問われるレースでもある。だからこそパリロンシヤ

ン競馬場が凱旋門賞の舞台だと思う。

96：名なしの競馬民

馬の素質、騎手の技量。これらがパリロンシャンで勝つ最大の要
点。

97：名なしの競馬民

けっこうシンプル。なお、難易度。

98：名なしの競馬民

シンプル詐欺の代表例すぎる。

99：名なしの競馬民

簡単そうに見えて一番とっていいほどに難しいやつ。

100：名なしの競馬民

パリロンシャンで完璧な騎乗ができないことが多いのも領ける。

101：名なしの競馬民

さらにこれが凱旋門賞だった場合、欧州全土から強豪が集うため、
混戦にもつれ込みやすい。出走馬も欧州ではかなり多いほうだし。

102：名なしの競馬民

たまに伏兵が瞬く間に抜け出てくるから、完全に魔境なんだよな。

103：名なしの競馬民

しかし今回は凱旋門賞じゃない。パリ大賞典だ。伏兵にあっさり
躲かれるというのはほとんどの確率で起きないはず。

104：名なしの競馬民

ほとんど凱旋門賞みたいなレース体型だけだな。

105：名なしの競馬民

おい、スワーヴダンサーがゲートに入り始めたぞー！

106：名なしの競馬民

馬番は十五頭中の二番だわ。内枠。

107：名なしの競馬民

スワーヴダンサーが仏三冠を掴み取れるか。それとも伏兵が搔つ攫っていくか。間もなく発走！

108：名なしの競馬民

アカン、心臓が破けそう。

109：名なしの競馬民

安心せよ。俺も。

110：名なしの競馬民

ちつとも安心できないよ!?

111：名なしの競馬民

パリロンシャンで栄光を勝ち取るのは果たして……!?

112：名なしの競馬民

今、ゲートが開くっ！

113：名なしの競馬民

スタートしたぞ！ スワーヴダンサーはやや出遅れる！

114：名なしの競馬民

そのまま馬群の後団につけ、スワーヴダンサーを少し外に持ち出し

た。

115：名なしの競馬民

なるほど、スタミナのロスを恐れて外を走る馬があまりいないからそこを突いたってわけだな。

116：名なしの競馬民

下手に内を突くと馬群に吞まれて伸びなくなるから。でも大丈夫か？ スワーヴダンサーのスタミナが保つか？

117：名なしの競馬民

正直、鞍上のマサヨシは新人だからあまり信用ならん……。

118：名なしの競馬民

ここまで決め手となるような動きはなし。ペースも各馬、とても安定している。

119：名なしの競馬民

仏ダービー以前のレースはスローペースになることが多かったので少し不安。

120：名なしの競馬民

残り800m。逃げ馬がやや後退してきた模様。

121：名なしの競馬民

パリロンシャン、しかも2400mを逃げ切るのはかなりキツイわなあ……。

122：名なしの競馬民

先行勢はこれを好機と見たか、ペースを少しづつ上げていってる。

123：名なしの競馬民

後方勢はスワーヴダンサーが中団に来たぐらい。

124：名なしの競馬民

ペースを読んでいたのか？ マサヨシは。

125：名なしの競馬民

フォルスストレート
偽りの直線に突入するぞ！

126：名なしの競馬民

ここからが勝負所！ 一気にハイペースに切り替わる！

127：名なしの競馬民

外にはスワーヴダンサー。現在五番手。

128：名なしの競馬民

さあ、最終直線！ スワーヴダンサーが四番手に上がってきている！

129：名なしの競馬民

頑張ってくれ！ 頑張ってくれ！

130：名なしの競馬民

大外から直線一気にスワーヴダンサー！ やはりスワーヴダンサーがぶっ飛んできた！

131：名なしの競馬民

残り2100m時点で……六、七馬身も引き離している！

132：名なしの競馬民

これは決まった！ スワーヴダンサー、一着でゴオオオオオール！

133：名なしの競馬民

八馬身差だぞ！ 引き離し方も強烈すぎたわ！

134：名なしの競馬民

大外から瞬きする間も与えず、差し切った。

135：名なしの競馬民

非常に強い勝ち方をしてくれたな。

136：名なしの競馬民

とにもかくにも、これで仏三冠馬だ！

137：名なしの競馬民

日本調教馬史上初の海外の三冠を制した名馬となった。

138：名なしの競馬民

あんなに嘶いたり、立ち上がったたりしていた馬がまさか三冠馬に……。

139：名なしの競馬民

おっ、スワーヴダンサー陣営のマサヨシと吉長、オーナーがウイナーズサークルに出てきたぞ。

140：名なしの競馬民

オーナー、満面の笑みを浮かべとる。

141：名なしの競馬民

吉長、マサヨシは顔を強張らせとるがな。

142：名なしの競馬民

やっぱりオーナーから見てもマサヨシは最高の騎乗をできていたのね。

143：名なしの競馬民

真つ先に吉長とマサヨシに「ありがとう」と叫ぶオーナー。

144：名なしの競馬民

叫ぶなし！ うるせえ！

145：名なしの競馬民

ん？ オーナーが深呼吸したぞ……？

146：名なしの競馬民

……え？

147：名なしの競馬民

まつ、まつ、マジで!?

148：名なしの競馬民

遂に凱旋門賞挑戦が明言されたで！

149：名なしの競馬民

最強の日本馬が敗れ去った、絶対に見てはいけなかった夢を掴む時がいよいよ到来するぞお！

150：名なしの競馬民

パリ大賞典を楽勝できたのが大きすぎる！

151：名なしの競馬民

これで凱旋門賞戦線にスワールヴダンサーが明確に加わったな。

152：名なしの競馬民

日本に夢を持ち帰ってきてくれーッ！

153：名なしの競馬民

あの凱旋門に、我らが旗を！

154：名なしの競馬民

対抗馬は誰と予想できる？

155：名なしの競馬民

うーん。参戦がまだ明らかになっていないけど、今年の英愛ダービー馬かな。

156：名なしの競馬民

ほへえー！ どんな馬かわかる？

157：名なしの競馬民

英ダービーを大差、愛ダービーも大差でぶっちぎった欧州最強と目される馬。次走はキングジョージ六世&クイーンエリザベスステークス（芝2400m）の予定らしい。

158：名なしの競馬民

……嘘やろ？

「……スワローヴダンサー。予想以上に手強い馬かもしれないね。

けど仏三冠馬なんかには負けられない。僕はジェネラスを必ず、欧州

三冠馬にするんだ。

キミは最強の馬だ、ジェネラス。絶対に勝とうな、凱旋門賞。てっぺんをこの手に収めてやるんだ」

幕間・黒いステイヤー編　いよいよよスタート

あどけなさの残る漆黒の馬体は、しかして力が漲り始めていた。

可愛らしいつづらな瞳には、今はまだ小さいながらも、闘志の炎が宿っている。

その瞳は果たして——何を見据えているのだろうか。

まだ見ぬ強敵、それに打ち勝つ自身の幻、栄光を勝ち取る瞬間。あるいは——。

夏の暑さに比例するように夏競馬も本格化し始める七月。その最終週に入る頃、オーナーは吉長正之厩舎を訪ねていた。

オーナーは額を走る汗をハンカチで拭う。

「あつついですね、吉長先生」

「そうですね。馬もこの暑さでバテてしまいうんじやないかと思ってしまっぐらいには」

一方の吉長も、この猛暑には参っていた。

「馬は保ちますが、これでは乗るほうが堪えますわ」

苦笑しながら言う吉長。そういえば、と言葉を続ける。

「先週、入厩した二歳馬のライスシャワーですが、予想以上にいい馬ですよ。聞き分けがとてもよく、乗り役の指示にもしっかり応じてくれます。正直、鞍上は誰でもいいと思えるぐらいには」

ライスシャワー。牧場での育成を経て、つい先週に入厩したばかりの馬だ。その馬は吉長の予想を超えて賢かった。

「あと根性も目を見張るものがあります。スタミナも相当ありますし」

「……その話からするにステイヤーですか」

「はい。その通りです」

なるほど、とオーナーは零す。

「臯月賞の距離はこなせそうですか？」

「相手にも寄りますが、かなりギリギリです。マイラーの逃げ馬と当たると厳しいかもしれません」

「鬼門はそこですな、恐らく」

「ええ。そこさえ勝てれば三冠の可能性は高いです」

吉長の表情は自信に満ちていた。そして確信している。ライスシャワーは自分にとって思い出深い馬になると。

入厩したばかりだが、吉長にはわかった。

——ああ、この馬は強くなる。なんなら自分の想定も超えるぐらいに。

「……オーナー、改めてありがとうございます。ライスシャワーを預けていただいて。ライスシャワーは、ダービー馬の器です。しっかりと育て上げ、必ずダービーを勝たせます」

吉長は胸元で拳を握る。

「お願いします。吉長先生」

オーナーはただ一礼し、健闘を祈るばかりだった。

「ところでオーナー。ライスシャワーの鞍上なんです……」

「吉長さん、ライスの追いが終わりましたで」

「おう、ご苦労さん」

さらに言葉を紡ごうとする吉長の前に、帽子とゴーグルを装着した騎手とおぼしき若い男性が現れる。

すると彼はライスシャワーのオーナーがいることに気づいたようで、慌てて姿勢を正す。

「有力な若いものを運良く捕まえられました、栗東の者ですが」

吉長は若手騎手の背を二度叩き、挨拶を促す。

「——初めまして、オーナー。谷潤三郎たにしゆんざぶろうと申します。ライスシャワーの主戦騎手を任せていただき、ありがとうございます。必ずこの馬の力を引き出してみせます」

自信に満ち溢れた表情で、若手騎手——谷潤三郎は言った。

豪脚で魅せる舞手編 凱旋門賞 それぞれの挑戦

——凱旋門賞。競馬関係者なら誰もが夢見る世界最高峰の芝のレース。

クラシックディスタンス形式——いわゆる2400mという各国のダービーと同じ距離——で争われるレースだが、ダービーとは話が全く違ってくる。

パリロンシャン競馬場。激しいアップダウンは馬のスタミナを削り、長いコーナーは騎手の技術を試し、最後の難関の偽りの直線フォルスストレートは馬と騎手がどれだけ一体化できているかを問う。

馬と騎手の実力が最重視される、まさに実力主義の権化のようなレースだ。

過去に、年代こそ違えど、三頭の日本馬が凱旋門賞制覇を試みた。

1969年にスピードシンボリ、1972年にメジロムサシ、1986年にシリウスシンボリ——これらの馬たちが、世界を目指さんとした。

しかし世界の壁は、あまりにも高すぎた。

スピードシンボリは着外、メジロムサシは十八着、シリウスシンボリは十四着。

夢は、夢く砕けていった。

けれども、それで日本が黙るわけがない。

1988年に日本調教馬のイージーゴアが二歳限定の米国GIを初制覇からの連勝。さらにはアメリカ最高峰に位置するブリーダーズカップの一角——BCジュヴェナイルを奪取。

それは、明確に日本が世界に通用することが証明された瞬間だった。

そして——1989年のBCクラシック。

アメリカ最高峰の舞台に、日本の旗が堂々と立ち上がる。

『イージーゴアが来た！ イージーゴアが来た！ 超大外から他馬をぶつちぎって今先頭に立った！ 差がどんどん開いていく！ これは大勢決まった！』

イージーゴア、一着でゴールインッ！ 世界最高峰の大舞台で、日本がやりましたッ！ 鞍上の柴義富もガッツポーズ！』

当時の日本最強——否、世界最強馬のイージーゴアがBCクラシックで信じられないほどの大差をつけ、勝利した。世界に衝撃を走らせるには、十分すぎる一戦だ。

だが衝撃は、それだけでは終わらない。

『外から来るか!? 外から来るか!? 来た来たスワーヴダンサー！ 直線一気に差し切り、今、ゴールイン！ 日本調教馬として初の仏三冠の戴冠ですッ！』

現代——1991年。スワーヴダンサーが日本調教馬として初めて仏三冠を達成する。欧州勢を相手に、してやったりである。

そのスワーヴダンサーが次なる標的としたのが——日本勢が悉く敗れ去った凱旋門賞だ。

ここから先の舞台は、誰もが体感したことのない未知の領域。それにスワーヴダンサーは、脚を踏み入れんとしている。

今年こそ、日本の悲願は叶うのだろうか。それともまたもや敗れ去るのだろうか。

凱旋門賞は、迫っていた。

ターフの上を、優駿たちが駆け抜けていく。

彼は観客席でそれを眺めていて、とても高揚している。

——馬に乗るのもとても楽しいけど、こうして眺めてるのもまた一興か。

そんなことを考えながら、彼はニヤニヤと笑ってどの馬が勝つかを予想する。

——あの後方にいる鹿毛の馬が勝ちそうだ。とても脚色がいい。

と、予想を掻き立てているうちに最終直線。彼が勝つと確信した馬が次々と他馬を抜き去り、一着でゴールした。

観衆からは歓声ではなく、悲鳴が湧き上がった。

——……？ どうして勝った馬を讃えない？ なぜだ？

彼は疑問を抱く。そんなとき、八着に敗れたのだろう栗毛の馬が、立ち止まって観客席にいる彼のほうに、目を向けた。

——後悔だけはしないでくれ。

そんな言葉が彼の脳内に響いた頃には、その馬は立ち去っていた。

『ハア……ハア……』

アレンは呼吸を切らしながら、ベッドから起き上がった。

『なんだったんだ……？ 夢か……？』

額から冷や汗がたらりと流れる。苦しそうに息を吐く。

『と、ともかく、今日はジエネラスの凱旋門賞だ。そろそろ準備をせねば……』

よろつきながらも、アレンは今いる部屋から出ていった。

彼は馬に乗っていた。黒毛の馬に。

スタートなどなかった。気づけばレースのさなかだった。

最終直線。彼は手綱が重いことに違和感を覚える。

けれども、その馬の伸び脚は凄まじかった。逃げて差す——まさにそんな状態だ。

しかしゴール板100m前。一頭の馬に、差された。

■■■■と鞍に馬名が書かれており、その馬が先頭のままゴールした。

彼が乗っていた馬は二着に終わってしまった。

黒毛の馬がふと立ち止まる。

——いいか？ よーく聞け。どんな状況でも恐れるな。戦え。

彼の脳内に、そんな言葉が響き渡る。けれど、自然とそれを受け入

れていた。

ガバつと起き上がった途端に布団を放り投げ、蘆名正義は目覺めた。

「……『恐れるな。戦え』、か」

正義は、夢の中で聞いた言葉を反芻する。

「……ああ、いつてくる」

その目つきは、逞しいものとなっていた。

豪脚で魅せる舞手編 凱旋門賞

——遂にここまで来てしまったか。

オーナーは両腕で空を仰ぐ。

——まさか、本当にロンシヤンの空を仰げるなんてな。夢にも思っ
てなかった。

熱くなる目元を抑え、両頬を叩く。ここからが本当の始まりだから
だ。

今、日本の夢が駆け抜ける大舞台が、幕を開けようとしていた。

「ああ——俺の夢が、始まりを迎える」

「マサ、どうした？ 今日とは絶好調じゃないか」

そのような疑問を抱きながらも、嬉々とした感情を吉長は隠せない
でいた。

マサと呼ばれた騎手——蘆名正義が眉を寄せて考える。

「夢見がよかった、からでしょう」

「ほう？」と腕を組む吉長。これは気になっているなど正義は頭を搔
きながら口を開く。

「黒毛の馬に騎乗した夢です。夢の中でそいつに激励されましたね」

「黒毛の馬？ もしかしてシービーか？」

「たぶん違います。そいつは馬群のハナを切ってたので」

「シービーはよく暴走して前に行きたがってたからな。恐らくシー
ビーだろ」

「だったら夢の中でも鞍上は吉長先生だと思います。もし俺が乗った
場合、夢の中でさえ吉長先生にしばかれることになりますよ」

「……俺ってそんなに鬼か？」

「はい。鬼です」

明らかに凹む様子を見せる吉長。それでもすぐに立ち直り、正義の背を強く叩く。

「……勝ってこい。ただそれだけ言わせてもらおう」

「……はい！」

正義は、スワーヴダンサーのいるパドックへと軽い足取りで歩みだした。

スワーヴダンサーに騎乗し、まず真つ先に正義はこう感じた。

「とても落ち着いているな。荒ぶる様子もない。まるで嵐の前の静けさだな」

正義の背に嫌な冷や汗が伝う。エンターテイナーで暴れん坊気質のスワーヴダンサーが非常に大人しく、歩調も蟹歩きではない。

——まずいかもしれない。正義の表情がみるみる強張っていく。

蟹歩きをしたり、嘶いたり、荒ぶった大レースでは大抵圧勝だった。しかし今は落ち着いている。

「……二番人気、か。一応パリロンシヤンのクラシックゲイスタンスを勝ってるんだがなあ」

「まあいいや」と呟き、スワーヴダンサーの手綱を握る。

GI凱旋門賞。大本命馬は英愛ダービー、キングジョージを圧勝した欧州最強馬ジェネラスだという。

もちろん、正義は声高らかに叫びたい。だがそれがどうした、と。俺たちのスワーヴダンサーこそが最強だ、と。

「馬場はとても重くなった、か。晴れてんのにな」

足下の芝に目を向け、正義は言う。そして確信する。

「ペースさえ維持できれば勝算はあるぞ……」

正義はふとパドックを歩くジェネラスのほうに視線を定める。

——マークする馬はただ一頭。あのジェネラスだな。あれは今ま

で良馬場で先行して勝っている。しかし今回は重馬場。さあ、どう出る？

——作戦を読まれている。ジェネラスの鞍上を務めるアレン・ムンラは視線を感じながら、最悪の想定を思い起こす。

『……まずい。しかもとんでもない重馬場だ』

誰にも聞かれないような小声で、アレンは呟く。

アレンは改めて作戦を練り直す。

ジェネラスという馬は、馬群の先団につけて抜け出す王道の競馬を得意とする。しかし今回ばかりはそういうわけにはいかなかった。

アレンが口にした通り、とんでもない重馬場なのだ。よほど適性がないと追い込むことが不可能なぐらいに。

さらにアレンに追い打ちをかけるように、そんな適性を有する馬がこのレースに出走している。

——二番人気の仏三冠馬スワーヴダンサー、この馬には要警戒だな。

でも勝つのは僕らだ、と言葉には敢えてしなかったものの、ジェネラスの手綱を改めて握り締めた。

当のジェネラスも、『任せてくれ』と言わんばかりにぶるる、と小さく喉を鳴らした。

『こちら、フランスのパリロンシャン競馬場からお送りします。今年の出走馬は十六頭。ゲート入りの時間となります。』

——日本が誇る二番人気スワーヴダンサー、四番に入りますゆつたりとした集中しているような足取りで、スワーヴダンサーが

ゲート入りする。鞍上の正義は落ち着かない様子で辺りをキョロキョロと見回しているが。

『一番人気十番ジエネラス、ゲート入りが完了しました』

一方のジエネラスも、ゆっくりとゲートに入る。

『日本の悲願——凱旋門賞！ 今年はそれに日本の仏三冠馬スワーヴダンサーが挑みます！ 間もなくスタートしますッ！』

長いようで短い静寂が、ターフを包み込む。そして——、

凱旋門賞の火蓋は切られた——！

『ハナを切ったのは……なんとまさかまさかのジエネラス！ 今までの先行策とは打って変わって、いきなりハナを奪いました！』

そのことに、競馬場にはどよめきが満ちていた。

ジエネラス鞍上のアレンは、額に冷や汗を滲ませていた。

そんななか、重馬場状態のパリロンシャン2400mを逃げ切れるほどのスタミナがあるか、アレンはジエネラスを信じる他なかった。そう、これはまさに、一か八かの賭けだ。

——信じてるぞ、ジエネラスッ！ お前ならやれるッ！

アレンは全てを、最高^{ジエネラス}の相棒に託す。

『日本のスワーヴダンサーはやや後方に位置取った！ 芝はとてつもなく重いが大丈夫か!?』

スワーヴダンサー鞍上の正義は、内心で歯を軋ませていた。

正義はジエネラスがいきなりハナを切ることも、逃げることも読んでいたが、それは最悪の想定だった。

今までより前目に着ける先行策を用いてくる。そう読んでいたが、しかし現実では予想よりも大胆な騎乗をしてきている。

現在、スワーヴダンサーは十一番手。だが馬群に横を塞がれており、あまり好ましくない位置であることは、正義もわかっていた。

——まずいな。最終直線までに抜け出せるか？

再び背にヒヤリと冷たいものが伝う。

ゴールまで、あと1700m——。

「あの位置か、本当にまずいぞ」

レースを遠目に眺め、吉長はポツリと零す。

「しっかし、これは予想外だぞ……」

予想外というのは、もちろんジエネラスのことだ。

ジエネラスはスタミナのロスを恐れ、前目に着け、逃げはしない――詰めが甘かったと吉長は猛省する。

「……そうか、重馬場か」

思い出したようにハツと顔を上げる。

まさかこんな基礎も忘れていたとは、と吉長はさらに己を恥じた。重馬場で馬群に吞まれるのは危険。騎手時代から知っていたことだった。

さらに以前、吉長が確認した過去のレース内容を鑑みると、ジエネラスはスワーヴダンサーのように力で押し切るような馬ではない。どちらかというスピードで抜け出すタイプだ。

このレースの展開は、間違いなくジエネラスのほうに傾いている状態である。

一方で、スワーヴダンサーは馬群に包まれ最終直線ならば撃沈状態。非常に危うい状況だ。

「頼む、頼むぞ……」

ただただ吉長は「勝ってくれ」と祈るしかない。

ゴールまで、あと1200m――。

「……………」

オーナーは一度も目を離さずに、夢の舞台を駆け抜ける名馬たちを見届けていた。

その中でもやはり、スワーヴダンサーとジエネラスに注目している。

ニヤリ、とオーナーは口角を上げる。

「最終直線。あの二頭はどう動くか？」

顎に手を当てて、予想してみる。

「叩き合いか？ ジエネラスが逃げ切るか？ スワーヴダンサーが差し切るか？」

……駄目だ、全く読めん」

ふう、とオーナーは息をつく。

「さあ、いけるか？ スワーヴダンサー？」

ゴールまで、あと800m——。

『各馬、スローペースな展開のまま、偽りの直線フォールスストレートに差しかかります！

先頭は変わらず欧州最強馬ジエネラス！ 逃げ馬にも決して先頭は譲らない！』

——ハッ、先頭はなんだかいけ好かないあの野郎か。まだ粘ってやがったか。

『直線に入りました！ スワーヴダンサーは未だ中団！ これは非常に厳しいか!? 先頭はジエネラス！ 先頭はジエネラス！』

——ようやく、かよオツ。鞭打つのがおせーんだよ、マサヨシ。
『偽りの直線フォールスストレートを抜け、最終コーナー！ ここでスワーヴダンサーがかつ飛んできた！ あつという間に四番手を躲し、三番手だ！』

——捉えたぜ？ 栗色野郎ツ！

『スワーヴダンサーが迫る！ ジエネラスに襲いかかる！ そのまま最終直線！ スワーヴダンサーが躲せ……ない！ ジエネラスも意地で躲アレシさせない！ 一馬身差が縮まらない！』

——悪いが、相棒アレシに全てを託されているのでな。そうやすやすと抜

かれるわけにはいかん！

——チツ！ 意地でも抜かせねえつもりか！

『スワーヴダンサーが徐々に迫る！ 並んだ！ 並んだ！ 両馬一步も譲らない！ 譲れない！ 譲れない！ 譲れない！ この凱旋門にある！』

——根性勝負だ、栗色野郎ッ！

——臨むところッ！

『互いに競り合う！ 互いに競り合っている！ 疾風の如き末脚と灼熱のように燃え盛る根性がぶつかり合う！ 残り50m！』

——ウオオオオオ——ッ！

——ガアアアア——ッ！

『二頭もつれたままゴール！ 三着とは九馬身も離れている！ これは大接戦！ 大接戦でゴール！ 写真判定だ！』

——……ハッ。

——つ、よい……。

ジエネラスとスワーヴダンサー。二頭は大接戦を巻き起こして、もつれ合ったままゴールインした。

日本では、誰もがスワーヴダンサーが差し切ったと確信した。

欧州では、誰もがジエネラスが粘り切ったと確信した。

結果は——。

「……スワーヴダンサーはとてもいい馬です、オーナー」

「ああ、いい馬だよ。彼は」

「改めて俺を乗せてくださって、本当にありがとうございます」

蘆名正義がスワーヴダンサーから降り、歓声が巻き起こる。

人はみな、あるヒーローの凱旋に沸いていた。

「また来年も挑みませんか？ 凱旋門賞」

「そのつもりだよ、マサヨシくん」

「次はジャパンカップだ。頼むよ」

「はい！」

——ジエネラス、日本のスワーヴダンサーとの熾烈な競り合いを制し、欧州三冠達成！

後日の欧州競馬は、大いに盛り上がった。

黒いステイヤー編 その一 新馬戦

669：名なしの競馬民

本当に惜しかったなあ、凱旋門賞は。

670：名なしの競馬民

てつきり勝ったと確信して舞い上がったら、この無情な結果……。

671：名なしの競馬民

ハナ差二着、な。ちと納得がいかんのが本音。

672：名なしの競馬民

ほとんど差がなかったよな。俺もこれには首を傾げてる。

673：名なしの競馬民

でもお互いにとてつもなく強い競馬をしたのは間違いない。

674：名なしの競馬民

あの叩き合いはもう二度と見れるようなものじゃあないね。それぐらい、実力が拮抗していた名勝負だった。

675：名なしの競馬民

どちらが勝つか全くわからない、最高のマッチレースだわ。

676：名なしの競馬民

ジェネラス対スワーヴダンサーの一騎打ちとかいう最高で最大ク
ラスの決戦。

677：名なしの競馬民

ダンシングブレーヴの凱旋門賞に並ぶ名勝負だと思う。

678：名なしの競馬民

まさに最高の凱旋門賞だぞ。

679：名なしの競馬民

マサヨシもとてつもないプレッシャーの中でよく頑張ってくれたよ……。

680：名なしの競馬民

その後の菊花賞も最高だということをお忘れなく。

681：名なしの競馬民

トウカイテイオーが後方から追い込んできたシャコーグレイドとレオダーバンを振り切って三冠を達成したんだよね。

682：名なしの競馬民

鞍上の中原が残り30m辺りで手綱の扱きを緩めたときは慌てたわ。

683：名なしの競馬民

それでも振り切って三冠を達成した。トウカイテイオー自身の能力も相当にあることが証明された一戦。

684：名なしの競馬民

父シンボリドルフに次ぐ父子無敗三冠だろ？ 凱旋門賞といい、頭がオーバーヒート寸前だ。

685：名なしの競馬民

だけど中原は意味深なコメントを残してたよね。「ここからが本当の戦い」って。

686：名なしの競馬民

秋の古馬戦線には春の天皇賞馬メジロマックイーンに、凱旋門賞で激戦を繰り広げた仏三冠馬スワーヴダンサーが参戦予定なのもある。

687：名なしの競馬民

今週がその秋の古馬戦線の火蓋が切られるとき。

688：名なしの競馬民

秋の天皇賞があるな。ここに春の天皇賞を制したメジロマックイーンが出走予定。

689：名なしの競馬民

タマモクロス、スーパークリークに続く天皇賞春秋制覇となるか、見届けようぜ。

690：名なしの競馬民

なあなあ、突然ですまんが、今日は東京で新馬戦があるんよ。ついでに観戦しないか？

691：名なしの競馬民

芝2000mの新馬戦か。ステイヤーが揃いそうな舞台や。暇だし観戦するわ。

692：名なしの競馬民

既にパドックの時間だけど、一番人気は誰っぽい？

693：名なしの競馬民

谷潤三郎っていう若手騎手が乗ってる黒毛の馬。鞍上は最近、快進撃を遂げているらしい。

694：名なしの競馬民

ライスシャワー、ねえ。瞳が可愛らしいから応援だけするわ。

695：名なしの競馬民

確かにつぶらな瞳をしてるな。めっちゃ可愛い。

696：名なしの競馬民

パドックで辺りをキョロキョロ見回してる。可愛い。

697：名なしの競馬民

一方のタニジュン。不気味に笑ってんぞ。

698：名なしの競馬民

イケメンがやると見栄えがいいのが最高にズルい。

699：名なしの競馬民

なんか考えてやがんで。

700：名なしの競馬民

注意しとけよ！ ライスシャワー鞍上のタニジュンは相当なトリックスターだ！

701：名なしの競馬民

本命馬に乗っても強いし、穴馬でも強いのが厄介。

702：名なしの競馬民

一部では岳巧以上の天才騎手と噂されるほどとは……。

703：名なしの競馬民

栗東でも「谷は上手すぎる」「勝てなかった馬を鮮やかに勝たせてくれた」「稀代の名手」とか……。

704：名なしの競馬民

そんなこんな言っているうちに全馬がゲート入りしている。急げ。

705：名なしの競馬民

スタートツ！ ライスシャワーがロケットスタートを決め、そのまま……え？

706：名なしの競馬民

手綱を動かすのが早すぎないか!?

707：名なしの競馬民

いきなりハナを奪ったと思えば、大逃げかよ!?

708：名なしの競馬民

2000mで大逃げとかスタミナが保たんやろ。沈んだな。

709：名なしの競馬民

後続をどんどん突き放すライスシャワー！ 差は六馬身！

710：名なしの競馬民

かなりのハイペースで1000mを通過！ 後続で既にバテている様子の馬も確認される！

711：名なしの競馬民

一方のライスシャワーは全くバテていないどころか、さらにスピードを上げている！

712：名なしの競馬民

タニジュンは余裕の笑みを浮かべているぞ！

713：名なしの競馬民

1500m通過！ 展開はやはり超ハイペース！

714：名なしの競馬民
最終直線に入るぞッ！

715：名なしの競馬民
ライスシャワーがぐんぐん伸びる！ なんとというスタミナの持ち主だ!?

716：名なしの競馬民
沈まずにさらに伸びているのですが、これは。

717：名なしの競馬民
カブラヤオー状態で笑う。

718：名なしの競馬民
ライスシャワー、押し切ってゴールイン！ 差は六馬身！

719：名なしの競馬民
鞍上のタニジュンは楽しそうに笑ってる。怖い。

720：名なしの競馬民
しかも後続を一瞥してからだから、相当悪趣味。

721：名なしの競馬民
タニジュン、若手騎手なのになかなか思い切ったことをするなあ……。

722：名なしの競馬民
ライスシャワーは可愛い。タニジュンは怖い。

723：名なしの競馬民

可愛いと怖いが合わさると最強かもしれない。

724：名なしの競馬民

不気味系イケメンのタニジュンとつぶらな瞳が愛らしいライスシャワー。二歳戦線に真打ち登場か？

725：名なしの競馬民

こん？ 誰か出てきたぞ？

726：名なしの競馬民

変態オーナー！ 変態オーナーじゃないか！

727：名なしの競馬民

あのオーナーの持ち馬だったんかい！？

728：名なしの競馬民

真剣にライスシャワーの頭を撫でまくって和む。

729：名なしの競馬民

調教師の吉長もいるし！

730：名なしの競馬民

吉長厩舎にあのオーナーの馬が預託された場合、どうなるんだ？

731：名なしの競馬民

とんでもなく強い馬になる。

732：名なしの競馬民

凱旋門賞に挑む。それで掲示板になんとか入る。

733：名なしの競馬民

ライスシャワーがミスターシービーと化す。

734：名なしの競馬民

タニジュンが極端な騎乗しかしなくなる。

735：名なしの競馬民

大喜利みたいなのが始まってて笑った。

736：名なしの競馬民

ともかくにも、これでライスシャワーは一勝や。

737：名なしの競馬民

ところで、この馬の血統を知っている人はおる？

738：名なしの競馬民

父リアルシャダイ、母ライラックポイント、母父マルゼンスキー。

739：名なしの競馬民

情報提供に感謝。

740：名なしの競馬民

この血統はステイヤーだな。

741：名なしの競馬民

あの無尽蔵のスタミナにも納得。

742：名なしの競馬民

これからのクラシックが楽しみ。

743：名なしの競馬民

オーナー、まだライスを撫でてて笑う。

744：名なしの競馬民

ホンマや！ オーナーも可愛く見えてきた……。

745：名なしの競馬民

それ以上はいけないッ！

豪脚で魅せる舞手編 その八 ジャパンカップ

55：名なしの競馬民

秋のGIもいよいよ大詰め！

56：名なしの競馬民

十一月の四週目、ジャパンカップ。

今年の海外からの参戦馬は、凱旋門賞三着の牝馬マジックナイトを始め、アメリカから来訪した芝の強豪馬ゴールデンフェザント、ステイヤーズミリオン制覇のドラムタップス、そして、スワーヴダンサーを僅差で破った欧州三冠馬ジエネラスと、かなりの豪華メンバーと来た。

57：名なしの競馬民

それらを打ち破る日本馬は？

58：名なしの競馬民

やっぱり無敗の三冠馬トウカイテイオーでしょ！ 父である七冠馬シンボリルドルフを彷彿とさせる先行力で海外勢も完封しちゃうよ！

59：名なしの競馬民

トウカイテイオーは間違いなく来るよな。

60：名なしの競馬民

王道の先行競馬が大得意な馬だから、よほどの不利を受けない限り沈まない。穴党は泣いていい。

61：名なしの競馬民

穴党エ……。

62：名なしの競馬民

血涙を流す穴党が見える見える……。

63：名なしの競馬民

仏三冠馬スワーヴダンサーも忘れちゃあいかなよ。凱旋門賞での激走は未だに記憶に新しい。

64：名なしの競馬民

あと日本は芝の質が欧州とは全く違うしな。今回はジェネラスよりもスワーヴダンサーのほうに勝算がある。

65：名なしの競馬民

ところで天皇賞馬メジロマツクイーンは？

66：名なしの競馬民

秋の天皇賞で斜行をやらかして、一着から降着になったから敢えて挙げない。

67：名なしの競馬民

なにしとんねん、岳はさあ……。

68：名なしの競馬民

マジでキレかけたわ、ホンマに。

69：名なしの競馬民

ここに来て二着だったホワイトストーンくんが一着に繰り上がったとかいう……。

70：名なしの競馬民

日本競馬史上最も嫌な善戦マンからの抜け出し方だよ。ホワイトストーンが浮かばれない……。

71：名なしの競馬民

秋の天皇賞馬ホワイトストーンくんには、ぜひともメジロマックイーンに先着してほしい。

72：名なしの競馬民

ってか、ジャパンカップでの一番人気は誰や？

73：名なしの競馬民

三冠馬トウカイテイオー。同じ東京競馬場で開催された日本ダービーを勝っているのと、無敗であることが大きい。

74：名なしの競馬民

それにスワーヴダンサー、ジエネラスが続く形。

75：名なしの競馬民

各有力馬の馬番は？

76：名なしの競馬民

トウカイテイオーが三番、スワーヴダンサーが大外枠の十六番、ジエネラスが十一番や。

77：名なしの競馬民

東京競馬場で大外はキツすぎるで……。

78：名なしの競馬民

一方のテイオーは内枠か。先行馬には有利な枠を引いた。

79：名なしの競馬民

ってことは、テイオー有利だな。

80：名なしの競馬民

唐突だが以下、各騎手の意気込みインタビュー。

スワーヴダンサー陣営の蘆名正義騎手は「ジエネラスがまさかここに出走してくるとは、完全に予想外でした。凱旋門賞での雪辱を晴らしたいです。もちろん、三冠馬との対決にも勝ちたいです」とコメント。

トウカイテイオー陣営の中原輝貴騎手も「遂にこの時が来ました。世代最強馬を決める大事な一戦」だと顔を強張らせる。

ジエネラス陣営のアレン・ムンラ騎手は「調教での動きが非常に悪い。けど勝ちたい」と不安を漏らす。

メジロマックイーン陣営の岳巧騎手は「秋の天皇賞ではマックイーンに申し訳ない騎乗をしてみました。三冠馬たちを蹴散らしてマックイーンの名誉を挽回したいです」と暗い表情でコメント。

81：名なしの競馬民

マックイーンはアカン。テイオー一択だな。

82：名なしの競馬民

ジエネラスもや。これは大負けする。

83：名なしの競馬民

パドックのお時間だぞい！

84：名なしの競馬民

あら？ スワーヴダンサーさん、やけに大人しくないか？

85：名なしの競馬民

なんで暴れてくれないんですか!? どうして!?

86：名なしの競馬民

お前の暴れっぷりをみんな見たがつてんだよ！ 早く暴れてくれ

!

87：名なしの競馬民

おや……？ スワーヴダンサーの様子が……？

88：名なしの競馬民

おめでとう！ スワーヴダンサーが立ち上がった！

89：名なしの競馬民

いや笑うわ、こんなん。

90：名なしの競馬民

俺たちの思念が通じた、のか……？

91：名なしの競馬民

通じてても立ち上がんなよ!?

92：名なしの競馬民

スワーヴダンサーはこうでなくちゃ。

93：名なしの競馬民

と、そうこうしているうちにゲート入りの時間。

94：名なしの競馬民

スワーヴダンサー、トウカイテイオー、ジエネラス、メジロマツク
イーン、各馬落ち着いた足取りでゲートイン完了。

95：名なしの競馬民

今ここに、三冠馬たちのドリームマッチが開幕せんツ！

96：名なしの競馬民

スタートしましたッ！ メジロマックイーンとジェネラスが好スタートを切り、メジロマックイーンがハナを搔つ攫う！ ジェネラスは三番手！

97：名なしの競馬民

鞍上蘆名正義のスワーヴダンサーは十二番手、前のゴールデンフェザントをマークする態勢。三冠馬トウカイテイオーはジェネラスのやや後方の四番手に着けた。

98：名なしの競馬民

マサヨシはかなり下げた。外を回っているし。

99：名なしの競馬民

けっこう思い切ったな、マサヨシ。

100：名なしの競馬民

一番人気のテイオーは逃げずに先行やね。

101：名なしの競馬民

鞍上の中原の表情もどこか険しい。

102：名なしの競馬民

マックイーンはスタミナに任せて逃げ切ろうとしている。

103：名なしの競馬民

内を突いているのがなによりの証拠。でも逃げ切れんな。

104：名なしの競馬民

ジェネラス、テイオーのせいで少しペースが速い。

105：名なしの競馬民

おっと、ここでマックイーンが二番手に後退。岳は逃げ切れないと判断したな。

106：名なしの競馬民

うーん……マックイーンに勝機はあるのか……？

107：名なしの競馬民

ここまでマックイーン以外に動きは……あるな。スワーヴダンサーがじわりと上がってきている。

108：名なしの競馬民

残り500m！ スワーヴダンサーが一気にまくってきたツ！
トウカイテイオーもここで仕掛けるツ！ ジェネラスは伸びずに後退！ トウカイテイオーがジェネラス、マックイーンを躱し、先頭に立つツ！

109：名なしの競馬民

中原も歯を食いしばって鞭を振るう！

110：名なしの競馬民

スワーヴダンサーが迫ってくる！ 疾風の舞手が迫ってくる！

111：名なしの競馬民

残り200m！ スワーヴダンサーがテイオーに並びかけようとするがまだ一馬身ほど開いている！ テイオー先頭！ テイオー先頭！

112：名なしの競馬民

100m地点でようやくスワーヴダンサーがテイオーに競りかける！ 一騎打ちだツ！ 完全なるマツチレースだツ！

113：名なしの競馬民

二頭の鞍上も鞭を何度も何度も振るい合う！ 壮絶な叩き合いッ！

114：名なしの競馬民

ここでマックイーン来た！ マックイーンが来た！ 二頭との差がみるみる縮んでいく！

115：名なしの競馬民

しかし無情にも届かない！ これは届かないッ！

116：名なしの競馬民

大接戦！ 大接戦！ 大接戦でもつれ合ったままゴールインッ！

117：名なしの競馬民

……なんてレースなんだ……。

118：名なしの競馬民

写真判定です！ これは写真判定！

119：名なしの競馬民

あれ、中原が相当に悔しがってる。

120：名なしの競馬民

まさか……。

121：名なしの競馬民

一着はスワーヴダンサー！ ハナ差で差し切りましたッ！

122：名なしの競馬民

右腕を突き上げ、咆哮する蘆名！ これはやりましたッ！

123：名なしの競馬民

世紀のジャパンカップ、ここでの勝利をもぎ取ったのはスワーヴダンサー！

124：名なしの競馬民

凱旋門賞での雪辱も晴らしたぞ！

125：名なしの競馬民

二着はトウカイテイオー！ 三着はメジロマツクイーン！ ジェネラスは十一着に轟沈！

126：名なしの競馬民

三着まで日本馬が独占！ これはやったぞ！

127：名なしの競馬民

ロングスパートからの叩き合いを制するとは……。

128：名なしの競馬民

すんごい馬だよ、スワーヴダンサーは。

129：名なしの競馬民

トウカイテイオーも凄かった。どちらが勝つか全くわからなかった。

130：名なしの競馬民

来年もこういうレースを見れるといいな。

「はい、もしもし。俺です。はい……え？　嘘でしょう……？」

携帯電話がするりと手をすり抜け、地面に落下する。

そして、彼は膝から崩れ落ちる。

「スワロヴダンサーを乗せた馬運車が事故を起こした、だと……」

黒いステイヤー編 その二 葉牡丹賞

108：名なしの競馬民

【大悲報】三冠馬トウカイテイオー、ジャパンカップ後に骨折していたことが判明。

109：名なしの競馬民

マジかよ!?! 嘘だろ!?!

110：名なしの競馬民

もう今年の出走は絶望的だな……。

111：名なしの競馬民

主戦騎手だった中原のコメントもあるぞ。

「トウカイテイオーは脚がガラスのような馬。日本ダービーや菊花賞では敢えて逃げさせ、ゴール板の50mぐらい前で仕掛けを止めるしかなかった。菊花賞は単純なスピードだけで勝っていた。正直、俺がいなくても勝ってたんじゃないかと思えるぐらいに、馬の能力が非常に高かった。

まさしく名馬なんだ。名馬なんだよ。父のシンボリルドルフ以上の能力を秘める三冠馬なんだよ。しかし俺が無理に叩き合いに持ち込ませたせいで彼は骨折してしまった。あのとき、あの瞬間を、俺は一生悔いることになる」

112：名なしの競馬民

傲岸不遜で有名な中原にそこまで言わせるとは……。

113：名なしの競馬民

陣営も中原をかなり責めたようだぞ。ある関係者はこう言っとる。

「やっぱり中原じゃなくて、岡辺を乗せるべきだった」

114：名なしの競馬民

それはおかしいやろ。中原の手綱捌きがあつてこそトウカイテイオーは三冠馬になれたんだろ。

115：名なしの競馬民

本当におかしいよ。中原じゃなきや三冠馬になんてなれなかった。

116：名なしの競馬民

つてか主戦騎手『だった』となぜか過去形だが……？

117：名なしの競馬民

トウカイテイオー陣営なんだが、巷の噂では中原と絶縁したらしい。

118：名なしの競馬民

いや、そこまでしなくてもいいやろ……。中原が可哀想や……。

119：名なしの競馬民

次走があるなら岡辺幸斗に乗り替わりとの噂も漂つておる。

120：名なしの競馬民

ハア……やつてらんね……。

121：名なしの競馬民

【速報】 仏三冠馬スワーヴダンサーを乗せていた馬運車が事故を起こしていたことが判明。スワーヴダンサーはなんとか一命を取り留めるも骨折。引退説が濃厚。

122：名なしの競馬民

トウカイテイオーが骨折したと思えば、スワーヴダンサーもかよ!?

123：名なしの競馬民
馬運車の運転手はしつかりしろよ……。

124：名なしの競馬民
ジャパンカップ後に三冠馬二頭が故障とか呪われてんのか？
今のジャパンカップは？

125：名なしの競馬民
まあ、スワーヴダンサーは引退やろうな……。

126：名なしの競馬民
事故で骨折は不運すぎるよ……。

127：名なしの競馬民
運命とは残酷やなあ……。

128：名なしの競馬民
無念としか言葉が出てこない……。

129：名なしの競馬民
スワーヴダンサーにはもつとたくさん勝ってほしかった……。

130：名なしの競馬民
トウカイテイオーは現役を続行するらしいけど、スワーヴダンサー
はもう無理だな……。

131：名なしの競馬民
掲示板がお通夜ムードで苦しい……苦しいぞ……。

132：名なしの馬好き
ンンンンッ！ あまりにも暗いッ！ 暗すぎますぞッ！

133：名なしの競馬民

予想上手な馬好き!? 馬好きじゃないか!?

134：名なしの馬好き

おっとみなさま、お久しぶりの馬好きでございます。此度はあるレースの予想と自身に関する報告に参りました。

135：名なしの競馬民

予想う………?

136：名なしの競馬民

報告う………?

137：名なしの馬好き

ええ、ええ! まずは報告からと参りましょう。

138：名なしの競馬民

なんだなんだ?

139：名なしの競馬民

まさか本当は今まで無職だったとか?

140：名なしの競馬民

そうはならんやろ。

141：名なしの馬好き

……なぜバレたのです。

142：名なしの競馬民

うそーん!?

143：名なしの競馬民
なん、だと……。

144：名なしの競馬民
馬好きも馬券狂いだっただんか……。

145：名なしの馬好き
ええ！ まさしく仰るとおりで！ 拙僧、今生に於いて職といえる
ようなものに就いていなかったのです！ 資金繰りは馬券頼りです
とも！

146：名なしの競馬民
ええ……。

147：名なしの馬好き
しかししかし！ そんな拙僧もいよいよ齡二十三にして立ち上がる
時が来たのです！

148：名なしの競馬民
ま、まさか……。

149：名なしの馬好き
ンンンッ！ 拙僧はある牧場に就職することが決定したのです！

150：名なしの競馬民
ま、マジで!? それは本当か!? だとしたらめでたい！

151：名なしの競馬民
牧場名は個人情報特定になるから敢えて聞かんどくわ。

152：名なしの馬好き

とても緊張しましたとも！ ですが牧場長さんと意気投合できまして、そこから内定をいただけたのです！

153：名なしの競馬民

コミュニケーション能力が高くて笑う。おめでとう！

154：名なしの馬好き

と、報告はここまでにしませて。此度はあるレースの展開の予想をしようと考えております。

そのレースとはズバリ！ 葉牡丹賞（芝2000m）でございます！

155：名なしの競馬民

えっ、重賞レースじゃないの!?

156：名なしの競馬民

確かそのレースの一番人気はライスシャワーだったよな。鞍上は谷潤三郎。

157：名なしの競馬民

新馬戦をスタミナに任せた大逃げで圧勝した馬だよな？

158：名なしの馬好き

ンンンン！ そうでありますな！ 此度の葉牡丹賞では、間違いなくライスシャワーが勝ちます。ですがただそう予想しただけでは面白味も薄まるうものでしょう。なのでここではライスシャワーがどう動くか、を予測して進ぜましょう！

ズ・バ・リ！ ライスシャワーは王道の先行策を採ってくるでしょう！

159：名なしの競馬民

へえー！ 理由はある？

160：名なしの競馬民

まず今年の葉牡丹賞、大逃げしてくる馬が出てくると思われます。

161：名なしの競馬民

あー、そういうことね。つまりはライスシャワーが前走のような大逃げができない展開になるってことか。

162：名なしの競馬民

なるほどな、ちょうど今日開催されるから観戦するわ。

163：名なしの競馬民

パドックパドック、つと。

164：名なしの競馬民

ライスシャワーは……三番だね。十四頭中の三番。

165：名なしの競馬民

前走の新馬戦と同じ距離だから不安材料はほとんどない。

166：名なしの競馬民

だな。そろそろゲート入り。

167：名なしの競馬民

おっと一頭、ゲート入りを嫌う馬が。

168：名なしの競馬民

まあ、あるあるだから気にしない。

169：名なしの競馬民

ようやくゲートに収まって……スタートしましたッ！ここでゲート入りを嫌った馬が大きく出遅れた！

170：名なしの競馬民

あちやー……やらかしたね……。

171：名なしの競馬民

五番の馬——キョウエイボーガンがポンと飛び出て、後続をぐんぐん突き放す！これは大逃げ態勢だ！

172：名なしの競馬民

ホントだ！馬好きが予想したとおりだ！

173：名なしの馬好き

でしようでしょう？もっと褒めれください。

174：名なしの競馬民

一方でライスシャワーは馬群に吞まれる形で中団に着けた。

175：名なしの競馬民

タニジュンはどうしたんだ!?

176：名なしの競馬民

ライスシャワーを手綱で抑えてる。

177：名なしの競馬民

タニジュンエ……。

178：名なしの競馬民

物凄いハイペースで1000mを通過！　ここでライスシャワーが大外に進路を変更しながら上がってきている！

179：名なしの競馬民

もう!?　早すぎないか!?

180：名なしの競馬民

先頭のキョウエイボーガンとの差が四馬身、三馬身……と縮んだところで、ここで鞍上の谷が再び手綱を抑える。

181：名なしの競馬民

……タニジュンはやっぱり卑怯者だよ。

182：名なしの競馬民

短い直線に入った！　ここで谷がライスシャワーの手綱を押し始めた！

183：名なしの競馬民

一気にキョウエイボーガンを躲した！　後続はバテたか!?　一頭も伸びてこない！　差が開くばかり！

184：名なしの競馬民

あんのトリックスターめ……。

185：名なしの競馬民

もう二代目ターフの魔術師とでも呼ぼうぜ。

186：名なしの競馬民

ライスシャワーが一着！　ライスシャワーが一着！　十三馬身差の圧勝劇！　鞍上してやったり！

187：名なしの馬好き

だいぶ予想が外れましたな。てつきり800m辺りで上がってくるものだと思っていたのですが。

188：名なしの競馬民

あの馬好きが予想を外した……!?

189：名なしの馬好き

自信があったのですがね。あの騎手のトリツキーな進め方にこちらもしてやられた次第。

190：名なしの競馬民

なん……だと……。

191：名なしの競馬民

しっかし、あんなハイペースかつ早仕掛けでよくスタミナが保つよ……。

192：名なしの競馬民

普通は撃沈してるんだがな……。

193：名なしの競馬民

小柄だがスタミナが非常にあるタイプの馬だわ。春の天皇賞も容易く獲れるぐらいかもしれない。

194：名なしの競馬民

でも流石にメジロマックイーン相手には歯が立たんやろ。

195：名なしの競馬民

なんたって岳巧が「スーパークリーク以上のスタミナを有している」とコメントするぐらいだからな。

196：名なしの競馬民

今の時点ではまだマックイーンに勝てるかどうかわかんがね。

197：名なしの競馬民

ライスシャワーのあのつぶらな瞳が俺を狂わせる……！

198：名なしの競馬民

ライスは可愛いですね。

199：名なしの競馬民

あつ、オーナーがライスの隣に出てきて……。

200：名なしの競馬民

袖を甘噛みされておる、羨ましいぞい。

「ここがああの一丁、ゴアやスワーヴダンサー、そしてライスシャワーが繋養された牧場……。今日からわたしは、ここで働くのですね。わたしの知識が上手く役立てばいいのですが……。」

黒いステイヤー編 その三 ホープフルステークス

600：名なしの競馬民

今年もいよいよ終わりかあ。

601：名なしの競馬民

三歳馬が目立った一年だった。

602：名なしの競馬民

ってか、今年度の年度代表馬はどうなるんだ……？

603：名なしの競馬民

確かにそうだな。三冠馬たちは故障して有馬記念を回避したし。

604：名なしの競馬民

トウカイテイオーとスワーヴダンサーの二強状態であることは確
実だろう。

605：名なしの競馬民

やや優勢なのがスワーヴダンサー。

606：名なしの競馬民

メジロマックイーンは秋の天皇賞での降着、ジャパンカップではト
ウカイテイオーとスワーヴダンサー相手に差し返そうと迫るも三着
止まりだったから厳しい。

607：名なしの競馬民

あれは陣営と岳巧にとっても悔しかっただろうなあ。

608：名なしの競馬民

メジロ最強のステイヤーが善戦止まりで敗れたからな。

609：名なしの競馬民

そんなメジロ陣営だけど、一部からマツクイーンから岳巧を降ろせという声もあがってきているらしい。

610：名なしの競馬民

トウカイテイオーの中原に続いて岳もか……。

611：名なしの競馬民

で、どうなったんだ？ 降ろすことになったか？

612：名なしの競馬民

メジロの総帥が「有馬記念の結果で決める」と言っただけで、降ろさる場を丸め込んだ模様。

613：名なしの競馬民

つてことは、有馬記念を勝てなかったら、マツクイーンから降ろされる可能性が非常に高いってことかな。メジロの総帥としては岳を手放したくないようだが。

614：名なしの競馬民

ちなみに有馬記念には、秋の天皇賞馬・ホワイトストーンや三歳馬のナイスネイチャ、宝塚記念の勝ち馬・メジロライアン、さらにはマイル路線で活躍中のダイタクヘリオスが出走すると見られている。

615：名なしの競馬民

……なんでヘリオス？

616：名なしの競馬民

俺もそう思う。

617：名なしの競馬民
謎のヘリオス出走案件。

618：名なしの競馬民
それと大逃げからの逆噴射で有名になったツインターボも出てくるぞ。

619：名なしの競馬民
超ハイペース不可避じゃん!? 馬券を荒らさないでくれ!?

620：名なしの競馬民
こりやあ、流石のマックイーンも伏兵に足下を掬われるだろう……。

621：名なしの競馬民
むぐぐ……スワーヴダンサーとトウカイテイオーさえ出てくれば……まだ馬券が荒れずに済んだのに……。

622：名なしの競馬民
起きてしまったことを悔やんでもしやらないしやない。今は現実に関目を向けるんや。必ずあいつらは帰ってくる。

623：名なしの競馬民
トウカイテイオー陣営は目処が立ったら復帰すると公表しているが、スワーヴダンサー陣営に関しては何も発表がないのが怪しい。

624：名なしの競馬民
このまま引退説が濃厚な理由がこれ……。

625：名なしの競馬民
珍しくあの変態オーナーが口を閉ざしているからな。

626：名なしの競馬民

早く何か発表してくれ、というのが本音。

627：名なしの競馬民

またあの凱旋門賞やジャパンカップのときのようなレースを俺たちに見せてほしい。

628：名なしの競馬民

違う話題を突っ込むけどさ、来年のクラシックはどういう構図になりそう？

629：名なしの競馬民

唐突だな。まあいいけど。

有力候補はこの間の超ハイペース展開となった葉牡丹賞を制したライスシャワー。スタミナと能力が間違いない。展開と相手関係次第では三冠も夢ではないかもしれない。

630：名なしの競馬民

鞍上を務める谷潤三郎も「ライスはとんでもないスタミナを秘めた馬ですよ。彼の器量は未だに推し量れない」と絶賛している。

631：名なしの競馬民

谷は横浜と違って馬を褒めるとだいたい連に絡んでくるから怖い。

632：名なしの競馬民

そんなライスシャワーの次走はホープフルステークス(芝2000m)。新馬戦から一貫して2000mだな。

633：名なしの競馬民

そういや、朝日杯FSを圧勝した馬もいたね。ミホノブルボンだっ

たっけ？

634：名なしの競馬民

確かにいたな、ミホノブルボン。主戦騎手は戸島定博としまさだひろの馬。調教師は栗東の青山あおやまためお為男。

635：名なしの競馬民

あのスパルタ厩舎で有名な青山厩舎に預託されている馬だったのか！

636：名なしの競馬民

ミホノブルボンはマイルから、ライスシャワーは中距離から勝ち上がっていくわけだ。こりやあ皐月賞が随分と楽しみになってきた。

637：名なしの競馬民

でもミホノブルボンって血統的に適性距離はマイルだろ？ マイル路線に進むのではないか？

638：名なしの競馬民

それが青山はミホノブルボンを皐月賞に出走させたがっているらしい。叩きにスプリングステークス(芝1800m)を用いるそう。

639：名なしの競馬民

青山、本当に大丈夫なのか？

640：名なしの競馬民

大丈夫だろ。あのスパルタ気質な青山だぞ。距離適性は何かしらの調教で補ってくるはず。

641：名なしの競馬民

ところで、有馬記念とホープフルステークスは今日が開催日だよな

?

642：名なしの競馬民

そうそう。先述したとおり、ホープフルステークスにはライスシャワーが出走を表明。もちろん一番人気。

643：名なしの競馬民

鞍上は例の如く谷潤三郎。今年のホープフルはライスで決まり！

644：名なしの競馬民

一方の有馬はメジロマツクイーンが一番人気……と思いきやなんと秋の天皇賞馬・ホワイトストーンが一番人気。二番人気はメジロライオン。三番人気は岳巧騎乗のメジロマツクイーン。

645：名なしの競馬民

なぜここでホワイトストーン!?

646：名なしの競馬民

俺もそう言いたい……。

647：名なしの競馬民

メジロマツクイーンエ……。

648：名なしの競馬民

秋天での降着が響いてるな……。

649：名なしの競馬民

と、有馬記念の前にホープフルステークスや。パドックをしつかり眺めといたほうがいいで。

650：名なしの競馬民

ライスライスライスお米ライスはどこだ……と、いたいた。十八頭
中の十番。

651：名なしの競馬民
お米で不覚にもくすつと来たわ。

652：名なしの競馬民
オコメシャワー定期。オコメシャワーはもつと愛されるべき。

653：名なしの競馬民
オコメ万歳！ オコメ万歳！ オコメ万歳！

654：名なしの競馬民
毛艶もピッカピカの好馬体だし、これは買いだ。

655：名なしの競馬民
ライスは可愛いですね。

656：名なしの競馬民
不穏な予感しかしない台詞ヤメルルオ！

657：名なしの競馬民
ふふふ……オコメ！

658：名なしの競馬民
何が言いたいねん、お前ら。

659：名なしの競馬民
俺はタニジユンに反省を促したい。あの野郎、俺の馬券を紙屑にし
やがって。

660：名なしの競馬民

穴馬にタニジュンが騎乗していると恐ろしくて馬券を買えぬ。

661：名なしの競馬民

しかし今回、タニジュンが乗っている馬は一番人気の本命馬であるライスシャワー。さらにGIと来た。

GIで一から三番人気の本命馬にタニジュンが乗ると悉く惜敗か、撃沈するのよ。そう、つまりはタニジュンとライスは負けるんだよ。

662：名なしの競馬民

そうはならんやろ。

663：名なしの競馬民

俺らはライスたちを信じるで。

664：名なしの競馬民

来年の皐月賞有力候補に名乗り出る馬は果たしてどの馬か。1991年度ホープフルステークス、GI、ゲート入りが完了しました。

665：名なしの競馬民

いくでいくで……。

666：名なしの競馬民

スタートしましたッ！ 一番人気の十番ライスシャワーがロケットスタート！ そのまま……いえ、鞍上の谷潤三郎、ここは下げました。

667：名なしの競馬民

下げたア!?

668：名なしの競馬民

ライスシャワー、四番手まで下がりました。これは先行策か。

669：名なしの競馬民

大逃げはしないかあ……ちよつと残念。

670：名なしの競馬民

いけいけえーっ！ 谷イ！

671：名なしの競馬民

500mを通過して……ん？ 谷が手綱を握り直したように見え
たが……？

672：名なしの競馬民

二番手にライスシャワー！ ライスが上がってきている！

673：名なしの競馬民

まーた早仕掛け？

674：名なしの競馬民

いや、先頭の馬に並んだ。それだけ。

675：名なしの競馬民

そこがタニジュンの恐ろしいところなんだよお……。

676：名なしの競馬民

1000mを通過！ おっと、ここで谷が手綱を勢いよく押し始め
たッ！ 先頭に立つてもう引き離し始めているッ！

677：名なしの競馬民

さては残り1000mを大逃げする算段だな。

678：名なしの競馬民

1500m通過！ 先頭はライスシャワー！ リードは五馬身だがまだ離し続けているッ！

679：名なしの競馬民

後続は無理っぽいな。勝ったわ。

680：名なしの競馬民

ライスはよく頑張ったで。

681：名なしの競馬民

残り200mで勢いよく後方から追い込んでくる馬が一頭いるぞ！

682：名なしの競馬民

ファツ!?

683：名なしの競馬民

十五番の八番人気アイルトンシンボリ！ アイルトンシンボリだ！ このままライスシャワーを躲すか!?

684：名なしの競馬民

アカン、このままじゃあ本当に抜かされるで！

685：名なしの競馬民

粘る粘るライスシャワー！ しかしアイルトンシンボリとの差は縮まってきている！

686：名なしの競馬民

残り30mで並んだ！ 並んだ！ そしてアタマ差で差し切ってゴールイン！ 一着は八番人気のアイルトンシンボリ！ 鞍上は岡

辺幸斗！ ホープフルステークスを制したのは伏兵アイルトンシンボリ！

687：名なしの競馬民
……なんとも言えへん。

688：名なしの競馬民
かーっ！ 見事に穴を開けられたわ！

689：名なしの競馬民
明らかに谷が早仕掛けをしたのが悪かった。これしか言いようがない。

690：名なしの競馬民
今回ばかりは谷の騎乗ミスと読み違いや……。

691：名なしの競馬民
二代目ターフの魔術師エ……。

692：名なしの競馬民
でもライスシャワーはまったく息を切らしてないどころか、ピンピンと軽い足取りで戻ってたぞ。

693：名なしの競馬民
谷が相当悔しそうに顔を歪めてライスから降りたぞ。

694：名なしの競馬民
初GI勝利とはならなかったか……。

695：名なしの競馬民
惜しかった。あまりにも惜しすぎた。

696：名なしの競馬民

ここでライスシャワーの連勝記録は打ち止めだな……。

697：名なしの競馬民

本当に無念としか……。

698：名なしの競馬民

今年のホープフルステークスはアイルトンシンボリが強かった。それしか言えない。

699：名なしの競馬民

岡辺エ……。

「吉長先生、どうしましょうか？ 今後のローテーションは？」

「正直、ライスシャワーがここで負けるのは完全に予想外です。しかし起きてしまったことは仕方ありません。鞍上は引き続き潤三郎で、次走は芝1800mのGⅢ共同通信杯。それでよろしいでしょうか？」

「それでいいです。谷くんをお願いします」

「オーナー」

「……はい？」

「潤三郎をどうか降ろささないでください。それだけは何卒」

「……そこまで頭を下げられては困りますよ。大丈夫です、彼を降ろす気はありません」

「……ありがとうございます！ 次こそは勝たせます！」

有馬記念を経た一月の終盤。日本の競馬界に衝撃が走った。

——谷潤三郎が落馬。一命こそ取り留めたものの、今年の春のクラシックに参戦することは絶望的。

四十話記念 いつかの未来 ※ネタバレ注意

20 ■■年度凱旋門賞。

パリロンシヤンのターフには、勝者を祝福する歓声が響いた。

『遂に……遂にやりましたッ！ 日本馬がッ……日本馬が、凱旋門の頂に君臨しましたッ！』

さらに沸き上がる熱狂。

それに応えるように、赤毛がかかったような栗毛の馬に乗った騎手が、左腕を大きく挙げた。

『左腕を突き上げたベテラン・柴義富ッ！ イージーゴア、シガー、モーツアルト、メダグリアードロ、シーザスターズ。彼が今まで騎乗してきた名馬たちもさぞ喜んでいるでしょうッ！』

騎手——柴義富は、ゴーグルを外すと右腕で目元を拭う。

彼にとって、この凱旋門の頂は、ある人物への最後の手向けだったからだ。

義富は今年いっぱい騎手というかけがえのない天職から身を引かざるを得ない。

理由としては、加齢による騎乗技術の衰えである。

それにより、最近は大得意なダートや新馬戦でも戦績が落ちてきていた。

——ここらが潮時。流石の義富にもいよいよ突きつけられた引退という二文字。

だが、そんなときに。彼は最後の運命の馬に出会う。

その馬こそ、今義富が騎乗している馬だ。

馬の名は——ラストプロミネンス。

父シーザスターズ、母ミセスウイニング、母父イージーゴア。

ある故人の子息から騎乗を依頼された、最後の馬だ。

「やったな、やったんだな、俺たち……！」

義富は嗚咽の混じった声音で、ラストプロミネンスに語りかける。
そして、声高らかに叫んだ。

「オー ナーアアアアアアアアアアアツ！ やりまし
たアアアアアアアアアア——ッ！」

その叫びは天高く、どこまでも果てのない空へと吸い込まれていっ
た。

さらに時は流れて。

ある日、日本の競馬界は、ある特別な映像を公開した。

——夢の対決^{v.s}。そう称された、競走馬たちの競走の映像だった。
今日はその、ダート部門の名馬が発表されることとなっている。

動画上で流れる実況の音声。

競馬ファンたちは、各々にそれに聞き入らんと準備の態勢に入っ
ていた。

そして、伝説は空想の中で蘇った。

『非常識な絶対。人々はそれをロマンとしつつも、諦観していた。

しかし、その馬がそのロマンを成就させた。

紅蓮の怪物。圧倒的すぎる末脚。

ダートのみならず、暮れの有馬でも彼は魅せた。

そう、紅白怪物決戦。今なお、日本競馬史に語り継がれる名勝負。

その勝者が今、大井の砂に降り立つ。

——イージーゴア。彼は生涯の相棒を背に、再び君臨するのか。対するは——』

競馬ファンたちは、各々息を呑む。

『手にするのは常に金メダル。王道を歩み、掴んだ数々の栄光。

金メダリスト。その馬は決して金メダルしか獲らなかつた。

最強の亡霊を2000mのダートで破つた、ただ一頭の伝説。

数多の強敵を退け、砂の表彰台に君臨した絶対的金メダリスト。

それが今、紅蓮の怪物と対峙する。

——メダグリアードーロ。彼が目指すはただ一着。金メダルのみだ』

——紅蓮の怪物・イージーゴアVS絶対的金メダリスト・メダグリアードーロ。

その二頭のマッチレースが、空想上の大井で今、火蓋が切られた——。

米競馬史を彩る名馬たちには、悉く早熟性がある。もちろん、例外も存在した。

早熟性がある馬たちは、大抵速さを具えていた。

堅い土で構成されたダートと高速馬場に対応できる馬こそが、米国の馬主たちからは求められていた。

だが先述したとおり、例外というものは常につき纏う。

——シガー。最近そう名づけられた、一年前に米国から輸入された二歳馬を眺めて、牧場長の榎田友彦は首を傾げる。

「馬体がなかなか完成しないタイプか？」

榎田には、この時期になるとアメリカ産馬は基本的に馬体が整い始める頃、という偏見にも近い印象がある。

しかし目の前のシガーはどうだ。

明らかにデビューが遅くなるタイプだった。

ここで榎田はある確信に行き当たる。

「……まさか晩成型か？」

榎田の偏見を打ち砕くような例外。それこそがシガーだった。

けれどもやはり榎田の中では疑問が尽きなかった。

「あんな力強い踏み込みができてなお、まだ未完成というのか？」

思わず身震いする榎田。

以前、馴致が予想以上に早く終わったため、試しに走らせてみたことがあった。

そのときの光景を榎田は鮮明に覚えている。

「パワーとスピード、両方を兼ね具えてるうえにメンタルも根性も他馬とは一線を画している。だが、だが」

榎田にはシガーが恐怖を体現したような魔王に見えてくる。

「この馬は、この馬は」

さらに身体が震える。口もだんだんと回らなくなっていく。

「変態モードになってるぞ、賢者」

その言葉で、榎田は一気に現実を引き戻される。

今、榎田の目の前にいるのは、シガーのオーナーだった。

「こっ、こっこっこっこっこんにちは、オーナー。こっ、こっこっこっこ——」

「鶏かよ。一旦落ち着け」

「ししししシガーが——」

「落ち着けて。深呼吸深呼吸」

「ヤバいです」

「深呼吸も入れずにいきなり落ち着くなあ!?!」

「あの馬、化け物ですよ。なんで買えたんですか?」

「……たまたま」

「ごまかすな」

「うるせえ」

軽快なツツコミを叩き込むオーナー。

しかし表情から伺えるのは、明らかな疲労だ。

「そういうえば、ライスシャワーの鞍上はどうなりました?」

「吉長先生との相談の末、しばらくの間はマサヨシに決まった。ヨシトミにはある馬に乗ってもらいたいし」

「ある馬？ スワーヴダンサーですか？」

「ハハッ、違うぞ。あいつの鞍上はマサヨシのままさ。あとわざと間違えたる？」

「やっぱりそう来ましたか」

「あとそのスワーヴダンサーで、ここだけの話があつてな」

「……ほほう？」

思わず息を呑む榎田。

意を決したようにオーナーは言葉を紡ぐ。

「スワーヴダンサーは復帰戦のジャパンカップがラストランになる」

「やはり、ですか」

「ああ」

オーナーは表情を曇らせる。

申し訳なさそうに、悔やむように。

「すまん。話を変えさせてほしい」

「……わかりました」

「で、ヨシトミなんだが。あの馬の入厩先が決まったら、乗ってもらおう予定だ」

指を差し、あの馬がシガーであることを示す。

榎田は納得したように頷くも、すぐに顔を疑問の二文字で埋める。

「入厩先の伝手は？」

「吉長先生以外ない」

「駄目じゃん」

「そこ、素の口調で指摘するのやめて。心臓に来る」

胸元を抑えてダメージを負ったことを表現するオーナー。

そんなオーナーに対し、榎田はあることを口にした。

「これは提案だけだよ」

「うん？」

「紹介するからある調教師さんに預けてみない？」

「俺もそう思ってたところ。その調教師さんって？」

「美浦に厩舎を構えてる。けっこうなやり手かもしれない。今から電話しようか？」

「頼みます」

すると榎田はズボンからどこからともなく携帯を取り出し、早速連絡する。

しばらくし、連絡が終わったのか携帯をズボンにしまう。

「とりあえず、預かってもらえるように話をつけときましたぜ」

榎田はぐつと親指を上げる。『あとは任せた』と言わんばかりに。

「ところで、その美浦の調教師さんって？」

「ああ、確か名前は――、」

松上良洋さんまつかみよしひろって人。大学は獣医学部卒だったはず」

「へえー。で、なぜその人と知り合いなんだ？」

『シガーを預けてもらえないか』って話をされて」

「なかなか見る目あるじゃん」

「でしようでしょう？ 一目で見破ってた様子だったから正直怖かったです」

よし、とオーナーは手を打つ。どうやら腹積もりは決まったようだ。

「後日、その松上さんって方とお会いする。一応人柄も見ておきたい

し
」

魔王は未だに目を覚まさず。

静かに闘志を内に宿すのみ。

目覚めのときはいつたい、いつ訪れるのだろう。

それは誰にも、魔王でさえもわからない。

黒いステイヤー編 その四 共同通信杯

598：名なしの競馬民

タニジュン、大丈夫かな。めっちゃ心配。

599：名なしの競馬民

わかる。タニジュンは頭から落馬したけど咄嗟に身を捻って最悪の事態は免れた。が、落ち方を今一度思い出すと、相当な怪我を負った可能性。

600：名なしの競馬民

春から夏にかけて休養するようだからな。

601：名なしの競馬民

代打の騎手を探すのも大変だそうだ。

602：名なしの競馬民

けどタニジュンの命に別状がなくてなにより。

603：名なしの競馬民

落馬っていうのは、騎手生命どころか自らの生命すら絶たれてしまう恐ろしい事故。これで引退した某天才騎手とタニジュンの件で改めて痛感した。

604：名なしの競馬民

本当にそれなんだよ。馬に乗るといふ行為は、時には危険が伴うしな。

605：名なしの競馬民

ともかくタニジュンが無事でよかった……。

606：名なしの競馬民

騎手としての復帰は秋頃になる模様。

607：名なしの競馬民

秋頃というのがちよつと曖昧だな。

608：名なしの競馬民

まだ怪我の経過を見ていきながら復帰の目処を立てているところ
なんじゃないの？

609：名なしの競馬民

確かに。そこはあり得る。

610：名なしの競馬民

完治にはまだまだ時間がかかるらしいし、俺らでタニジュンの完全
復帰を祈ろうや。

611：名なしの競馬民

上に同じく。

612：名なしの競馬民

【速報】仏三冠馬スワーヴダンサーに関して、陣営から発表があった。

613：名なしの競馬民

なにい!?

614：名なしの競馬民

なん、だと……。

615：名なしの競馬民

内容は!? ねえ! 内容は!?

616：名なしの競馬民

「本日は突然勝手ながら、自分の所有馬であり、昨年の年度代表馬に選出されたスワールヴダンサーに関連することで報告がございます。」

仏三冠馬スワールヴダンサーは、このままでは終わりません。今年のジャパンカップを最終目標に定め、最後の花道を歩ませる所存であります。最後に一花、咲かせます。府中に決して色褪せない記憶を刻んでほしいです」

——スワールヴダンサーのオーナー。

617：名なしの競馬民

これってまさか現役続行？

618：名なしの競馬民

そうだぞ。けど次走とするジャパンカップがラストランになるのか。これはとても寂しくなる。

619：名なしの競馬民

ロンシャンと府中に刻んだその勇姿を、俺たちは絶対に忘れないからな。

620：名なしの競馬民

おかえりなさい、舞手。別れとなる舞台は府中のターフ。中山で頭角を現し、ロンシャンでは煌めき、府中で華麗に去っていく。

621：名なしの競馬民

夢き舞手だった。俺らの脳裏には、夢くも豪快なスワールヴダンサーの姿がいつまでも貼りついているだろうな。

622：名なしの競馬民

豪快な差し切りを、もう一度府中のターフで。

623：名なしの競馬民

間違いなく世界への扉を開いた一頭だよ。

624：名なしの競馬民

雰囲気をぶち壊すように申し訳ないけどさ。

625：名なしの競馬民

どうした？

626：名なしの競馬民

今日はGⅢの共同通信杯の開催日なんだが、ここにホープフル二着のライスシャワーが出てくるぞ。

627：名なしの競馬民

そこを勝って賞金を加算して弥生賞に進む気かな？

628：名なしの競馬民

たぶんそうだよ。陣営としても賞金に不安があるだろうし。けど出走するとなるとタニジュンは療養中だ。代打はどの騎手かわかる？

629：名なしの競馬民

スワーヴダンサーの鞍上を務めるマサヨシとのこと。

630：名なしの競馬民

まあ、そこあたりよね。個人的にはヨシトミを乗せてほしかったけど。

631：名なしの競馬民

マサヨシはライスをどう動かすのかが気になる

632：名なしの競馬民

そろそろ共同通信杯のパドックの時間ですぜ。

633：名なしの競馬民

今年は十六頭の三歳馬が出走しているな。ライスはこの中の十三番。で、一番人気。

634：名なしの競馬民

外枠と来た。これはどこをどうやって位置取るかが鍵になる。

635：名なしの競馬民

けどマサヨシの表情がどこか堅い。緊張しているのか？

636：名なしの競馬民

仏三冠ジョッキーエ……。

637：名なしの競馬民

でもここではライスの一強状態だから勝てるでしょ。

638：名なしの競馬民

下手さえしなければ勝てるだろうな。

639：名なしの競馬民

さて、返し馬の時間。

640：名なしの競馬民

十三番のライスシャワーはキビキビとした步調でのいい走り。勝ったな、風呂を買ってくる。

641：名なしの競馬民

俺は風呂を食ってくる。

642：名なしの競馬民
いや食うな!? 腹を壊すぞ!?

643：名なしの競馬民
風呂購入マンは破産しないようにな。

644：名なしの競馬民
GⅢ共同通信杯。芝のコンディションは良。芝1800m、9ハロ
ンで競われるクラシックへの登竜門。今年はどんな若駒が台頭する
のでしょうか。いよいよゲート入りのお時間となります。

645：名なしの競馬民
それぞれのゲート入りは順調。もちろんライスシャワーもすんな
りと。

646：名なしの競馬民
来るぞ……来るぞ……。

647：名なしの競馬民
スタートしましたッ！ 各馬、やや揃った出だし。さあ、前に行く
のはどの馬か。

648：名なしの競馬民
先頭から四番手の位置にライスシャワーが着いてるな。鞍上のマ
サヨシは先行策を採ったか。

649：名なしの競馬民
400mを通過。今のところは動きなし。仕掛けるには早すぎる
から妥当。

650：名なしの競馬民

ライスも仕掛けてない。最終コーナーか最終直線で一気に押し切る気か？

651：名なしの競馬民

懸命に走ってる小柄なライスが可愛い。

652：名なしの競馬民

おっと600mあたりでライスシャワーが三番手に上がる。

653：名なしの競馬民

先頭をマークしながら展開を窺っているで。

654：名なしの競馬民

これは勝った。

655：名なしの競馬民

1000mを通過。少々スローペースといったところ。後方で構える馬にはやや辛い。

656：名なしの競馬民

逃げ馬や先行馬があんまりいないからな。

657：名なしの競馬民

ライスシャワーにとっては非常に有利な位置とペース。さてさて、蘆名はどこで仕掛けてくる？

658：名なしの競馬民

1400m！残り400m、ここで各馬が仕掛けの態勢に入るッ！

659：名なしの競馬民

先頭は粘っている！ しかしそこに黒毛の馬が喰らいついてきた！ 一番人気のライスシャワーだ！ ライスシャワーがあつという間に差を縮めて、ここで躲した！ 先頭はライスシャワー！ ライスシャワーだ！

660：名なしの競馬民

いけいけいけッ！

661：名なしの競馬民

ライスシャワー引き離している！ 脚色は衰える気配なし！ これは決まった！ これは決まった！

ライスシャワー、今一着でゴールインッ！ 五馬身差の完勝ですッ！

662：名なしの競馬民

おおおおお！ 応援していたライスが勝ってくれたぞおおおおお！

663：名なしの競馬民

おめでとやで！ ライス応援マン！

664：名なしの競馬民

蘆名正義とのコンビでは王道的な先行競馬で圧勝したか。

665：名なしの競馬民

ライスが勝ったので、こちらも祝勝としてお米を買ってきます。

666：名なしの競馬民

お米購入マンとお風呂購入マンが入り乱れる掲示板。

667：名なしの競馬民
混沌を極めている！

668：名なしの競馬民
穴党としてはおいしくないけど、ライスは小柄で可愛いから好きです。おめでとう！

669：名なしの競馬民
これでライスも重賞初制覇だ。

670：名なしの競馬民
ライスシャワーファンとしてはとても嬉しい。

671：名なしの競馬民
唐突だがどうでもいい提案。
優勝レイを背にかけたライスのことはオムライスと呼ばない？

672：名なしの競馬民
確かにレイをかけられてるからオムライスだわ。

673：名なしの競馬民
レイはオムレツだった……？

674：名なしの競馬民
優勝レイ、オムレツ説。

675：名なしの競馬民
それはそれとしてつぶらな瞳で可愛い。

676：名なしの競馬民

わかる。あそここの奴らのせいでオムライスを食べたくなくなってきたから食ってくる。

677：名なしの競馬民

おや？　今、ライスの瞳から蒼炎が出てきたような気がしたが……
気のせいだな。

黒いステイヤー編 リベンジと春風と栗毛と

春風が訪れる季節へ移り変わりゆく三月。

クラシックの有力候補が集うGⅡ弥生賞。

芝十八ロンで行われる、クラシックの前哨戦。本番である皐月賞の2000mと同距離かつ同舞台で、若駒たちがぶつかり合う激戦区だ。

そんな弥生賞だが、今年は事実上の一騎打ちとなっていた。

クラシック戦線の本命馬二頭が今、この場で再び激突するからだ。

黒い艶が日光で燦々と輝く馬がパドックに現れた瞬間、周囲は緊張感に包まれる。

『一番人気五番ライスシャワー。鞍上は蘆名正義。前走を快勝しての参戦となります』

厩務員に引かれるがままライスシャワーはパドックを悠々と歩く。

足取りは軽く、しかし強く地面を踏み込んでいた。

それはまさに、逆襲^{リベンジ}を誓う者の姿だ。

破るべき標的は、ただ一頭のみ。

『一番人気十番アイルトンシンボリ。鞍上は前走と同じく岡辺幸斗。ホープフルステークスのときのような末脚で、中山の2000mを再び制するのか』

ホープフル^中ステークス^山の勝者が姿を現す。

素人目から眺めても力が漲っている鹿毛の馬体。パドックでも落ち着いている様子で闊歩している。

やはりGI馬は違う。アイルトンシンボリに賭けた誰もが勝ちを確信する。

そんな観衆を傍目に、ライスシャワーに騎乗せんとしていた正義は不敵な笑みを浮かべていた。

——主戦ではない俺でも、ライスシヤワーからは確かに伝わってくる。『あいつに勝ちたい』『目にもものを見せてやりたい』、そんな闘気があるな。

鞍に跨り、手綱を握ると同時に、春の空気を深く吸う正義。

次の瞬間には、手綱を力強く握り締め、ライスシヤワーをゲートまで駆けさせた。

それを眺めていた者たちからは歓声があがる。

「いいぞ蘆名！ ライスもいい動き！」

「返し馬がええな。ライスシヤワーも買つとくか？」

「アイルトンシンボリに勝ってくれーッ！」

歓喜、声援、困惑。さまざまな感情が返し馬で競馬場に入り乱れていく。

けれども正義は意にも介さない。今集中すべきなのはただ一点。

そう、一着をもぎ取る。今の彼らはそれしか眼中にない。

誘導員に引かれ、正義が乗ったライスシヤワーはゲートに入る。

正義は瞬きもせず、今か今かと待ち望む。

そして、そのとき。

『GⅡ弥生賞、スタートしましたッ！ おっと二頭出遅れた様子。さあ前へ行くのはどの馬か。ロケットスタートでライスシヤワーがやや前、三番手に着けました』

内心で正義はガッツポーズを決める。非常に好ましいスタートを切れたからだ。

今回、正義が採った作戦は前走と同様、逃げ馬をマークし最終コーナーで押し切る作戦である。いわゆる前目に着ける王道的な先行だ。

『一番人気十番アイルトンシンボリは九番手。これは前走のホープフルステークスとほとんど同じ位置取り！ 競馬場はどよめきと歓声に包まれております』

やはり、と不敵に笑む騎手がひとり。もちろん、ライスシャワー騎乗の正義である。

正義は予めこの展開を予想したうえで、敢えてライスシャワーを三番手に着けたのだ。

『各馬、何も動きがないまま1000mを通過しました。おっとこれはスローペースだ！ 後方勢にはやや辛い展開！ 九番手のアイルトンシンボリは大丈夫か！ 岡辺幸斗は大丈夫か！』

スローペース。その単語が響いたときには、アイルトンシンボリを本命に推した馬券師たちから落胆の声が漏れた。

アイルトンシンボリはスタミナがあり、切れる末脚もある。だがスローペース時はどうだ。スローペースに陥った最終直線では瞬間的な切れとスピードが重視される。

けれどもアイルトンシンボリには末脚や持久力こそあれど、瞬間的な対応力がなかった。

だからこそ、最終コーナーを回る刹那、正義は確信する。

『最終直線で先頭に立ったのはライスシャワー！ 前走と同じく逃げ馬を差して先頭だ！ このまま押し切るか！ アイルトンはどうだ!? アイルトンは厳しい！ アイルトンは厳しい！ 鞍上の岡辺が必死に鞭を振るうがこれはもう届かない！』

ライスシャワー、押し切つてゴールインッ！ ライスシャワーが一着！ ホープフルと同じ中山の2000mで、雪辱を果たしましたッ！ アイルトンシンボリは三着です！

右腕を掲げ咆哮した蘆名正義、見事な展開読みでしたッ！』

——GⅡ弥生賞はライスシャワー！ 中山十八ロンでの雪辱を果たす！

そんな記事が載っている新聞を片手に、ひとりの調教師が栗毛の馬に目を向ける。

「定博、どうや？ 追い切りのほうは？」

「はい、とても順調です。坂路も難なくこなしてますし」

「そうか」

調教師は再び新聞を読もうとする。

「青山先生、まさか気になってるんですか？ あの馬のこと」

「正直、そうやな。要警戒や」

「……僕とミホノブルボンでしたら勝てます、必ず」

「わからんで。勝つからには勝つようにミホノブルボンを仕上げる。けれども当たったときは注意しとき」

「わかりました」

騎手——戸島定博はそう返すと、再び栗毛の馬——ミホノブルボンを走らせる。

一方で調教師である青山為男は、不安そうに顔を強張らせた。

「日本ダービーと菊花賞。そのふたつが決戦やな」

春の風とは思えない冷たい風が、虚空を吹き抜けていった。

黒いステイヤー編 最も速い馬

「マサ、ライスシャワーの乗り心地はどうや？」

皐月賞前の最終的な調教のさなか、不意に吉長が正義に問いかける。

いきなり問いを投げられた張本人は、

「ええと……」

躊躇しながらも口を小さく動かす。が、声が喉に詰まったように出てこず、そのまま沈黙してしまう。

けれども答えねばまずい。喉から無理矢理声を捻り出す。

「気性面は乗った感じ、まったく問題ありません。スタミナがずば抜けて高いです。春の天皇賞の3200m、いや、海外の4000mも余裕だと思えます。勝負根性もありますし」

「そうか。ってことはステイヤーだな」

「はい。持久戦や消耗戦、長距離ならどの馬にも負けません」

「……2000mでのスピード戦だとどうなると予想している？」

「スピードはあります。ただ、今回はかなりの不利を受けるかもしれない」

正義の口から発せられた予想。それに吉長も小さく頷く。

ライスシャワーという馬は、長距離が本懐である生粋のステイヤーだ。ゆえにもし皐月賞が長距離レースであったのなら。吉長は絶対的な安心と信頼を以て、ライスシャワーと正義を送り出せただろう。

だが現実では、皐月賞は2000mの中距離レースだ。ライスシャワーの適性内になんとか入っているかどうか。

いくら同距離の弥生賞を完勝していても、心に潜む不安だけは拭えなかった。

それから陣営にとって懸念すべき対象がもうひとつ。

「マサ」

「はい」

「ミホノブルボンという馬には徹底的について回れ」

「前年の朝日杯を圧勝した馬ですよ？ 血統的には短距離向きらしいですが」

「だからこそだ。現役時代に俺が乗っていたミスターシービーの例なんかがまさにそうだぞ」

「なるほど、確かあの馬も……」

ミスターシービー、という馬名が吉長から出てくる。

三冠馬として日本競馬に名を轟かせた、かの馬も、血統的に鑑みれば短距離からマイル向きなのだ。けれども当時の吉長の手綱捌き、最後方からの破天荒すぎる大まくりで、三冠という覇業を成し遂げた。

「そういうことだ。スプリンター血統の馬からステイヤーが産まれてくることもあるし、逆もまた然り。今回ぶつかるミホノブルボンもそうかもしれないねえ。確信は持てんが」

「わかりました。徹底的に猛追します」

「おう、頼む」

『さあ、今年もいよいよ幕開けの時期となりました。若駒が激戦を繰り広げんとする牡馬のクラシック、その一冠目、GI皐月賞。今年『最も速い三歳馬』の称号を掴むのはいったいどの馬か』

そのアナウンスに釣られるように、場内の熱気は上昇するばかり。

今まさに、クラシック一冠目の火蓋が切られようとしていた。そんななか、吉長は関係者用の観戦席に着いていた。

しかし落ち着きがなさそうに踵を上げ下げして地面に叩きつけていたり、額に汗が滲んでいるのかハンカチを時折取り出して額を拭いたり。明らかに焦りが顔色に浮かんでいた。

そのせいか、他の関係者からはちよつと距離を置かれており、隣席には誰ひとり座っていないかった。

と、そんな状態にあることを自覚していない吉長の隣席にようやく人が着く。

「吉長先生、遂にですな」

隣席に座り、声をかけてきたのはライスシャワーのオーナーであった。

「ああ、オーナー。ライスシャワーの仕上がりはバッチリですとも。あとはマサとライスシャワーに委ねましょう」

「ありがとうございます、吉長先生」

オーナーは吉長に小さく一礼し、感謝の意を伝える。吉長もそれに応えるように、先とは打って変わって自信に満ち溢れた笑みを浮かべた。

「さて、今日の彼らはどういう競馬をしてくれるのでしょうか」

ははは、と快活に笑いながら、オーナーは期待するかのように零す。

そんな言葉に対し、吉長は腕を競馬場のほうに向けた。

「それは見てからのお楽しみですよ。ささ、そろそろゲート入りです」

『各馬、ゲートインが完了しました』

宣告が場内を巡る。そして、静寂がターフを支配する。

これより催されるは、馬と騎手が一心同体とならなければ勝てない熾烈なる競走。

その勝者に輝けるはただ一頭とひとり。

クラシックの一冠目、皐月賞。一冠を手にし、続く三冠への挑戦権を得られるのもただ一頭。

その一冠を虎視眈々と狙う者たちは、その時を今か今かと待ち侘びていた。

そして――。

『今、スタートしましたッ！ 一番人気三番ミホノブルボン、ポンと飛び出て逃げる態勢。二番人気十五番ライスシャワーは二番手でそれを追走する形』

軽快にターフを駆ける十八頭の競走馬たち。その手綱を手繰る騎手たち。

このとき、この瞬間。誰もが人の思いを背負っているのだ。

『ハナを華麗に奪ったのはミホノブルボン！ スプリングステークスのとき同様、ここも他馬を寄せつけず逃げ切りか!? 外からライスシャワーが被せてこようと思いますが、ミホノブルボン鞍上の戸島定博、手綱を押して並ばせないッ！ ミホノブルボン、この時点で独走態勢ッ！』

あまりにも逃げ馬として完成されている、究極的で制圧的な独走。この刹那だけで、ライスシャワー鞍上の正義は悟ってしまった。

――この距離じゃあ、並びかけようとするだけでライスシャワーのペースが乱されるうえ、脚を溜める距離も時間もない！

敗北という二文字が、正義の脳裏に突きつけられた。

心臓の鼓動が速くなり、目の前が真っ暗になりそうになる。

だが正義にもプライドがある。そう、騎手としてのプライドが。

だからこそ、彼は突きつけられても敗北など認めない。騎手たる者がこの逆境を跳ね返さずしてなにかが騎手か。

この敗北をどうやってぶち破ってやるか。それしか今の正義にはなかった。

——最終コーナーだ。最終コーナーを回った瞬間に加速させる。それしか、今の俺たちに道は残されていないッ！

『さあ最終コーナー！ おっとライスシャワー鞍上の蘆名正義、鞭を打って急加速！ そのままなんとミホノブルボンから先頭を奪い取りましたッ！ 差は一馬身ッ！』

大歓声に沸く競馬場。誰もがライスシャワーの勝利を確信していた。

正義以外は。

『な、なんということだッ！ ミホノブルボンが差し返しに迫るッ！ 残り100m！ ライスシャワー粘る粘る！ 残り僅かッ！

ミホノブルボンだッ！ ミホノブルボンがアタマ差飛び出たッ！

ミホノブルボン、差し切ってゴールインッ！

圧倒的なまでの勝ちっぷり！ これが貫禄というものなのか！ 無敗の皐月賞馬の誕生ですッ！』

周囲が唾然とするなか、正義は拳を握り、歯を食いしばっていた。まさしく、あまりにも無情な無念の敗北であった。

黒いステイヤー編 十二ハロンの決着

日本競馬の最高峰の一角、日本ダービー。

日本の競馬関係者なら誰もが勝ちたいと夢見るダービー。開催される度に死闘を繰り広げ、その末に栄冠を掴み取る馬もいれば、夢敗れて去る馬もいる。

ダービーという栄冠を掴んだとしても、反動として燃え尽きてしまい、ターフに無念の別れを告げる馬も存在した。

日本ダービーには、数々の物語と名馬たちの決死の覚悟が刻まれている。

——一番運のある馬が勝つ。いつしか生まれ出でた格言であるが、それに込められている意味は、世代の運、展開の運、そして生まれ持った才能の運。これらに恵まれた馬こそが勝つ。そう打たれることがある。

今年の競馬の女神は、いったいどの馬に微笑むのだろうか。

『今年はどういうドラマと死闘がこの府中のターフを沸かせるのでしょうか。1992年度日本ダービー。無敗の皐月賞馬ミホノブルボンの二冠達成はいかに』

1992年度日本ダービー。そのパドックで、府中のターフに降り立つ馬たちがゆったりと歩を進めていた。

その中でも注目が集まっていたのはただ一頭。

『一番人気十番ミホノブルボン。鞍上は戸島定博。無敗の皐月賞馬です。ここも圧勝し、無敗三冠に王手をかけるのか。注目の一頭です』

無敗で皐月賞を制したミホノブルボン。血統など知ったことかとも言わんばかりの破竹の快進撃を遂げている栗毛の馬に大勢の視線が集う。

そんなミホノブルボン相手に執念を燃やす陣営がひとつ。

『二番人気十三番ライスシャワー。鞍上は蘆名正義。GI好走馬ですが、前走の皐月賞では一度ミホノブルボンを躲した実力の持ち主です。この日本ダービーで雪辱を果たし、戴冠なるか。虎視眈々と勝利を狙う一頭です』

そう、前走でミホノブルボンに差し返されたライスシャワーの陣営だ。

何が何でもこのダービーで初GI獲得といきたい、そんな思いが陣営にはあった。

鞍上を務める正義が一息吸うと、ライスシャワーの背に騎乗する。と、ここで正義はある変化に勘づく。

——手綱を握ったときの手応えが前走とは違う。それにライス自身も相当に集中している。それにこの身体はまるで……。

そこまで思考に浸っていたところで、首を横に振るい、打ち切る。今求めるべきなのは——勝利。前走と同じくそれのみだ。

正義は真剣な面持ちで、手綱を持ち直す。

そして、返し馬としてライスシャワーをゲート前まで駆けさせていった。

——勝てる。ライス、お前なら勝てるさ。

心の底でそんな言葉を呟きながら。

『日本のホースマンの誰もが憧れを抱く大舞台、日本ダービー。芝12ハロン、2400mで、今年も三歳最強を決める死闘が繰り広げられます。間もなく幕が開けられます。各馬、ゲートの中。まだかまだかと待ち侘びています。さあ、1992年度日本ダービー、スタート

ですッ！

——スタートしました！ 十番ミホノブルボン、ロケットスタート。十三番ライスシャワー、この馬も続くようにロケットスタートです。無敗の皐月賞馬ミホノブルボンがハナを奪います。ライスシャワーはそれに外から貼りつく形で追走。ミホノブルボンが内を突いて逃げます逃げます。二番手にライスシャワー。三番手以降との差は三馬身ほど』

ミホノブルボン鞍上の戸島定博は、ちらりと後方に目をやる。背に湿っぽい嫌な感覚が伝ってくる。

——ここまで徹底的に猛追とは……。さらにこの2400mでは大胆すぎる騎乗は命取り。ペース配分を考えながらレースを進めるしかない。

敗北、という二文字が一瞬だけ脳裏によぎる。

それを振り払い、意識をレースに戻す。

ミホノブルボンとの折り合いは十分。ペース配分も上手くできている。負ける要素など何ひとつありやしない。

そう確信しつつ、定博は手綱をグツと握り締めた。

——先頭は変わらずミホノブルボン、か。

ライスシャワーに乗った正義は、分析しながらも猛追の手を緩めなかった。

ここでミホノブルボンとの差が一度でもついてしまった場合、ライスシャワーには勝ち目がない。正義はそう判断した。

幸い、ライスシャワーは無尽蔵のスタミナを誇る。それを活かしてこそこの徹底的な猛追であった。

現在、ミホノブルボンとの差は半馬身ほど。距離や展開以前に、ミホノブルボンとの持久戦だった。

正義にはどこか、ライスシャワーの瞳に、蒼炎が宿って見えた。

『残り50m！ ミホノブルボンだ！ ミホノブルボンの二冠——いやライスシャワーだ！ ライスシャワーが急加速して突っ込んできたッ！ なんとという末脚！ しかしミホノブルボンも譲らない！ 二冠目も絶対に譲れない！ だがライスシャワーの脚色が非常にいい！ 纏れた！ 纏れた！ 纏れ合ったままゴールインッ！ これは写真判定だッ！』

ライスシャワーの手綱を引き、減速させて、正義は結果を待ち侘びる。もちろん、ミホノブルボン側もだ。

『——なんとという恐ろしさ！ なんとという執念！ ライスシャワーがハナ差でミホノブルボンを躲けていましたッ！ GI未勝利から一気にヒーローへ！ 我々は決してヒーローとヒーローの意地と意地のぶつかり合いを、忘れないでしょうッ！ 右手を掲げた鞍上蘆名正義！ この死闘の覇者が、府中を歓声一色に染め上げましたッ！』

「ライスシャワーによる日本ダービー制覇、おめでとうございます。オーナー」

「いえいえ。こちらこそ、吉長先生の調教あってこそです」

「……シービーに乗っていたときの忘れ物を、日本ダービーのトロフィーを、まさか調教師になってからこの手に掴めるとは思ってもいませんでした。本当に、本当に、ライスシャワーを預けてくださり、ありがとうございます……！」

「吉長先生、顔を上げてください。これはあなたとマサヨシ、そしてライスシャワーの力があってこそその勝利ですから」

「ですがライスシャワーの競走馬生活はまだまだ終わったわけではありません。とりあえず予定している次走は芝2200mのGIIセントライト記念。菊花賞を目指します。そこでよろしいでしょうか？」

「ええ。異論はありません」

黒いステイヤー編 とある鞍上の復帰戦

「予定どおりライスシャワーに乗れるか?」

「はい。怪我明けなので不安こそあります。けど今回も攻めていく感じ」

「……GⅡセントライト記念。距離は2200m。お前にとつちやあ、悔恨のある距離だろう」

「……前年のエリザベス女王杯、ですね。確かに今も相当に悔しさが残ります。ですが、怪我明けの鬱憤も含めて、最高の馬で晴らしていきます」

「おうさ! んじゃ、勝ってこい!」

「はい!」

GⅡセントライト記念。クラシック三冠目の菊花賞へのトライアルレースとして知られる、三冠馬の名が刻まれた重賞だ。

菊花賞は最も強い馬が勝つ。そう評される三冠目であり、そのトライアルレースに日本競馬史上初の三冠馬の名がつけられるのも、ある意味では必然だったのかもしれない。

距離は2200m。日本ダービーと比較すると、やや距離が短めだが、だからこそ思わぬ伏兵が飛び出してくることもある。

さらに今は九月。三歳馬の本格化が始まる時期でもあり、夏の上がり馬や春のクラシック戦線では惨敗した馬がいきなり重賞、果てにはGIを搔っ攫う可能性もある。

まさに油断ならぬ秋競馬。それでも、セントライト記念が開催される中山競馬場は、一頭のダービー馬の登場に沸いていた。

『一番人気十番ライスシャワー。鞍上は蘆名正義から栗東の谷潤三郎に乗り換え。騎手共々休養明けの一戦です。日本ダービーにて、皐月賞馬ミホノブルボンを大接戦の末に降したあの末脚は、この競走でも発揮されるのでしょうか。期待の一頭です』

艶のある馬体が日光でなおさら輝いて見えるなか、ライスシャワーは堂々とパドックを歩む。

ライスシャワーに飛び交う声援。それはまさしく、ダービー馬の圧勝を願う人々による思いの籠った応援歌のようだった。

『二番人気十三番アイルトンシンボリ。鞍上は岡辺幸斗。二歳GIホープフルステークスの勝ち馬。そしてダービー馬ライスシャワーを一度は破った馬でもあります。その実力が本物であることを今回こそ証明できるのか。ダービー馬となったライスシャワーにもう一度先着できるのか。人気馬の一角です』

気合いが入っているのか、一段と力強い足取りでパドックを練り歩くのは、ライスシャワーを一度は破ったアイルトンシンボリ。

しかし弥生賞や皐月賞、日本ダービーでライスシャワーに悉く先着された影響もあって、声援は先のライスシャワーよりもやや小さめだ。

けれどもパドックにて、ライスシャワーに近接し、乗ろうとしていた谷潤三郎は、アイルトンシンボリから並々ならぬ怒気のような闘志を感じていた。

「……………こちらを徹底的にマークしてくるな」

ニヤリと悪戯を閃いた悪童のように、潤三郎は口角を上げた。

「されども、負ける気どころか勝つ気しかないんでね」

ライスシャワーの背に跨り、手綱を持つ。

手応えは、以前とは比べものにならないぐらいで。ライスシャワー自身に鬼が宿ったようだった。

下手をすれば喰らわれる。電撃が走ったような痺れが潤三郎の腕

にピリピリと伝わってくる。

されど彼は笑う。騎手としての直感が、本能が、闘争心が、潤三郎の胸の内では燃え上がる。

「また一緒に勝ちにいくぞ、ライスシャワー」

『菊花賞トライアル、GⅡセントライト記念。今年は十八頭の若駒が出走してきました。今年のダービー馬がここに出走してきました。一番人気十番ライスシャワー。菊花賞に向け、いい出だしとなるか。見どころです。GⅡセントライト記念、間もなくスタートします。』

——スタートしましたッ！　ライスシャワー、アイルトンシンボリ、この二頭がまさかの好スタート。早々に場内からどよめきが上がっております。ライスシャワーがハナを奪いました。それにピッタリと馬体を並びかけるのがアイルトンシンボリ。鞍上岡辺幸斗、マークして一気に躲す作戦に出ました。第一コーナーを曲がるところで……ああつとライスシャワー後退！　ライスシャワー後退！　いえ、違います！　鞍上谷潤三郎が敢えて三番手に下げましたッ！　アイルトンシンボリが先頭となりましたッ！』

アイルトンシンボリに騎乗している岡辺幸斗の表情が、みるみる青くなっている。

そのマーク戦法は、日本ダービーのときにライスシャワーがミホノブルボンに仕掛けたものと同様のものだった。

谷潤三郎が騎乗したライスシャワーはスタートから真つ先に逃げる傾向にあった。それを見越してこそ、この作戦を採ったのだろうが、今回ばかりはこの時点で作戦負けであった。

アイルトンシンボリは脚を溜められず、先頭に立つであろうライスシャワーに近づくことすらできなくなる。アイルトンシンボリ側からすれば、そんな絶望的すぎる展開となっていた。

標的を見失ったアイルトンシンボリが逃げを強いられ、ややペース

が落ちていくなか、潤三郎はライスシャワーを二番手に押し上げた。
逃げる獲物アイルトンシンボリは、完全に狩人ライスシャワーの射程圏内のド真ん中にいた。

『最終コーナーを回って短い直線！ アイルトンシンボリはいっぱい！ アイルトンシンボリはいっぱい！ ライスシャワーが抜き去った！ ホープフルステークスでの雪辱を晴らすか?! 鞍上谷潤三郎の無念を晴らすか?! 後続とはもう既に四馬身も離れているッ！ 谷だ！ 谷が復活する！ 変幻自在の貴公子の復活劇だ！ 休養明けもなんのその！ ライスシャワー、一着！ ライスシャワーが完勝しましたッ！ 差は驚愕の八馬身ッ！ 鞍上谷潤三郎も、この中山で復活しましたッ！ しかしガッツポーズはない！ ガッツポーズはない！ ただただライスシャワーの手綱を握りしめていますッ！』

今ここに、ひとつの決着がつくこととなり、ひとりの騎手の運命が大きく捻じ曲げられた。

それは、ある意味でひとつの祝福だったのかもしれない。

「セントライト記念、見事に快勝しましたね。オーナー」

「吉長先生、ありがとうございます。これで菊花賞への道が、大きく開けましたね」

「そうですね。菊花賞は3000m。ライスの本懐はステイヤーです。恐らく問題ないでしょう」

「なるほど。ところで吉長先生、トウカイテイオーが秋の天皇賞で復帰するそうですが……」

「……これは非常に失礼な発言かもしれませんが、トウカイテイオーの勝ちはないと思っています。あのミホノブルボンが出走してくるようですから」

「日本ダービーでライスがなんとか降したミホノブルボンですか。確かに、トウカイテイオーは休養明けなうえに乗り換えもありましたからね」

「正直、中原輝貴が鞍上であれば可能性は少しあつたかもしれませんが……そこはたらればということ。では、ライスシャワーと潤三郎のほうへ参りましょう」

砂上の——編 降臨、デイストピア

砂が強風によって巻き上がる。きらびやかな貴族の舞踏会で優雅に舞うかの如く、砂が風に煽られていく。

しかしその舞踏もやがて、ある鹿毛の馬が姿を現してからピタリと止む。もちろん、風も吹かなくなる。

その馬がパドックに降り立った途端、周囲の他馬が恐れ、怯え、落ち着きがなくなり始める。

『王』に跪き、敬意を払う民衆のように、その馬の周りには一切他馬が近づかない。

——『王』のようではない。まさしくそれは、『王』だ。

これより歩むは、王者への——否、『魔王』への道程。

他には追隨を許さぬ、無慈悲なる王朝を築かんとせし冷淡なる『魔王』。

その『魔王』の背に在るに相応しい騎手は、かつて『怪物』と共に砂上を駆け抜けた、関東の柴義富。

そんな彼は今、不審そうに周囲を見回す。

「……？　なんでシガールの周りだけ馬が近寄らないんだ……？」

義富は気がついていなかった。まさか他馬がシガールを恐れ、近づこうとしていないなど。

シガールというのは『魔王』ではなく、単純に『手応えが凄まじい馬』だと、このときの義富は認識していた。

調教の際、シガールに何度か騎乗し、走らせる機会があったものの、それでもなお、秘められた覇気と風格を手綱越しに腕に焼きつけることは終ぞなかった。

だからこそ、『魔王』を疑っているのだ。

以前、シガールを預かる調教師、松上良洋は声を震わせて、義富に言った。

『あれは怪物ではない。魔王だ。無情なまでの絶対を嫌でも頭蓋に刻み込む魔王だ』

その言葉の意味がいまいち義富にはわからなかった。

けれども手綱を少し握っただけでも、なんとなくだがとてつもない力を有していることならば理解できる。

これなら新馬戦は圧勝するだろう、と踏んでいた。

十月の四週目。東京競馬場で行われる二歳新馬戦。

そこから、『魔王』は凱旋する。

砂上で『魔王』の凱旋を押し止められる馬は、果たして、歴史上に何頭存在するのだろうか。

秋風がヒュンと不吉な音色を奏でる。

これよりは、『魔王』の絶対的な蹂躞劇。

しかし未だ、本能は目覚めず。それが覚醒するときこそ、真に恐怖すべきときだ。

『東京競馬場のダート1400m、二歳新馬戦。六頭中の一番人気は三番シガー。今火蓋が切られます。』

——スタートしましたッ！ 三番シガー、ロケットスタートでハナを……奪いません。鞍上柴義富、引いて三番手に着けました』

義富の背に、冷たい汗が滲む。

今のロケットスタートの瞬間、義富は『魔王』を理解した。理解してしまった。

本来騎手が掴むべきペースを、この『魔王』は自ら作り出していた。生半可な騎手ならば、確実にリュックどころか足手まといの重りになつていただろう。そう感じさせるぐらいには、異常であった。

けれど義富とて、『魔王』のペースに呑まれる気など毛頭ない。行きたがるシガーの手綱を無理矢理引き、三番手に押し留める。

その引きに案外すんなりとシガーは従う。義富は目を見開くも、改

めて意識を眼前のダートに戻す。

「やっべえなあ……この『魔王』さまとやらは……」

義富はそんな感嘆を零さずにはいられなかった。

胸の鼓動が高まっていき、熱くなっていく。

自然と口角が釣り上がり、乾いた笑みが漏れてしまう。

『さあ、最終コーナー！ スツと三番手からシガー！ シガーが先頭に立った！ 差がどんどん開いていく！ 差がどんどん開いていく！ 追える馬はいない！ 追える馬はいない！ 独走態勢！ 独走態勢だ！ 先頭はシガー！ ぶつちぎってゴールインツ！ 差は七馬身！ 驚異の七馬身！ これは積まれているエンジンか、それとも流れる血の違いか!!』

松上良洋は、いつになく上機嫌であった。

その理由は言うまでもない。

「……ハハ、ハハハハハ！ これは凄いレースを見せていただきましたよ、松上先生！」

このレースを眺めていたオーナーは、予想の遙か先をいくレースっぷりに、思わず大笑いしてしまう。

「でしようでしょう!! あの馬は最強ですよ、わたしの調教してきた馬の中では！ 心が踊りに踊りますよ！ あの『魔王』を仕上げることもできるのが！」

松上は狂喜する。『魔王』の初陣に、圧勝に、凱旋に。

一方のオーナーは仮面を脱ぎ捨てたように笑みを消すと、松上に問

う。

「松上先生、次走はどうしましょうか？ 俺としてはリステッド競走あたりで賞金を積んでおきたいですが……」

「ああ、それでしたらもう組んであります。次は十一月のダートの二歳一勝クラス、距離は新馬戦と同じです。いかがでしょう？」

「ええ、こちらとしては何も問題ありません」

さてさて、とオーナーは口取り式に向かう。

「今週、ライスシャワーが出走する菊花賞もありますので、少々忙しくて。すみませんが、口取り式を終えたらすぐに行かねばならんのです」

「わかりました。新馬戦後のシガーに関してはお任せを」

シガーと義富のいるほうに向かうオーナーの背を眺めて、松上はひとり、呟いた。

「さあ——凱旋の始まりだ」

黒いステイヤー編 祝福の菊の大輪

——菊花賞。クラシック最後の冠であり、三歳馬の強靱さを推し量るレース。

菊で彩られたこの冠には、一冠目の皐月賞と二冠目の日本ダービー同様、とある格言がある。

——『最も強い馬が勝つ』。

皐月賞では『速さ』、日本ダービーでは『運』、そして菊花賞では『強さ』。どれも様々な意味が秘められている。

菊花賞というレースは、芝3000mの長丁場に対する対応が求められるレースだ。

精神力、持久力、適応力——あらゆる力による『強さ』が、必須事項である。

それらを併せ持つ馬こそ、菊の冠を戴くに相応しい。

今年度の菊の冠を手にするは、果たして、いったいどの馬か。

菊の女神は、どの馬に微笑むのか。

『最も強い三歳馬』を決定する競走が、今、幕を開ける。

『一番人気、三番ライスシャワー。今年のダービー馬です。前走セントライト記念ではかつて自身を差したアイルトンシンボリを千切つて圧勝。この菊花の大舞台でも非常に調子がいいようです。鞍上は前走と同じく谷潤三郎』

黒毛の馬体がゆったりとパドックを闊歩する。吉長とオーナーは、遠目に馬体を眺めていた。

毛艶はよく、足取りも軽く、イレ込んでもおらず。吉長の思う絶好調の域にまで、ライスシャワーを鍛えることができていた。

間違いなく勝てる。吉長のみならず、陣営もライスシャワーの勝利を確信している。

厩務員に引かれるがまま、ライスシャワーは大人しく歩く。

その黒き馬体には、確かな力と光が宿っていた。
しかし吉長の表情は、かなり険しいものだった。

「遂に淀の長い坂を、ライスが超えられるか試される日が来たのです
ね」

と、唇を結って覚悟をしたような面持ちで、吉長の隣に立つオーナーが言う。

「そうです。ライスシャワーはステイヤーですから、距離自体は余裕で保つでしょうし、坂越えもライスシャワーには苦にならないと思います。ただ……」

「……ただ？」

「……相手関係が、ほんの少し気がかりです」

「それはもしかして、最内枠一番のキョウエイボーガンですか？」

「はい。正直、距離適性範囲内の天皇賞(秋)に出てくるものだと思う
ていたのですが……」

ううむ、と吉長が唸る。

キョウエイボーガン。以前、葉牡丹賞というレースでライスシャワーに敗北した馬だが、いつの間にか勝ち上がってきてなんとかGI出走にこぎつけたようだ。

そのキョウエイボーガンをなぜ警戒するのか。その理由はキョウエイボーガンの能力というより、攪乱するかのような“大逃げ”にあった。

あの馬の大逃げは、自身までもを壊してしまうのではないかと心配するほど、ペース配分を無視し切ったものだ。

展開を乱しまくったあとはターボエンジンを逆噴射させているかの如く、後退していく。それが基本的なキョウエイボーガンの特徴である。

だが、その大逃げへの対処が今回のライスシャワーの勝因に繋が
る。もちろん、敗因にも。

「ライスシャワーが勝てるかどうかは、谷とライスシャワーのペース配分と折り合いに懸かっているといても過言ではありません。逆にいえば、その要素が揃ってくれば勝てます」

「……鞍上の手綱捌きに懸かっている、ということですね？」

「はい。このレース、谷の手綱捌きに期待するしかありません」

「まあ、俺としてはライスシャワーが無事に完走してくれることが一番ですけどね」

互いに苦笑を浮かべる。それでも、馬の無事を願う思いは同じである。

彼らは、そういう意味では気が合うのかもしれない。

「おっ、いよいよ始まりですかね」

「谷もいま乗ってライスシャワーを駆けさせたので、もうそろそろです」

陣営はただただ祈る。ライスシャワーの勝利を、そして無事を。

谷潤三郎はライスシャワーに騎乗し、返し馬としてゲート前まで走らせた。

手応えはいままで乗ってきた中で、一番とっていいものだった。脚部に異常はなく、足取りも安定している。これといった不安要素は皆無だ。

ゲート前にまで来たところで、係員に引かれ、ライスシャワーはすんなりとゲート入りを完了させる。

他馬もゲート入りを済ませていくのを潤三郎は横目に、ライスシャワーの手綱を握る。

潤三郎にとって初の長距離での騎乗。だが自然と不安は抱かなくなった。むしろ自信が、胸の内から溢れていた。

勝てる。自問自答した末に出た言葉は、確固たる自信のみだった。今日の菊の大輪は貰い受ける。そして、そのときは訪れた。

『——1992年度菊花賞。最も強い馬が勝つと謳われるクラシック最後の栄冠、間もなくスタートしますッ！』

実況の宣告が放たれた一秒か二秒後に、戦いの火蓋は切られた。

『スタートしましたッ！ 各馬、ややバラけ気味の出だしとなりました！ ハナを切ったのは予想どおり十八番人気、一番キョウエイボー

ガンツ！ 初っ端から後続をぐんぐん突き放すッ！』

やはり大逃げ。キョウエイボーガンが採った作戦は、潤三郎や吉長、他の陣営も予測していたとおりであった。

しかしキョウエイボーガンはどこかで確実に後退していく。そこが仕掛けどころであり、この菊花賞最大の勝負どころだ。

『一番人気、三番ライスシャワー騎乗の谷潤三郎、ハイペースを嫌ってか今日は六番手の位置！ それに虎視眈々と外から二番人気十番アイルトンシンボリが狙い澄ましております』

潤三郎は思わず眉を顰める。

ここでも必然とっていいか、アイルトンシンボリから徹底的にマークされていた。

アイルトンシンボリとは最後の坂で決着をつける。キョウエイボーガンが先頭でペースを乱している以上、不利であるが伸び脚勝負を選択せざるを得なかった。

一番の最悪な想定が、アイルトンシンボリより仕掛けがコンマ一秒でも遅れること。これだけはなんとしてでも避けたいところだった。

『1000mを通過！ 超ハイペース！ 超ハイペースとなりました！ さらに馬群も縦長に広がっている！ これは追い込み勢にも非常に辛い展開です！』

1000mを通過してもなお、未だにキョウエイボーガンは減速すらせず先頭に居座り続けている。

まだかまだかと、脚を研ぎ澄ます。

各馬、各鞍上が目を光らせる。まるで疲れ切った獲物を喰らわんとする肉食獣のように。

勝負どころは、もうすぐなのかもしれない。

ちょうど2000mを通過した頃。

決戦が、幕を開けた。

『ああつと！ キョウエイボーガン後退！ キョウエイボーガン後退！ 一気に後方まで下がっていききましたッ！』

ここでライスシャワーが六番手からすぐさままくつてきた！ やや遅れてアイルトンシンボリも仕掛ける！

残り800mで、ライスシャワーだ！　ライスシャワーが先頭に立ちましたッ！　アイルトンシンボリ猛追！　アイルトンシンボリ猛追！　だがライスシャワーも粘る粘るッ！

残り400m！　一騎打ちだ！　完全に二頭が抜きん出たッ！　しかし変わらずライスシャワー先頭！　アイルトンシンボリとの差は二馬身！　これは決まったか?!　これは決まったか?!　いや、アイルトンシンボリが迫る！　セントライト記念での雪辱を晴らさんとばかりに、追ってくるアイルトンシンボリッ！　抜かせない！　抜かせない！　ライスシャワーも抜かせない！　あと100m！　ライスシャワーに鞭が入った！　谷潤三郎、勝負根性注入！　ここは絶対に負けられない！　アイルトンシンボリが半馬身差まで迫ったところで——ライスシャワーが先頭でゴールインッ！

ダービー馬だ！　漆黒のダービー馬が二冠を手に入れましたッ！　菊の女神は、ダービー馬に微笑みましたッ！』

「やりました！　やりましたよ、オーナー！　二冠達成ですよ！」

「ええ……ええ……！　ライスが見事に栄冠を掴んでくれました……！」

「観客からのライスコールも凄かったです……このような馬を預けていただいて、もう、なんと素晴らしいのやら……」

「先頭で駆け抜けるライスシャワーの姿は、俺にからすれば『ヒーロー』のように輝いて見えました。ライスシャワーをここまで育て上げてくれたみなさまには、俺からもね、もうね、なんといいえば……」「いえいえ。こちらはあくまで調教をただけです。と、喜ぶのは口取り式まで取っておきまして。ここでひとつ、提案があります」

「はい、なんででしょうか？」

「ジャパンカップにはスワーヴダンサーが出走しますので、ライスシャワーのほうは有馬記念にしませんか？　ファン投票でも上位に来ると思いますし」

「わかりました。では、その手はずでお願いします、吉長先生」

「承りました」

『さあ、最終直線！ 皐月賞馬ミホノブルボンが未だに先頭！ 三冠馬トウカイテイオーは必死に追うも引き離されているッ！ これはもう届かない！ まさに究極的な逃げの形！ 完璧なレーススタイル！』

——皐月賞馬ミホノブルボン、圧勝ゴールインッ！ 三冠馬など何するものぞ！ 三歳馬ミホノブルボン、秋の天皇賞を三馬身差で制しましたッ！』

幕間 ジャパンカップ前日 挑戦

深く、重く、柔い芝。

蘆名正義はその芝の上に寝っ転がり、雲ひとつない青空を仰ぐ。なぜここで寝っ転がっているのか。正義自身もさっぱりわからなかった。

気がつけば、日本競馬の『悲願』とされるこの場所——ロンシャン競馬場のターフに、いつの間にかポツンといたのだから。

感慨深げに微笑んで、ふと呟く。

「しかし、まさか俺がこの大舞台に立てるなんて、夢にも思っていなかったな……」

正義の脳裏によぎるは、『相棒』と共に繰り広げた大激戦。

思いをひとつに重ね、人馬一体となり、全身全霊で挑んだ凱旋門賞。

『相棒』の背に跨り、『陽炎』ジエネラスと壮絶な叩き合いを展開し——惜敗した。

あと一步、あと一步で世界の頂の光景を目にできていた。

次こそは勝てる。圧勝できる。そんな手応えも、正義の腕にあった。

しかし、運は正義と『相棒』——スワーヴダンサーに味方しなかった。

突如として起きた悲劇。運送中の不運なる事故。それにより、競走能力は大幅に削れ、スワーヴダンサーは長期的な休養を余儀なくされ、凱旋門賞への切符は夢幻の彼方に消えてしまう。

スワーヴダンサーの乗った馬運車が事故を起こしたと耳に挟んだときには、全てが白黒のモノクロにしか見えないほどの失意のどん底に叩き落された。

いまでも、正義の胸中を支配している虚無感。

スワーヴダンサーという馬に騎乗できている瞬間が、大空を自由自在に駆けているようで、堪らなく楽しい。

凱旋門賞——ロンシャンのターフ上でスワーヴダンサーと駆け抜

けた記憶は、決して色褪せることはないだろう。

だからこそ、喪失感と虚無感は凄まじかった。

「あいつが引退だなんて、いまでも現実味がない。実感もない。ホント、寂しくなる……」

——凱旋門という頂からの景色はどうだったか？

唐突に問われ、正義は慌てて起き上がる。

背後を向けば、その問いの発言主——黒毛の馬が佇んでいた。

——ハッハーン、その面持ちだと、どうやら眺めることはできなかったようだな。

黒毛の馬と正義が対峙する。互いに互いを見据えた態勢で沈黙がこの場を包む。

それを破ったのは、正義だった。

「まあ、な。正直、とつても悔しいさ」

拳から血が溢れそうなほど握る。そこにはただ、無念が込められている。

「……今年のジャパンカップ、俺の「スワーズダンサー相棒」のラストランになるんだ。でも、実感がどうにも湧かなくてな……」

黒毛の馬はぶると鳴き、正義の目を見据える。

——華やかに、派手に一花咲かせてやれ。勝利の花束を、その「相棒」って奴に送ってやれ。それが、お前がいまできる最高の恩返しだ。

その言葉が告げられた瞬間、だんだんと青空にヒビが入っていく。硝子が粉々に砕け散らんとするような音を立てて、世界が壊れていく。

——悔いのない手綱捌きをしろよ。お前が後悔なんかしたら、そいつもきつと、悲しむぜ。

正義に背を向け、黒毛の馬は壊れゆく世界を闊歩する。

だが自然と、止める気は湧かなかった。

——じゃあな。こつちに来たら、蹴り飛ばしてやるからな。

黒毛の馬が天へと翔けていくと同時に、正義の視界は真っ白な光に覆われ、暗転した。

——俺はいつだって、お前の挑戦を見届げるからな。壁なんてぶち壊してやれ。

豪脚で魅せる舞手 ラストラン

『先頭はシガー！ シガーだ！ 鞍上柴義富は余裕の持ったまま！ 残り100mを切つてもなお、後続との差は開くばかり！ 強い！ 強すぎる！ 一頭だけ抜きん出ている！』

シガー、一着でゴールイン！ 王道的な先行競馬で、他馬を完全に圧倒しました！ 差はなんと五馬身！ 実力の違いを見せつけました！』

「……強すぎませんか？ シガー」

「はい、それはわたしも思います」

昇級戦でも難なく抜け出し、他馬を完全に圧倒するシガーに、オーナーは乾いた声を捻り出しながら、苦笑するしかなかった。

その馬の強さは、オーナーの予想の遥か上をゆくものだった。先団につけ、最終直線では競馬を理解しているかのように馬群を割って先頭に立ち——ブツちぎる。

その姿に、その競馬に、オーナーは早くも魅せられた。そして、ある名馬の姿が脳裏に浮かぶ。

——皇帝、シンボリルドルフ。シガーとは走る馬場こそ違えど、同じように王道の先行競馬で他を完封した、絶対的なる名馬の一頭。もしかしたら、とオーナーは推察する。自身の相馬眼には、幾度も感謝したくなる。

シガーの素質は、シンボリルドルフに匹敵、あるいは同等なのでは——。
昇級戦を勝ち上がっただけでも、そう思えてしまう。

「オーナー。ここでひとつお話ししたいことが」

シガーを預かる調教師、松上がオーナーの思考に割って入る。

鼻息を鳴らし、胸を張り、彼は衝撃的な言葉を口にする。

「シガーはまだ、本気を出せる状態ではありません」

「……は？」

思わず漏れた、素っ頓狂な声音。まさか、とオーナーはひとつの答

えに行き当たる。

「あ、あれで本格化前、だと……?!」

もはや口をあんぐりと開ける他なかった。シンボリルドルフに匹敵するような競馬を見せつけた馬が、シガーが、あれで本格化前だった。それは、とても信じられないことだった。

本格化前。要するに、本格化後はさらにその絶対的な強さに磨きがかかる。もう乾いた笑いしか出てこず、その場にへたり込んでしまう。

これでは、まるで――。

「……砂を駆ける『魔王』^{ラグナロク}じゃないか……」

オーナーの歓喜に震える眩きは、何も無い虚空に響いていった。

十一月の終盤の府中には、世界各国から挑んでくる馬が集うジャンカップ。

今年も集結した海外勢を破らんと、日本の強豪馬たちが立ち向かう。

そんな様を、オーナーは馬主席から眺めていた。

オーナーにとって、今年度のジャンカップは特別なレースだ。自身の愛馬の最後の勇姿を目の当たりにできるのだから。

両手を合わせて、祈る。自身の愛馬――スワーヴダンサーと、その鞍上を務める蘆名正義の無事を。

スワーヴダンサーの調教師の吉長曰く、『怪我を恐れずに走ってくれている。本当に、この名馬には頭が上がらない』という。

だが一方で、もう以前ほどの豪脚は発揮できないかもしれない、と吉長は言う。それもそうだ。スワーヴダンサーは一度、骨折しているから。

このジャンカップという大舞台を駆け抜けるスワーヴダンサーに求むは、とにもかくにも無事だ。これでまた骨折、最悪の場合――

となつては元も子もない。

オーナーは、顔を俯け、もう一度手を合わせた。

『五番ドクターデヴィアス。現在六番人気。今年の英ダービー馬です。不良馬場となった今年度のジャパンカップで復活なるか』

『一番ユーズーフレンドリー。現在三番人気。今年度の欧州オークス三冠馬。前走の凱旋門賞では惜しくも勝ちを逃しました。しかしこのジャパンカップで雪辱を晴らさんと燃えています』

今年も海外から有力候補が集った国際GIジャパンカップ。

それら海外の有力馬を迎え撃つは――。

『三番トウカイテイオー。現在二番人気。前年度の三冠馬。前走の天皇賞（秋）では超ハイペースが祟ったか三馬身離されての二着。このジャパンカップで立て直しを図ります。鞍上は父シンボリルドルフに騎乗し続けた岡辺幸斗』

『十五番ミホノブルボン。現在一番人気。天皇賞（秋）で三冠馬を破つた日本の総大将格の一頭です。ここでも他馬を圧倒する逃げが炸裂するのか。鞍上は変わらず戸島定博』

『十二番スワーヴダンサー。現在四番人気。前年度の仏三冠馬であり、ジャパンカップの覇者であります。骨折明けのラストラン。有終の美を飾らんと駆けていきます。鞍上は若手のダービージョッキー、蘆名正義』

復活を図る帝王、連戦連勝を狙う坂路の申し子、そして――最後に府中の十二ハロンを選んだ、豪脚の舞手。

これは、国際競走であると同時に、まさしく最強たちの競演であった。それを制するのは果たして。

蘆名正義は、スワーヴダンサーの背に乗った瞬間から、目頭が熱くなつていくのを感じた。

これがスワーヴダンサーの、最後の舞踏。悔いのないよう、大舞台

で舞わねばならない。

正義は改めて、スワーヴダンサーの手綱を握り、雨の降り注ぐ空を見つめる。

——よお、マサヨシ。久しぶりだ。ちったあ立派になったようだな。

どこからか声が響く。それはきつと、正義にしか聞こえていないのだろう。

「ああ。日本ダービー、勝ってきたぜ」

——ほお。それはなかなかだ。

正義にしか聞こえない声は、三秒ほどの沈黙ののち、問いかける。

——マサヨシ、お前は、自分が立派になったと思うか？

深呼吸し、正義は答えた。

「ああ。お前という癖馬のおかげでな」

——なら、いい。お前はもう、俺がいなくても、ひとつの立派な乗り手だ。

「……本当に、本当に、ありがとうな。スワーヴダンサー」

正義はスワーヴダンサーの手綱を押し、ゲート前まで駆けさせる。

これが、豪脚の舞手のラストラン。彼らは全身全霊を以て、人々に夢を見せつけに行く。

『どんよりとした曇り空に加え、降り注ぐ雨。今年度のジャパンカップは不良馬場となりました。今年の世界を掴み取るは、日本勢か。それとも海外勢か。大外十八番シャコーグレイド、ゲートに収まりました。』

国際GIジャパンカップ、間もなくスタートですッ！

——スタートしました！ おっとスワーヴダンサー、ややタイミニングが合わず出遅れたか!!

さて、逃げるのはやはりミホノブルボン！ 今年の皐月賞馬！ それをマークするように二番手トウカイテイオー。三番手にレガシーワールド。最後方になんとスワーヴダンサー！ スワーヴダンサー

だ！ 場内どよめいております！』

ぐつと手綱を握り直す。出遅れたのは少し痛い、それでも問題などない。

正義は前方に目をやる。馬群はやや横にバラけていて、前に行くのは容易ではない。

だからこそ、脚を溜めて溜めて溜めまくる。そして、早めに仕掛け、後方からミホノブルボンを差し切る。今の正義には、その騎乗しか残されていなかった。

けれどそれが可能なのが、スワーヴダンサーだ。骨折明けというのが危惧すべき点であるが、正義はスワーヴダンサーの豪脚を信じていた。

『1000mを通過！ 馬群が縦に広がっている！ 先頭のミホノブルボンと最後方のスワーヴダンサーとの差は二十二馬身！ これは後方の馬には非常にキツイ展開！』

確かにスワーヴダンサーにとって、非常にキツイ展開となった。後方の馬も横にバラけ、壁となってしまうている。切れる脚がなければ、見せ場もなく撃沈するだろう。

だが、その不利がどうした。スワーヴダンサーこそが最強だと、トウカイテイオー三冠馬にも、ミホノブルボン新世代にも、見せつけてやろうではないか。

正義は、口角を上げる。これこそが、今から見せる豪脚こそが、スワーヴダンサーだと。

『間もなく2000m！ さあ、スワーヴダンサーいった！ スワーヴダンサーいった！ 縦に広がった馬群を最後方から凄まじい脚でごぼう抜き！ しかし先頭は変わらずミホノブルボン！ ミホノブルボンが先頭で最終直線に入った！』

先頭はミホノブルボン！ だが後退している！ ミホノブルボン後退！ 三冠馬トウカイテイオーも伸びてこない！ ドクターデヴィアスが楽な手応えで先頭に立った！ 英ダービー馬の復活か?! 英ダービー馬の復活か?! だが大外から一気にシャコーグレイドが差し切った！ 残り200mで先頭はなんとシャコーグレイド！

シャコーグレイドだ！ 鞍上岳巧、必死に鞭を振るう！ あと10

0m! ここで並びかけてきたスワーヴダンサー! 天才対決!
天才若手ジョッキー同士の対決! スワーヴダンサーとシャコーグ
レイドの一騎打ちだ! 大激戦だ! 大激戦だ! ここでスワーヴ
ダンサーがアタマ差し切って先頭! 仏三冠馬の有終の美だ! 蘇
るッ! 豪脚が蘇るッ!
スワーヴダンサーが差し切ってゴールインッ! 豪脚が再び、府中
の、世界の大舞台を制しましたッ! まさにアタマ差による圧勝劇!
観客席による盛大な蘆名コールが、この東京競馬場を包んでおりま
すッ!」

正義は右腕を掲げ、涙を流しながら、叫んだ。

「スワーヴダンサーこそが、最強だアアアアアアアアアア——ッ!」

ジャパンカップのトロフィーを、正義は掲げる。カメラによるフ
ラッシュの嵐が、正義と、両隣に立つオーナーと吉長にかかつていく。

正義は涙ぐみつつも、口を開く。

「スワーヴダンサーにただ一言。ありがとう、と言いたいです。彼の
脚は、俺が乗ってきた馬の中でも最強でした。本当に、このような名
馬に出会えて、騎手冥利に尽きます。オーナー、吉長先生。ありがと
うございました」

そして、と正義は言葉を続ける。

「スワーヴダンサーに誇れるような名手になれるよう、俺自身も励ん
でいきます。それまで、引退は眼中にありません。これがスワーヴダ
ンサーに対する、恩返しです」

オーナーも、吉長も、うんうんと首を縦に振る。

「俺はこれから、トップジョッキーを目指します。また、スワーヴダン

サーのような馬に出会えると信じながら」

正義は頭を下げると、マイクをオーナーに手渡す。

「スワーヴダンサーは、名馬です。絶望的なラストランを、まさかの勝利で飾ってくれました。引退後は種牡馬として、穏やかな余生を過ごしてほしいです。本当にありがとうございました」

この日、一頭の優駿がターフに別れを告げ、ひとりのジョッキーが誓いを立てた。

その誓いは、きつと、守られることだろう。

名馬伝 スワーヴダンサー

スワーヴダンサー 牡

生年：1988年

競走馬現役期間：1990年～1992年

種牡馬現役期間：1993年～2010年

没年：2016年

初期種付け料：400万円

引退時種付け料：650万円

血統：父グリーンダンサー 父父ニジンスキー 母シユアヴェユテ

母父アレツジド

日本競馬が目標とする凱旋門賞。それを語るうえで外せない名馬の一頭こそ、この仏三冠馬スワーヴダンサーだ。

2021年現在に於いても、函館や札幌のレースに穴馬や迷馬を送り出す種牡馬として有名。また、日本で繋養された種牡馬にも関わらず、欧州競馬、特に長距離界の血統図に影響を与えつつある。

後方からの競馬が大得意である。が、大舞台以外では観客や関係者をヒヤリとさせる癖馬だったらしい。『らしい』というのは、関係者曰く。

戦績だけ見れば、連対率100%、一着九回、二着一回、仏三冠達成、同期の日本三冠馬撃破、史上初のジャパンカップ連覇と、とんでもない名馬だったりする。

たった一度の二着こそ、日本競馬最大の夢であり、競馬史に残る激闘を繰り広げることとなる凱旋門賞だ。

国際レーティングは139。自身を破った欧州三冠馬ジエネラス（レーティングは142）の存在があったためか、やや控えめの評価に押し留まった。

主な勝鞍は、仏三冠（仏二千ギニー、仏ダービー、パリ大賞典）、ジャパンカップ（1991、1992）、ホープフルステークス。

主な産駒は、長距離路線で活躍した英国のグレイトダンサー（牝、母父アカテナンゴ、主な勝鞍：グッドウッドカップ）、日本だと札幌の絶対女王コンドルダンス（牝、母父サイレンススズカ、主な勝鞍：札幌記念四連覇）。

産駒は洋芝、もしくはそれに近い芝だとかなり走る傾向にあった。阪神とダートはさっぱり。

—— 柵飛び幼駒時代

この頃から、スワーヴダンサーは身体能力が飛び抜けて高かった。

一歳時になってから柵を楽々と飛び越えるようになり、育成する牧場は大変苦労していたという。

また、柵越えののち、時折突進してくることもあったため、生産者は当時のスワーヴダンサーの扱いに頭を悩ませる。

どこからどう見ても、気性に癖があることは明らかだった。

しかし、そんな一歳馬に早々買い手がついたのだ。その買い手こそ、『変態狂人』として知られる故・黄添宗太郎オーナーである。

外国産馬を購入しようと牧場を訪れた黄添氏は、一歳馬だったスワーヴダンサーのほうに真っ先に駆け出すなり、指を指して「買わせて！」と叫んだといわれる。

生前、この奇行を黄添氏はこう語った。

「遠目から眺めて、身体がとても柔らかそうだったから。間違いなく大物の器だろうと、この時点で直感した。直感が当たったようで何より。それにニジンスキー血統の馬とはいえ、父グリーンダンサーは当時日本ではまったくいいほど流行ってなかったからね。種牡馬需要もあると思ったのさ」

これが本当だとすれば、彼は恐ろしい相馬眼の持ち主だ。なんとなく、見抜いた馬は当時としては考えられない偉業を打ち立てることになるのだから。

黄添氏に購入され、日本に輸送される際、意外にもスワーヴダン

サーは大人しく従っていた。おふぎけのオンとオフがきっちりと別れている馬だったのだろう。

さて、元いた牧場では気性によりやや評価が低かったスワーヴダンサーだが、日本の育成牧場（のちに黄添氏の子息が所有することとなるミレニアム牧場）では、非常に高い評価を受ける。

故・檉田友彦牧場長曰く、

「芝を走ったとき、ビュンと風を切っていきましてね。この時点で格が違うと、確信しました」

と、この時点から豪脚を見抜かれていたそう。

ちなみにスワーヴダンサーという馬名がつけられたのも一歳時代である。黄添氏によると由来は「器用に踊ってるような仕草を見せたから」。

——踊り狂った二歳から三歳時代

二歳となっても、相変わらずスワーヴダンサーは柵を飛び越えるなど、いたずら好きなところは変わらなかった。

だが、オンとオフだけはしっかりとした馬だったようで、育成ではまともにも走っていたという。ならスプリングステークスも真面目に走ってくれよ、とは主戦を務めた蘆名正義の談。

ただ、このとき、黄添氏はあることで悩んでいたようだ。

その悩みとは、どの厩舎に預託するかだった。

イージーゴアで世話になった深川勇二師は定年が迫っており、長くは預けられないと見て断念。知り合いにも調教師がおらず、困り果てていたそのとき。

スワーヴダンサーを預からせてほしい、と名乗り出る調教師が現れたのだ。その調教師は『吉長スペシャル』——いわゆる最後方強襲という独自の戦法を編み出した名手であり、のちに黄添氏がライスシャワー、ヒシアマゾンを預託することとなる吉長正之師だった。

黄添氏はこれを快諾。八月に吉長正之厩舎に入厩する。

そして十一月。しばしの調教を経たスワーヴダンサーは、いざデビューを果たさんと、ベテラン・田嶋太を鞍上に、芝1800mの新馬戦に参戦。ここでは二番人気に推される。

スタートで少し出遅れてしまい、慌てた田嶋は前へ行かせようとするが、スワーヴダンサーは指示を聞かず八頭中の六番手、いわゆる後方に着けた。

最終直線に突入した瞬間、スワーヴダンサーは猛加速。怒涛の追い上げ——とはならず、馬群に入り込んで完全に進路をなくしてしまふ。

だがそこはベテラン騎手の腕の見せどころ。田嶋は僅かな穴を突き、なんとか脱出させ、大外からまくってくる岳巧騎乗のシャコーグレイドの猛追を振り切って勝利。三馬身差の辛勝でデビューとなった。

新馬戦を勝利し、次走のGⅢ京都二歳ステークス(芝2000m)でも田嶋が騎乗すると思われた。しかしここで田嶋が降板。田嶋本人曰く、「誓約があったから、そちらを優先した。逃がした魚はあまりにもでかすぎた」と少し残念そうに話す。

これがまさか、あの名手の誕生に繋がるとは、誰も予想していなかっただろう。

吉長は、たまたま厩舎巡りで訪れた若手騎手を新たな主戦とした。その若手騎手が、のちに関東最大格のトップジョッキーとなる、蘆名正義だった。

吉長は生前、蘆名を騎乗させようと思った理由として、こう話している。

「理由なんて単純。マサが上手く乗れてたから。マサがスワーヴダンサーと出会えたのも、偶然というより、運命なのかもな」

蘆名騎乗で迎えた初重賞戦、GⅢ京都二歳ステークス。スワーヴダンサーは乗り換え、新馬戦の内容もあり、八番人気の低評価。

まずまずのスタートで後方に着ける。しかし、このとき、蘆名は相当に焦っていたという。

「後方に着けて差し切ってやる、って意気込んでいたら思いの外展開がスローペースになっちゃってね。どうしようと慌てたよ。」

けどこの際、もう仕方ないと覚悟して馬群からぶち抜いてやるってグイグイ手綱押したらさ、なんだろう、岳くんがディープリンパクトで言ってた『絶対勝てる手応え』だっけ？ それに似たような類の手応えを感じた瞬間、物凄い勢いで先頭を掻つ攫っていったからね。

もうあとは自由に走らせた。そしたらさ、九馬身差も開いちやっただよ。重賞初制覇の喜びもあったけど、どうしよう、先輩騎手にシバかれたらと思ったね」

残り800mを切ったところで馬群から抜け出し、一気に先頭に立つと、その勢いでさらに後続を突き放し圧勝。八番人気だったため、馬券も荒れることとなった。

この圧勝劇で、人馬共に重賞初制覇となった。

京都二歳ステークスでの圧勝を鑑みて、陣営はGIホープフルステークス（芝2000m）への出走を表明。

しかし、このホープフルで珍事を起こすのが、スワーヴダンサーだった。

2000mで圧勝したことにより、一番人気に推されていた。が、パドックに姿を現した途端、暴れ回るわ、蟹歩きのようなステツプ——いまでいうテイオーステツプを踏むわ、のちのジャングルポケットのように天高く嘶くわと、非常に元気そうだがむちやくちやであった。

そのせいで、馬券師たちは心臓が口から飛び出るかど錯覚するぐらいに緊張したという。

だがしかし、憂うことなかれ。先ほどの入れ込み具合からは信じられないレースを見せてくれる。

平凡なスタートでまたもや中団に着けると、1200mを通過したところで一度後退。

これに関して蘆名は、

「ちよつと前すぎたからわざと下げた」

と笑顔で語る。馬券師たちからすれば堪ったものではない。

前走とは打って変わって淀みのない展開となるが、スワーヴダンサーは馬群の真っ只中。

だが残り200mを切り、ようやく馬群から脱出。前をゆく馬をこぼう抜きし、八馬身ちぎつての勝利を掴む。

またもや人馬共にという形でGI初制覇。ここから、観客をあつと驚かせる人気馬の印象がついていった。

しばらくの休養を経て。スワーヴダンサー陣営が次走としたのは皐月賞のトライアルレースのひとつ、GIIスプリングステークス（芝1800m）だった。

パドックでは大人しい素振りを見せるが、問題はレースの内容である。

一番人気に推されたが、なんと出だしから大幅に出遅れたうえに、前に行きたがらない。完全にやる気のなかったレースだ。

最終直線での残り100mで蘆名が必死に鞭を打ち、一馬身差で辛勝したものの、これがもし乗り換えていたとすると、恐ろしいことになっていたかもしれない。

スプリングステークス勝利によって皐月賞への優先出走権を獲得。しかし陣営が目指したのは、皐月賞ではない。

スワーヴダンサー陣営が目指す路線は、なんとフランスのクラシック路線であった。

四月の始め、陣営は仏二千ギニー（芝1600m）から仏ダービー（芝2100m）、パリ大賞典（芝2400m）に出走すると発表。

このとき、日本競馬界はクラシックに名を挙げ始めていたトウカイテイオーとの無敗を懸けた一騎打ちと表したポスターを作成していたらしいが、スワーヴダンサーが海外遠征を表明したため、お蔵入りとなったよう。

フランスでの初戦となる仏二千ギニー。七頭立てとなったこのレースでは、距離、血統面から断然の一番人気に。パドックでは二本足で立っていたが。

対抗馬はヘクタープロテクターという馬であったが、残り500mで先頭に立つと同時にブツちぎり、二着のヘクタープロテクターとは

六馬身もの差をつけ海外初戦を快勝。日本調教馬が初めて欧州の二キギニーを勝利した瞬間だ。

続く仏ダービーも超スローペースとなるもまくって五馬身差の勝利。日本人騎手と日本調教馬による欧州のダービー初制覇である。さらに仏三冠にも王手がかかり、残すはパリ大賞典となる。

パリ大賞典ではやや出遅れたが、構わず強引に最後方から三番手に着ける。

少しづつスワーヴダンサーを外へ持ち出しながらフォルスストレットを抜けて最終直線。大外から一気に末脚を解放。瞬く間に駆け抜け、八馬身差での圧勝を遂げた。

これぞまさに、仏三冠馬の爆誕に相応しい圧勝劇。

しかし、世界への挑戦はまだ終わってなどいない。

なんと陣営は、日本競馬の悲願とされる凱旋門賞(芝2400m)への参戦を明らかにする。

大いに盛り上がる日本競馬界。それもそうだ、なんとたつて、遂に頂を手にする絶好の機会が巡ってきたのだから。

だが、今年度は時期が悪すぎるとの見方もあった。

英ダービー、愛ダービー、キングジョージを圧勝した欧州最強の三歳馬・ジエネラス。今年の凱旋門賞には、その馬も出走予定だったからだ。

けれどそれを破ってこそ、日本競馬の力を示せる。そういう考えもあつたようだ。

いよいよ大一番。今年は不良馬場となった凱旋門賞——日本競馬最大の悲願。夢を乗せて、スワーヴダンサーがパリロンシャン競馬場を駆ける。

世界の壁などぶち破ってくれ——そんな声が日本競馬界から上がるなか、火蓋が切られた。

スタートと同時に欧州王者ジエネラスがハナを切り、いままでとは打って変わって逃げる態勢に。

一方のスワーヴダンサーは、後方の馬群に吞まれ非常に危うい展開に陥っていた。

さらには仏ダービーの時以上にスローペースとなり、追い込み勢にも苦しい展開。

そんな暗雲を、フォルスストレートを抜けると同時に切り裂くように、凄まじい豪脚を發揮する。

そのままスワーヴダンサーが差し切る——かと思いきや、ジエネラスが必死の粘りを見せる。

粘りに粘られるも、じりじりと並びかけて叩き合いにまで持ち込む。

互いの悲願と意地がぶつかり合う、壮絶な叩き合いとなった。

それをハナ差で制した馬は、ジエネラスだった。あと一步のところ、日本競馬の悲願は果たされず。日本競馬の関係者から無念の声があがったという。

騎乗した蘆名は、この敗北をこう振り返っている。

「俺が騎乗してきた中で、最も凱旋門賞に近い名馬だった。馬群にさえ呑まれていなければ差せていたかもしれない。本当に、無念でいっぱいだった」

日本が誇る仏三冠馬の惜敗。その事実が、のちに日本競馬の闘争心に油を注ぐこととなる。

フランスから帰国後、陣営は国際GIジャパンカップ（芝2400m）を選択。

ここには先月、無敗での三冠を達成したトウカイテイオーも出走予定であった。

同年代の三冠馬対決。日本競馬は再び盛り上がっていく。

さらにはそこに、天皇賞（秋）こそ降着したものの、天皇賞（春）では衝撃的な強さを見せつけたメジロマックイーン、海外からはスワーヴダンサーを破り欧州三冠馬となったジエネラスが参戦することとなる。

大歓声に包まれた東京競馬場。最強を決める負けられない一戦がスタートした。

いきなりメジロマックイーンがハナを奪うなか、欧州三冠馬ジエネラスは三番手、トウカイテイオーはその後ろ、スワーヴダンサーは外

を回りつつ十二番手に着ける。

しばらくし、メジロマックイーンが二番手に下がると、スワーヴダンサーも徐々にまくり始める。

残り500mで蘆名はスワーヴダンサーに鞭を打つ。一方のトウカイテイオーもメジロマックイーン、ジェネラスを躲して先頭に立つ。

三冠馬による、頂上決戦が幕を開けた。

凱旋門賞の時の如く、蘆名は懸命に鞭を振るう。

残り100mでトウカイテイオーに並びかけ、叩き合いを展開。メジロマックイーンが差し返しに迫るも、もはや二頭の独走は止められるものではなかった。

ゴール板直前。そのときのことを、トウカイテイオー鞍上の中原輝貴は、引退直前にこう語る。

「だいたい100m直前ぐらいかな。そこで差されたって感覚があった」

写真判定にこそ持ち込まれたが、中原の言うとおり、スワーヴダンサーがこの一大決戦をハナ差で制した。

メジロマックイーンは三着、ジェネラスは十一着という結果となった。

ジャパンカップ優勝後、スワーヴダンサーは一度帰厩するため、馬運車に乗り込んだ。

馬運車での移動中、不運が彼に襲いかかる。

スワーヴダンサーの乗っていた馬運車が横転。大事故を起こしてしまった。

この事故でスワーヴダンサー自身も骨折。長期休養を余儀なくされてしまう。

また、三冠馬トウカイテイオーも骨折が判明。三冠馬が全て戦線離脱という、前代未聞の事態となる。

馬主の黄添氏はスワーヴダンサーの骨折を報告された際、頭が真っ白になったという。

「どうしてやればいいのかわからなかった。また走らせるか、それともこのまま引退させるか。かなり苦悩した。けれども最初に浮かんだ言葉は、生きていてくれてありがとう、だった」

黄添氏はその後、調教師の吉長と相談を重ねた末に、ある決断を下す。

——翌年のジャパンカップを、復帰戦兼ラストランに。

黄添氏がなぜその決断に至ったのか、吉長は推測を交えつつ話した。

「オーナーはたぶん、一目でもいいから、ファンにスワーヴダンサーの走る姿を見てもらいたかったのかもしれないねえ」

1992年度ジャパンカップ。その年は、降雨もあってか不良馬場となっていた。

皐月賞で強豪馬ライスシャワー、天皇賞（秋）で復帰明けの三冠馬トウカイテイオーを破ったミホノブルボンが一番人気に支持されるなか、スワーヴダンサーはラストラン、不良馬場という点で四番人気に収まった。

遂に始まる王者決定戦。ゲートが開き、火蓋が切られた瞬間、ダッシュがつかない馬が一頭。スワーヴダンサーだった。

この出遅れが響き、最後方に着けざるを得なくなってしまう。

しかしスワーヴダンサーにとって、真の勝負はスタートではない。最終直線にあった。

2000mを通過する刹那、蘆名は鞭を振るった。

先頭に立っていたミホノブルボン、先行していたトウカイテイオーが伸びず後退していくさなか、海外勢のドクターデヴィアスを差して先頭に立ったシャコーグレイドを大外から並びかけ、寸前で躲し——ゴール板をくぐり抜けた。

勝者インタビューにて、主戦を務めた蘆名は、「トップジョッキーを目指す」とスワーヴダンサーに誓う。

その誓いは、2000年代後半から2010年代前半にかけて、果たされることになる。

そしてまた、府中の大舞台で一頭の優駿がターフに別れを告げたのだった。

——引退。そして種牡馬へ

種牡馬入りしたスワーヴダンサーの初年度種付け料は、以外にも400万円とかなりの安値であった。

だがしばらく、彼の産駒から大物が生まれることはなかった。失敗の理由として、ニジンスキー系統に属していたことが挙げられる。

この頃の良質な繁殖牝馬といえば、マルゼンスキーを父に持つ馬だった。マルゼンスキーもニジンスキー系の種牡馬であり、これと組み合わせるのは危険な配合となってしまうのだ。

しばらくの期間、産駒に恵まれなかったスワーヴダンサーだが、ある血統の牝馬にありつき、ようやく種牡馬としても本領を發揮し始める。

それこそが、サンデーサイレンス系の牝馬だった。

サンデーサイレンスを食い散らすような怒涛の勢いでサイアーランキング上位に幾度か上り詰めるも、リーディングサイアーには終ぞ輝けず。2010年で種牡馬引退となる。

だが近年、欧州では、スワーヴダンサーを父に持つ種牡馬の台頭が著しい。きつといつまでも、仏三冠馬の血は残ってくれるだろう。

——偉大なる豪脚の仏三冠馬は、天へと駆けていった

2016年。ジャパンカップ開催の前日に衰弱、その翌日の午後息を引き取った。享年二十八歳。

人々の記憶に刻まれたその豪脚は、いつまでも、いつまでも、色褪

せないだろう。

ジャパンカップが行われる府中にて、蘆名正義は、涙を流しそうになりながらも、必死に堪えて騎乗していた。

あの日、未熟だったジョッキーは、いつしか立派になっていった。天へと駆けていったスワーヴダンサーも、喜んでくれていることだろう。そう、きつと。

砂上の——編 晩成デビル

ただならぬ雰囲気が漂う川崎競馬場。地方の競馬場であるが、今日に限っては一味違う。

二歳ダートGI——正確にはJpnIだが——全日本二歳優駿。地方中央問わず、早めに勝ち上がってきたダートを最適性とする馬たちが集う、ダート二歳王者決定戦。

パドックではここまで勝ち星を積み上げてきた強豪たちがひしめき合う。全力と全力をぶつけ合う、そんな競走が間もなく始まりを告げる。

「どうです？ シガーの調子は？」

「とてもと聞いていいほど絶好調です。毛艶もいいですし、力を出してくれると思います」

「……それなら、いいのですが……」

やや不安そうな声で、シガーの馬主——オーナー、黄添宗太郎きぞえそうたろうは祈るように手を組む。

忙しなく目を泳がせる。宗太郎にとっては不安要素だらけの今日だ。

シガーという馬は確かに強い。過去の名馬で表すならば、シンボリルドルフと重ねて見てしまうぐらいには。

だが、いまにも鼻歌を歌い出しそうな調教師の松上とは相反して、宗太郎は不安でいっぱいだった。

それにはシガーもだし、鞍上を務めてくれる柴義富も含まれる。

前走は難なく快勝。そのうえでこの大舞台では一番人気に推されている。が、宗太郎からすればとても勝てるとは思えなかった。

「……ひとつお訊ねしたいのですが」

「はーい」

隣に立つ松上に訊ねる。

それぐらい、不安だったのだ。

「勝てますか？」

松上は腕を組んで考え込む。何度も瞬きをしながら。

より一層、宗太郎は不安に駆られる。いまはただ、この沈黙が苦しかった。

「……柴くん次第、としか言えませぬね」

『さあ、間もなく発走となります、全日本二歳優駿。今年のダート二歳王者の座に着くのは果たして、どの馬か？』

川崎競馬場、ゲート内。

四番のゼツケンを纏ったシガールの鞍上、柴義富はいまかいまかと手綱を握る。

シガーは最終コーナー手前で先頭に躍り出て、そのまま押し切る……典型的とっていい先行馬だ。

だから、スタートは肝心。好スタートが切れればなおさらいい。

『GI全日本二歳優駿、いまスタートが切られましたッ！』

おおっと、バラけました、バラけたスタートとなりました。一番人氣シガーは四番手、四番手であります。あつとシガー後退！ シガー後退！ 一気に十四頭中八番手まで下がりました！ これは大丈夫か!? 柴義富、危ういか!?』

——まずい。義富は唇を噛み締める。

これが紅蓮イージーゴアの怪物だとしたら、義富は意図的に下げただろう。しかし、いま乗っているのは、先行馬であるシガーだ。

『残り1000mを切りました。シガーは馬群の真っ只中。中団で吞まれております。柴義富、さあ、ここからどうする』

おまけに馬群にも吞まれている。ここから勝ちを掴むのは容易ではない。普通ならこのまま沈んでいくのがオチだ。

けれど、そんなオチは許せなかった。否、許してはならなかった。

タイミングはあまりにも早すぎるが——。

『残り800m！ ああつとシガー！ ここに来て柴義富、大外に持ち出して上がってきました！ グイグイグイグイ押し上げる！ そのまま先頭に立ちました！ シガーが先頭！ 一番人氣シガーが蘇りました！』

仕掛けのタイミングとしては最悪。しかし勝つにはこれしかない。義富は手綱を押し、鞭を振るう。もうこのまま押し切るしかないのだ。

『最終直線、残り200m！ シガーだ！ シガーだ！ シガーが先頭！ 本当に勢いのまま押し切ってしまったのか!? 後続との差は六馬身、五馬身、四馬身と縮んできている！ 無敗でGⅠ勝利なるか!? 差は二馬身！ 二馬身をキープ！ もはやどの馬も近づけない！ 近寄らせない！』

シガーが圧勝！ シガーが圧勝！ 鞍上柴義富、見事な好騎乗ですッ！ まさかの二馬身差の圧勝！ これは驚いたぞ、シガーと柴義富！』

額の冷や汗を腕で拭いながら、生きた心地のしない身体でシガーから下りる。

なんとか鞭を打って走らせた。結果はこの通り、義富からすれば辛勝である。

だが成果もある。それは――。

「……俺を試している、ようだな」

義富は口角を上げる。

上等、受けて立つ。義富はシガーの瞳を見据える。

真っ暗な瞳には、そんな義富の姿が映っていた。

ふう、と宗太郎は胸を撫で下ろす。

後退したときには思わず気を失いかけたものの、なんとか踏ん張り、結果的にGⅠ勝利を見届けることができたのだ。

「やりましたね、これでシガーはGⅠ馬です」

「……ホントにヒヤリとしましたよ。どうなることとやら……」

松上も一安心したように息を吐く。

どうやら、流石の松上もいまのレースには焦りを隠せなかったようだ。

「兎にも角にも。豪快に押し切りましたね」

「ええ、本当にね……」

宗太郎は苦笑いで応じる。その胸中は、今後への不安でいっぱいであつた。

黒いステイヤー編 大逃げグランプリ

GI有馬記念。ファン投票により出走馬が決定する、グランプリレース。

日本競馬の総決算でもあるから、毎度毎度祭りのような雰囲気だ。ファンもホースマンも、選ばれた馬に夢を託す。

夢の形は様々であれど、一貫していえること——それは、勝ってほしいという思い。

暮れの中山競馬場は、今年も夢で溢れ返る。

夢を背負い、夢を駆けさせ、夢を勝たせる。

有馬記念、芝2500m。大舞台は、間近に迫ってきている。

「谷潤三郎騎手、今年はどのようなレースにしたいですか？」

会見室。大勢からフラッシュが焚かれるなか、ひとりの記者が質問する。

質問された当の潤三郎は、口角を歪ませ、不気味な笑みを浮かべた。

「そりゃあもちろん、勝ちにいきますよ。」

今年は超ハイペースになりそうですね。そこがちよつと怖い
です。

ただまあ、ちよつと怖いだけで勝てないとは言っていないですけど
ね。

皐月賞、秋の天皇賞を勝ったミホノブルボン、マイラーのダイタク
ヘリオス……ここに気をつけたいところですよ」

「騎乗馬のライスシャワーの調子はどうでしょうか？」

「上々です。異変も見られませんし、有馬は貰いましたよ」

「皐月賞、日本ダービーで戦ったミホノブルボンに対しては、どのよう
な対策をなされますか？」

「大逃げするならスタート直後から競り合わせますよ。スタミナ対決
に持ち込みたいです」

「逃げといたしますと、今年の宝塚記念覇者メジロパーマーはどう見ら
れていますか？」

「たぶん大逃げでしょうね。あの馬もスタミナがあるから、強敵かもしれせん。」

ですが個人的には、ダイタクヘリオスとミホノブルボンが同時に大逃げしたときが一番怖いですね」

「三冠馬トウカイテイオーに関しては？」

「確かにあれは強いです。」

けど大幅に弱体化してるようですね……ライスなら勝ってます」

「最後に意気込みを」

当日の地下馬道。

潤三郎は肩を大きく回し、筋肉を解す。

と、なにかブツブツと呟く声が潤三郎の耳に入る。

呟きのもとには、ちょうど隣を歩いていった中原輝貴のものだった。

輝貴の姿を一瞥した潤三郎は、思わず絶句してしまう。

目は何を見据えているのかわからないほど虚ろで、ぐったりとしている様子だ。

美貌も目元の隈ですっかり潜まっている。

——あの天才ジョッキー・中原輝貴とは思えないほどの惨状である。

「あの状態で、まともに騎乗できるか……？」

確か、と潤三郎は思い出す。

今年の有馬記念では、中原輝貴はサンエイサンキューという馬に騎乗する予定となっている。

そこで、潤三郎は察する。察したくなくても、察してしまった。

「……運命は、中原さんを殺したいのか……？」

潤三郎の嘆きは、誰にも知られず、虚空に消えていった。

『暮れの中山に集いし優駿たち。芝2500mで夢と夢がぶつかり合います。』

三冠馬の復活か、秋の天皇賞馬の圧勝か、二冠馬の台頭か。それとも、伏兵が制するのか。ちなみに私の夢は、二冠馬ライスシャワーです。

大外枠十六番ダイタクヘリオス、ゲートに収まりました。

——有馬記念、その火蓋が切つて落とされますッ！

スタートしましたッ！

メジロパーマー、ダイタクヘリオス、ミホノブルボン、ライスシャワー、好スタートを見せました。三冠馬トウカイテイオー、岡辺幸斗も好スタートですが下げました。

さてハナを切ったのはメジロパーマー。二番手には……なんとなんとライスシャワー！ メジロパーマーに並びかけにいった！

これはいったいどういうことだ!? 鞍上谷潤三郎は何を考えているのか!？」

メジロパーマーに並びかけ大逃げするライスシャワー。

その鞍上である谷潤三郎は、薄気味悪い笑みを浮かべる。

メジロパーマーの鞍上は、怪訝そうに顔を歪めた。

『ライスシャワーとは一馬身開いて三番手にダイタクヘリオス。それに並んだミホノブルボン。鞍上戸島定博、恩師・青山為男の無念を胸にミホノブルボンの手綱を取ります。』

三冠馬トウカイテイオーは中団。七番手です。前走のジャパンカップでは惨敗していますが、果たしてこの有馬で復活なるか。

メジロパーマー、ライスシャワー、共にややペースを上げたか？ 後続をぐんぐん突き放します。

ポツンと最後方には苜毛の牝馬サンエイサンキュー。中原は仕掛けるつもりがなさそうだ。

さて先頭はメジロパーマー。アタマ差で二番手ライスシャワーとなっておりす。

——あぁつと!? サンエイサンキュー転倒！ サンエイサンキュー転倒！ 鞍上中原もターフに投げ出されました！

これは大丈夫か、中原!? 場内、悲鳴が上がっております！

先頭メジロパーマーで残り800m。ここで仕掛けるかミホノブ

ルボン！ ミホノブルボンが来ました！

鞍上戸島定博、手綱をグイグイ押しつけて押しつけて押しまくる！ ダイタクヘリオスを交わしてライスシャワーに詰め寄ろうとしているッ！

ダイタクヘリオスは後退！ ダイタクヘリオスは後退！

三冠馬トウカイテイオーは伸びを欠いております！ テイオーは苦しい！

残り600mを切って、先頭はメジロパーマーのまま！ ライスシャワーと激しく叩き合っております！

大外からミホノブルボン！ 大外からミホノブルボン！

ライスシャワーがようやくメジロパーマーを僅かに交わした！

ライスシャワー先頭だが、大外からミホノブルボンが迫ってきている！

ミホノブルボンが撫で切るか!? メジロパーマーが差し返そうとする！ ライスシャワー、粘る粘る！

ようやくトウカイテイオーが伸びてきたがもはや届かない！ これは三頭の叩き合いだ！

——三頭並んでゴールインッ！ これはわからない！ これは勝敗がわからないぞッ！』

「よくやったよ、潤三郎」

ライスシャワーの背から降りる潤三郎に、調教師の吉長正之は笑顔で声をかける。

潤三郎はライスシャワーの首筋を撫でてやりつつ、目元を拭う。

「本当に、ライスはよく頑張ってくれました……！」

「ああ、大健闘だぞ」

「競走を中止する馬が出てきてしまったのが、無念ですけどね……」
「それでもなあ、お前さんとライスはよく頑張った。特別賞を個別で与えたいぐらいだ。オーナーはきつと喜んでくれるさ」

正之は潤三郎の背を叩き、ハンカチを手渡す。

そして、ライスシャワーを見据え、潤三郎と同じように首筋を撫で

る。

「……勝った、勝ったんだな、俺らは……」

【一着 ライスシャワー】

二着 ミホノブルボン ハナ差

三着 メジロパーマー ハナ差】

中山競馬場の掲示板には、そう表示されていた。

密林を切り裂く影編・序章

1992年も終わりに近づく頃。

年末、12月の四週目。

人々がクリスマスやら年越しやらで沸き立つなか、とある牧場もまた、人々と同じように沸き立っていた。

この日、馬主である黄添宗太郎は、その牧場に足を運んでいた。

近々、宗太郎が期待を寄せている一歳馬が二歳を迎えることになるからだ。

心を弾ませ、胸を躍らせ、宗太郎は真っ白な道を進む。

どんな馬に育ったのだろうか？ そんな期待を抱きつつ。

牧草にゴロンゴロンと寝転ぶ黒鹿毛の一歳牝馬を遠目に、宗太郎は微笑む。

「……あんなに馴染んじゃって」

どこか感慨深げに宗太郎は呟く。

あの牝馬が当歳時だった頃に、宗太郎は何度か彼女を繋養している牧場を訪れたことがある。

その時はまだ『冷徹なお嬢さま』という印象が強かったのだが……今となってはどうやら、解凍されたようだ。

そうして笑んでいると、一歳牝馬が宗太郎に気づいたようで。

すくつと立ち上がり、トコトコと宗太郎のいる柵の前まで近寄る。

柵の前まで近寄ったら、今度は頭部を宗太郎に差し出す。「撫でて」
とでも言わんばかりに。

それに応じるように、宗太郎もゆっくりと手を頭部に置き、割れ物を扱うかの如く柔く撫でる。

「すっかり見てくれるのいいお嬢さまになったなあ、『ヒシアマゾン』や」

「——可愛いでしょう？ アマちゃん」

「——ッ!？」

ビクリ、と肩を揺らし、宗太郎は咄嗟に背後を振り返る。

いたのは、枯れ木のような印象を受けるほどに痩せた、やや長めの

黒髪の青年だった。

「可愛いですよね、アマちゃん。拙僧もついメロメロになってしましまするぞ」

枯れ木の印象とは打って変わって、蕾から花開いたように笑顔を浮かべる青年。

ああ、とふと宗太郎は思い出す。

確か、牧場に新しいスタッフが就職したとか。

宗太郎からすれば見慣れない顔であったがために、すぐさま目の前の青年の正体に行き着く。

「佐屋満さやみつるさん、かな？」

「ええ、ええー！ よくぞご存知で！」

「……その話し方、どうにかならないの？」

「どうにもなりませんア！」

佐屋満。馬が大好きだという二十代の青年。無職であったが、何を思い立ったかこの牧場に就職したという。

この青年は、なんでも、牧場関係者からは『ヤーマン』という愛称で親しまれているようだ。

そんなヤーマンこと満は、ますます笑みを深めて口を開く。

『ヒシアマゾン』……アマちゃんは、本つつつ当に愛らしいお嬢さまですぞ。馬体を洗う時なんか、明らかに表情が柔らかくなりますから。それはもう愛らしくて愛らしくて……そんな顔をされたらイチコロですぞ」

「お、おう……」

グイグイ推してくる厄介ファンに、流石の宗太郎も引きつった笑みを浮かべざるを得ない。

恍惚とした表情を見せる満は、明らかに変態であった。それも、宗太郎以上に。

と、何かを思い出したように満がポンと手を叩く。

「ああ、そうでした。ひとつお伺いしたいことが」

「なんだなんだ？」

「黄添オーナー。アマちゃん——『ヒシアマゾン』という馬名の由来に

ついてお聞かせ願いたいのですが。気になりすぎて拙僧、朝しか眠れませぬ」

「そこは夜に寝なさいよ!? あとなんで名前知ってんの!? ……まあいいや。んじや、話すぞ」

ピシツ、と唐突に人差し指で天を指す宗太郎。

次に彼が告げた言葉は、変態である満すら、流石に困惑せざるを得ないものであった。

「——ズ・バ・リ! 『ひし餅』と『アマゾン』であるツ!」

「……はあ」

「なにその困惑顔は」

「……流石の拙僧もこれには失笑せざるを得ないといえますか、ねえ……」

「なんでさ!?! あり得ない組み合わせでの馬名だぞ!?! ピンときたからこの馬名に決定したんだが!?!」

「で、なぜ『ひし餅』と『アマゾン』なので?」

「そりゃあね、『ひし餅』って雛祭りに使われるでしょ? 雛祭りって女の子の成長を祝う祭りでしょ? アマちゃんは牝馬だから、ちょうどいいと思って」

「どっかの冠名のようでございますねエ」

「……断じて冠名ではない」

「怪しすぎまするなア。ま、いいでしょう」

『アマゾン』は女傑族アマゾネスから。アマゾネスのような強靱な身体に育ってください、という願いを込めてだ」

「ここだけ微妙にしっかりしてまするな」

「微妙って言うな! 微妙って!」

「とにもかくにも。無病息災——一言で表すならば、この四字熟語でしようか」

「そうだな。どうかこの子も怪我なく、競走馬として駆け抜けてほしい。この願いだけは——誰にも邪魔させない」

宗太郎の背後から、一陣の風が吹き荒ぶ。

短く切り揃えた宗太郎の黒髪が、微かに揺れ動く。

満は一瞬、圧倒されると同時に、内心では狂ったように笑っていた。
——ああ、この人ならば、この人ならば——アマちゃんを任せられる。

そんな確信めいたものが、満を歓喜させる。

満の全身に流れる血がどんどん滾っていく。

——アマちゃん、よかったですなア。あなたはきつと、立派な競走馬になれるでしょう。

「……ええ、よろしくお願いしますぞ、黄添宗太郎オーナー」

「ああ。こちらこそ、しばらくの育成をお願いするよ、佐屋満さん」

宗太郎と満は、不敵に笑む。そして、握手を交える。

一方で、そんなふたりに付き合ってもらえないとばかりに、『ヒシアマゾン』はやや距離を空けてゴロンゴロンと馬体を牧草に擦りつけていた。

1993年編

1993年、始動

「明けましておめでとうございます、吉長先生」

「こちらこそ、明けましておめでとうございます」

互いに頭を上げ下げしている宗太郎と吉長正之。

その異様な光景に、通りすがりの厩務員ですら訝しげな視線を向けてしまう。

馬主と調教師。そんな関係であるが、ふたりの友好関係は案外固い。

もちろん、有力馬を預けてもらっているという要因もあるだろう。それでも、宗太郎は正之にかなりの信頼を寄せているし、正之もそれに応えるようにいざとなれば見事な調教で馬を仕上げる。

正之はもともとから豪胆な人間だ。大きい賭けというのも嫌いではない、勝負人気質な者でもある。

スワロヴダンサーの鞍上決めと凱旋門賞出走。この賭けには流石の正之でも肝を冷やした。

しかし、やり甲斐もあった。こういう大仕事には強いのが、正之の長所だ。

はまれば強く、崩れればあつという間——そこに関しては、騎手時代からあまり変わっていない。

だが宗太郎という馬主がいるからこそ、正之は調教師にやり甲斐を見出させている。

そういった意味では、正之は宗太郎に心底感謝の念を抱いている。そんな宗太郎がわざわざ吉長厩舎に訪れてきた——恐らく、何かあるのだろうと正之は踏んでいた。

「早速ですが本題を。ライスシャワーの次走に関してです」

やはり、と正之は口角を上げる。

「そう来ましたか。どこに出ます？ やっぱり芝3000mの阪神大賞典に行きますか？」

「いえ、今回は特殊な海外遠征ローテーションを組もうかと」

「……ほほう？ 詳しくお願いします」

「休み明け初戦はGⅡの芝3200mのレース、ドバイゴールドカップです。初海外遠征をお願いしたいのです」

「……なるほど、ステイヤーズミリオンですか」

「やはりお気づきになられましたか」

「ですがそれには、その後、英国に渡って芝4000mのGIゴールドカップ、芝3200mのGIグッドウッドカップ、最終戦の芝3300mのGⅡロンズデールカップを勝ち抜かねばなりません。かなり過酷な戦いになると思いますが……」

「もし途中でライスに何かあれば、すぐさま出走を取り止めていただいて構いません。むしろそうしてください。何かあった場合、どうしても後悔してしまうので」

「……………」

しばしの間、正之は顎に手を置いて考え込む。

そして、宗太郎に向き直る。

「わかりました。では、そのようにいきましよう」

「ありがとうございますー！」

「ライスに何かあった場合、すぐさま遠征は取り止め。鞍上は谷潤三郎のまま。この内容でよろしいでしょうか？」

「はい、今の内容でお願いします。ステイヤーズミリオンを難なく制覇したあとのローテーションはまた話し合いましよう」

宗太郎は咳払いし、言葉を続ける。

「そうだそうだ。吉長先生に預託したい二歳牝馬がいます」

「おおっ、それはいつたい？」

「ヒシアマゾンという馬です。黒鹿毛でなかなか瞬発力がありそうですねよ」

「ぜひ預からせていただけませんかッ!」

「どっ、どうどう！ 掛かってますよ！ 吉長先生！」

押し迫る正之に、気圧される宗太郎。

明らかに様子を一変させた正之だが、宗太郎には心当たりがあつ

た。

黒鹿毛で瞬発力のある馬——この要素だけで、正之を興奮させるのには十分すぎるだろう。

三冠馬ミスターシービー。吉長正之という騎手の相棒にして、最大の後悔。

ミスターシービーは瞬発力を武器に三冠を勝ち取った名馬であるし、さらに毛色も黒鹿毛。

牡馬と牝馬という違いこそあれど、耳にするだけではシービーが再来すると思えてしまうのだろう。

そして、かつての無念も晴らせると思っているのかもしれない。

「お願いしますッ！ お願いしますッ！」

「わっ、わかりましたッ！ ですから預けますって！」

流星はシービーに脳をも撫で切られた男、シービーに関する執着心は一味違った。

宗太郎の言葉がようやく届いたのか、正之は安堵すると同時に慌てて頭を下げる。

「すいません、つい、熱くなってしまって……」

「いえいえ。それほどの情熱を抱くというのは、いいことですよ。驚きました」

「……本当にありがとうございます。入厩したら必ず立派に育て上げます」

正之の拳は、力強く握りしめられていた。

必ず、強くする——そう誓いながら。

「あっ、そうそう。そういえば」

宗太郎は思い出したかのように言葉を引き出す。

「今月、新しい一歳馬を欧州から買ったんですよ」

砂上の——編 異変

星々が瞬く、真夜中。

3月のこの日、サウジにあるキングアブドウルアジーズ競馬場では、盛大なレースが開催されようとしていた。

——サウジカップデー。莫大な賞金額を誇るドリームレース、ダート1800メートルのサウジカップを主体に、数々の国際重賞競走が行われる。

夜空の下、照明に燦々と照らされたキングアブドウルアジーズ競馬場は、独特な緊張に包まれていた。

開催される国際重賞は、どれもこれも賞金額が高い。そのため、欧州勢も米国勢も挙って参加したがる。

世界中のホースマンが夢見る一獲千金。誰もがそれに手を伸ばし、掴むか、あるいは届かないか。

あるひとりの騎手が、夜空を僅かに照らす星に手を伸ばす。しかし握れど握れど空振るばかり。だって、星は決して、掴めるものではないのだから。

「サウジカップデー、か」

握り拳を見つめ、やや残念そうに微笑む騎手は柴義富。

馬主の黄添宗太郎、調教師の松上良洋からの騎乗依頼によって、今この場に立っている。

「星は確かに掴めないよな。それもそうか」

夜空を眺めているうちに、なぜだか星を触ってみたくなくなった。そんな動機から、義富は虚空に向かって手を伸ばし続けていた。

掴めない、取れない、触れられない。わかっているはず。だが、どうしても触れてみたくなかった。ただそれだけだ。

けれども、どういうわけか確信があった。

——あの星には、いつか乗れる。だからだろうか。

その言葉が、自然と口から零れたのは。

「空に瞬く恒星、か……」

義富が騎乗する時はしばらくして訪れた。

GⅢサウジダービー。ダート1600メートル。

今回それに出走する、三歳馬となったシガーに騎乗している。

ゲート入りは既に済ませている、あとはスタートのタイミングを合わせるだけ。

シガーにとっては三歳初戦。義富は改めて深呼吸する。

——刹那、ゲートが開かれる。

『スタートしました、GⅢサウジダービー！ 出走している日本馬はただ一頭、三番人気七番シガーのみ！ 鞍上柴義富、今日はどんな手綱捌きを見せるか』

前方には四頭、残りの九頭はシガーより後方。今回のレースでも、義富は安定した先行策を採った。

手綱を握る力が一段と強まる。

シガーからすれば初めての海外遠征。しかしシガーには急な環境の変化に動じる様子はなかった。

むしろ、手綱越しに楽しいという感情が伝わってくるぐらいだ。どうやら杞憂だったようだ。義富は内心で息を吐く。

けれども、本番はここから。

残り1200メートル辺り。マイルレースであったが、ペースは遅いように見受けた。

義富は手綱をほんの少しばかり押す。それを受けたシガーが上がついていく。

二番手まで上がってきたところ、そこでシガーの手綱を引く。

先頭の逃げ馬をマークし、直線で一気に交わす——そう、急遽作戦を変更したのだ。

シガーはとてつもない力を秘めた馬だ。余程の不利を受けない限り、このレースでは負けることがないだろう。

それを信じての、最終直線。

サウジダービー。ドリームレースのひとつが、いよいよフィナーレへと向かう。

『最終直線！ 最終直線に入りましたッ！ 先頭は逃げ馬を交わして

シガー！ 日本のシガーが先頭だツ！ これは王道の横綱相撲！
他馬を寄せつけない！ 他馬を寄せつけていないツ！ 無敗のシ
ガーだツ！ もはや勝負決した！

シガー先頭で、今ゴールインツ！ シガーが一着！ シガーが一着
！ 鞍上柴義富、これはやった！ 日本調教馬の底力を見せつけ、三
馬身差でサウジダービーを制したツ！』

勝利のガッツポーズでもしてやろうと、義富が左腕から手綱を離し
た瞬間――

ピシリ、と不吉な音が義富の耳に響いた。

勝利の喜びから一転、義富の表情がだんだんと青く染まっていく。

シガーを見やると――何事もなかったかのように、歩いていた。

一方で、義富の心境は穏やかなものではなかった。

「シガーは!? シガーは大丈夫なんですか!?!」

サウジダービーを終えての競馬場内。

明らかに震えた声音が響く。義富から異変を聞きつけた馬主であ
る黄添宗太郎が、シガーとその調教師の松上良洋のもとに駆け寄る。

良洋は顎を手で擦りつつ、シガーの脚を一瞥する。

「……黄添さん」

「……はい」

宗太郎は息を呑む。

最悪の事態だけは避けてくれ。宗太郎の内心はその言葉でいっぱ
いだった。

「……次走は、アメリカのケンタッキーダービーを目指しましょう」

「……え?」

「幸いですが、シガーの脚には異常が見られません。一応ですが、次走
はケンタッキーダービーにしつつ、帰国し、様子見をしていくのが得
策かと……」

「ですが、シガーに何かあってしまったら……」

「……その時は、転厩なりなんなりしていただいて構いません。です
から、まずは5月のアメリカで行われるケンタッキーダービーを大目

標にしましょう」

「……………」

後日、日本に帰国してから。

シガーがレースを勝ったというのに、宗太郎の表情は暗いままだつた。

荒んだ心を癒やすため、宗太郎はヒシアマゾンなどを繋養している牧場に足を運んでいた。

風が心地よい。だが今の宗太郎には、どうでもよかつた。

ある牝馬がいる柵の前で、足を止める。

「後日はドバイ遠征だがどうにも足が重いんだ。どうすればいいんだろうなあ。よかつたら教えてくれないか？」

——コロラドダンサー」

砂上の————編 掲示板その一 ケンタッキー
ダービー

1：日本馬応援民

日本馬が五月に行われるアメリカ最高峰のケンタッキダービーに挑戦すると聞いて立てました。

三月にシガーがサウジダービーを、ライスシャワーがドバイゴールドカップを勝ってるからいけるかも？

2：日本馬応援民

イージーゴア「呼んだ？」

3：日本馬応援民

申し訳ないがアメリカ競馬最大級のトラ馬はNG。

4：日本馬応援民

なんでこんな良血馬を手放したんだ、アメリカ競馬は。

5：日本馬応援民

札束でぶっ叩かれたからかねえ。

6：日本馬応援民

取引額：八億円

7：日本馬応援民

どんだけ金持つとるんや、あのオーナーは。

8：日本馬応援民

最近でも一歳馬と繁殖牝馬を札束でぶっ叩いて購入してたし……。

9：日本馬応援民

一歳馬はともかく、繁殖牝馬のほうが良血だったような……。

10：日本馬応援民

オーナーこと変態「この牝馬からはいい馬が産まれるだろう。世界最高峰のレースを勝つほどの」

いやあ、無理でしょ（嘲笑）。

11：日本馬応援民

繁殖牝馬って確か、コロラドダンサーのことだよな？

12：日本馬応援民

そうそう。父シャリーフダンサー、母フオールアスペン。

13：日本馬応援民

ノーザンダンサー系の牝馬か。母がフオールアスペンってのもそこそこ期待できるな。

14：日本馬応援民

なお、一歳馬の血統。

父ポリツシユプレシデント、母ココット、母父トロイの牡馬。

15：日本馬応援民

うーん、ちよい地味！

16：日本馬応援民

絶対走らへんやろ（白目）。

17：日本馬応援民

ちなみに気性はちよつと荒い模様。

18：日本馬応援民
終わつたな。解散解散。

19：日本馬応援民
米二冠馬イージーゴア、仏三冠馬スワーヴダンサー、二冠馬ライスシャワーを見出した相馬眼は確かに評価する。けどその相馬眼も衰えてきたか。

20：日本馬応援民
サウジダービー馬シガー「あの」

21：日本馬応援民
末デビューのヒシアマゾン「あの」

22：日本馬応援民
つてか話が逸れまくつてるので戻すぞ。

今日行われるケンタツキーダービーにはサウジダービー馬のシガー(牡三)が出走予定。鞍上はケンタツキーダービージョッキー柴義富。

23：日本馬応援民
うわ出た、ダートの鬼。

24：日本馬応援民
柴政彦が追い込みの鬼なら、柴義富はダートの鬼だな。

25：日本馬応援民
ダートならめっちゃ上手い騎手。

26：日本馬応援民
特に本命と大穴に乗つてるときが怖いわ。大抵来る。

27：日本馬応援民

鞍上はヨシトミか。勝ったな。

28：日本馬応援民

で、現地だと何番人気？

29：日本馬応援民

……よ、四番人気。

30：日本馬応援民

中途半端な人気だなあ。大丈夫か？

31：日本馬応援民

本命馬は前哨戦を勝った馬とか、その辺りらしいね。

32：日本馬応援民

不安要素ばかりだぞ。アメリカのチャールズダウンズ競馬場は連日の雨で泥んこ馬場になったし。

33：日本馬応援民

シガーって今のところ良馬場しか走ってないんだっけ？

34：日本馬応援民

そう。勝ってるレース全てが良馬場での開催。

35：日本馬応援民

たった今陣営のコメントが入ってきたから貼っとく。

シガーを管理する調教師松上良洋は「体調こそ万全ではありませんが、たぶん、勝ってくれます」と自信満々。

一方、鞍上の柴義富だが「だいぶキツいかも」と弱気な発言。

36：日本馬応援民
確定演出

37：日本馬応援民
やめちくりいいいい!?

38：日本馬応援民
明らかに関係者間で認識にズレがあるでしょ（名推理）。

39：日本馬応援民
終わったな。風呂入ってくる。

40：日本馬応援民
これはどうなん？

41：日本馬応援民
ヨシトミがキツイと言った時点でアカンと考えておけ。

42：日本馬応援民
解散解散！ ほら、散った散った！

43：日本馬応援民
もう駄目だあ……お終いだあ……。

44：日本馬応援民
いやあ、キツイです。

45：日本馬応援民
……そろそろレースが始まる頃だが、観戦するか？

46：日本馬応援民

まあ、観るだけ観てみるよ。

47：日本馬応援民

各馬、既にゲートに収まってるぞ。

48：日本馬応援民

シガーは何番？

49：日本馬応援民

九番のゼツケンを着てる馬やで。

50：日本馬応援民

十六頭中九番を引いたか。他馬に揉まれなきやいいんだが……。

51：日本馬応援民

おっ、始まるでー！

52：日本馬応援民

スタートしたぞーっ！

53：日本馬応援民

シガーは好スタートから……いきなり先頭を掻っ攫っていった！

54：日本馬応援民

シガーがいった！ シガーがいった！

55：日本馬応援民

内に着けて逃げ切る作戦を採ったな。

56：日本馬応援民

ダート2000m。さあ、どう逃げ切るか？ 柴義富。

57：日本馬応援民
シガーと後続との差は二馬身。ちよつとペースが遅い。

58：日本馬応援民
残り1000m！ シガーが逃げのペースをちよつと早めた！

59：日本馬応援民
500mを切ったら仕掛けるつもりなのかな？

60：日本馬応援民
後続とは四馬身！ これは逃げ切り態勢だ！

61：日本馬応援民
このまま！ このまま！

62：日本馬応援民
おつと、ヨシトミの手綱が動いて……。

63：日本馬応援民
いったいいったいたああああッ！

64：日本馬応援民
ここで仕掛けた日本のシガー！ まだ600mあるぞ!?

65：日本馬応援民
後続も仕掛け始めてる！

66：日本馬応援民
まずいぞ！ 差が詰まってきたる！

67：日本馬応援民

いや、差をキープしてる！

68：日本馬応援民

そうか、逃げたのは馬場が泥んこだったからか！

69：日本馬応援民

さらに前半1000mはスローペースだったうえ、馬群も縦長に広がってたからシガーにとってだいぶ都合のいい展開よ！

70：日本馬応援民

ん？ なんか一頭突っ込んできてるぞ!?

71：日本馬応援民

嘘でしょ!?

72：日本馬応援民

アメリカのシーヒーローが負けじとシガーを追走しているッ！

73：日本馬応援民

アカン！ 差がどんどん縮まってる！

74：日本馬応援民

残り100m！ シガーとの差は二馬身！

75：日本馬応援民

いけいけいけいけいけ！

76：日本馬応援民

頼むっ……このままっ……!!

77：日本馬応援民

シガラの馬体とシーヒーローの馬体が並んだところでゴールツ！

78：日本馬応援民

どっちだ!? どっちだ!?

79：日本馬応援民

九番人気シーヒーローと四番人気シガラの対戦！

80：日本馬応援民

着順が確定するのが待ち遠しい……！

81：日本馬応援民

結果はまだか……？

82：日本馬応援民

おおおおお！ やったぞおおおおお！

83：日本馬応援民

おつ、マジか!? やったやん！

84：日本馬応援民

着順が確定したぞおおおおお！

85：日本馬応援民

マジで!? マジで!?

86：日本馬応援民

結果はどうよ!?

87：日本馬応援民

一着はシガー！ シガーがケンタツキダービーを無敗で勝ってくれたぞ！

88：日本馬応援民

本当かよ!? イージーゴア以来の大快挙だ！

89：日本馬応援民

お祭り騒ぎじゃあああああ！

90：日本馬応援民

わっしょい！ わっしょい！

91：日本馬応援民

プリークネスステークス、ベルモントステークスも挑んでくれるよな!?

92：日本馬応援民

米三冠だぞ！ これは負けるわけにはいかないっしょ！

93：日本馬応援民

無敗の米三冠馬かあ。夢があるな。

94：日本馬応援民

……ん？ なんかヨシトミが顔を青くしてんのだが。

95：日本馬応援民

勝ったのになあ。

96：日本馬応援民

ケンタツキダービーを勝ったのだから、普通は喜ぶのだけれど。

97：日本馬応援民

まあいいや！ どんちゃん騒ぎだーっ！

98：日本馬応援民

米三冠！ 米三冠！

99：日本馬応援民

ヨシトミいけーっ！

100：日本馬応援民

頑張れ！ 頑張れ！

最終章 天に捧ぐ凱旋せし星

天に捧ぐ凱旋せし星編 朝日杯フューチュリティステークス

1：名なしの競馬民

阪神ジュベナイルフィリーズで埋まったので朝日杯用にも立てたぞ。

2：名なしの競馬民

立て乙。

3：名なしの競馬民

立て乙ゾ。

4：名なしの競馬民

立て乙。……あれが大外枠の18番にいったってマジ？

5：名なしの競馬民

あれとはなんだ、あれとは。

6：名なしの競馬民

例の星じゃないの？

7：名なしの競馬民

あー、あれか。確か、黄添が相当に入れ込んでるっぽい馬ね。

8：名なしの競馬民

入れ込んでる馬（無敗の4戦4勝。ほぼ大差で重賞3連勝）。

9：名なしの競馬民

改めてこの戦績を目にするとエグいな……。

10：名なしの競馬民

GⅢ函館2歳ステークス(芝1200m)、GⅢサウジアラビアロイヤルカップ(芝1600m)、GⅡデイリー杯2歳ステークス(芝1600m)を無傷で連勝つてどうということなの……？

11：名なしの競馬民

相当にヤバイ。下手するとマルゼンスキー以上かもしれないぞ。

12：名なしの競馬民

抜け出したらあとは馬なりで差を広げ始めるとか……こんなんに勝てる馬いるか？

13：名なしの競馬民

主戦騎手曰く「芝の適性距離内だったらドバイミレニアムでも力押しは無理。あらゆる作戦、展開、不利を力づくで破れる最強馬。これに勝つのなら地力で上回るしかない」らしいが……。

14：名なしの競馬民

あの柴義富がそんなに絶賛してるのか!?

15：名なしの競馬民

いやー、キツイでしょ(白目)。

16：名なしの競馬民

ヨシトミがそう評するなら本当にヤバイな……。

17：名なしの競馬民

イージーゴア「でもヨシトミは譲らん」

18：名なしの競馬民

アメリカ競馬のトラ馬は大人しくしてて。

19：名なしの競馬民

調教師の的矢仁も相当に入れ込んでるっぽいな。

20：名なしの競馬民

的矢は一目見ただけで「とても素晴らしい馬だ。僕の厩舎なんかではもったいない」と言っていたそうだぞ。

21：名なしの競馬民

あのさあ……（溜息）。

22：名なしの競馬民

的矢はお人好しだから……。

23：名なしの競馬民

なお、強引に押し込むようにして預けた黄添氏。

24：名なしの競馬民

黄添グツジョブ。

25：名なしの競馬民

流石の的矢もこれには勝てなかったか……。

26：名なしの競馬民

馬主界のヤベーやつ・黄添VS元騎手、現調教師界随一の元浮気マークマン・的矢か……。

27：名なしの競馬民

勝手に戦え！

28：名なしの競馬民

とりあえず、星ことシーザスターズ陣営のコメントを貼っとくで。

無敗4連勝、重賞3連勝のシーザスターズ。GⅠ朝日杯フューチュリティステークス(芝1600m)最大の本命馬を管理する美浦の的矢仁調教師、主戦騎手の柴義富騎手に意気込みを伺った。

「1600m、マイルか。シーザスターズの適性距離内だね。もちろんここを勝ってGⅠを奪取したいね。調教にも十分応えてくれるし、手応えも相当なもの。勝てると思う」と的矢調教師は不敵な笑みを零す。

「シーザスターズは今まで乗ってきた馬の中でも最強格に入るね。トップ3なら2位かな。芝とはいえ、シガーやメダグリアドーロ、ドバイミレニウム以上かもね。あ、もちろん1位はイージーゴアさ。シーザスターズはとにかく指示をよく聞いてくれる。操縦性も非常に高いし、気性も大人しいから、乗り心地は最高だね。今回も他馬をぶつちぎって勝つよ」と柴義富騎手は飄々とした態度をとりながらも、そう宣言する。

29：名なしの競馬民

そういえば、ヨシトミって何歳になるんだっけ？

30：名なしの競馬民

40歳のベテランジョッキーだぞ。30代で騎乗したメダグリアドーロで念願の米三冠ジョッキーに、20代で騎乗したイージーゴアでケンタッキーダービージョッキーになってるぞ。

31：名なしの競馬民

日本のクラシックでの成績はどうなのよ？

32：名なしの競馬民

1997年に皐月賞をサイレンススズカで勝ってる。けど日本

ダービーではサニーブライアンの驚異的な粘りと騎乗ミスでクビ差及ばずダービージョッキの座は逃してゐるね(サイレンススズカの適性距離外なのもあった。その後は岳巧に乗り換えも、1998年度毎日王冠と天皇賞(秋)は黄添の意向もあつて再度騎乗し、勝利している)。

33：名なしの競馬民

アメリカだと異常なぐらい強いヨシトミ。そのせいでアメリカでのヨシトミは誰が呼んだかシバ・ヨシトミン。

34：名なしの競馬民

日本のダートや短距離でも強いだろ！ いい加減にしろ！

35：名なしの競馬民

△ 短距離、ダートでのヨシトミは強い。

○ アメリカで騎乗するヨシトミは強い。

◎ ヨシトミが海外遠征したら勝ちフラグ。

36：名なしの競馬民

凱旋門賞で一杯になったドバイミレニアムを四着に振じ込むのは相当に上手い。

37：名なしの競馬民

上手いの次元を超えている気が……。

38：名なしの競馬民

話を変えるが、みんなの本命とかおる？

39：名なしの競馬民

シーザスターズ一択。

40：名なしの競馬民
不安要素を考えてのシーザスターズ。

41：名なしの競馬民
シーザスターズだろ。

42：名なしの競馬民
満場一致のシーザスターズで笑うしかない。

43：名なしの競馬民
だって朝日杯と同距離のデイリー杯、サウジアラビアロイヤルカップを圧勝しとるし……。

44：名なしの競馬民
そのシーザスターズのオッズって今どれくらいかわかる？

45：名なしの競馬民
……1倍台にいますねえ。

46：名なしの競馬民
旨みはほとんどない。穴党からしたら2着、3着を当てるしかないな。

47：名なしの競馬民
シーザスターズくんさあ、やりすぎじゃないの？

48：名なしの競馬民
穴党殺し。

49：名なしの競馬民
……現地民なんだが、そろそろじゃね？ ゲート入り。

50：名なしの競馬民

「ファツ!? うっそだろ!? ホントだ!

51：名なしの競馬民

「いかん! このままじゃ見過ごすウ!

52：名なしの競馬民

「急げ急げー!

53：名なしの競馬民

「今スタートしたぞ! 大外18番シーザスターズが好スタートを見せるも、中団に下げてすんなりと好位を確保したぞ。」

54：名なしの競馬民

「前方から数えて……9番手!

55：名なしの競馬民

「あっ……(察し)。」

56：名なしの競馬民

「穴党終了のお知らせ」

57：名なしの競馬民

「600mを切って……シーザスターズは11番手にやや後退か。」

58：名なしの競馬民

「オワタ。馬券を撒いてくる。」

59：名なしの競馬民

「ヨシトミのことだからこの後退はわざとぞ。きつとそうだぞ。」

60：名なしの競馬民

ガツチガチに包囲&マークされてんな、シーザスターズ。

61：名なしの競馬民

前が壁！ 横も壁！ 後ろも壁！ ……もしかして詰んだ？

62：名なしの競馬民

最終直線に入ろうとしてるぞ！ 最終コーナーを回ってる……ん
!?

63：名なしの競馬民

嘘でしょ……シーザスターズがいつの間にか包囲を抜け出して先
頭に立ってる……。

64：名なしの競馬民

ヨシトミは持ったまま！ ヨシトミは持ったまま！

65：名なしの競馬民

おおおおお！ 突き放してるぞ！

66：名なしの競馬民

シャーガーの英ダービーみたいな抜け方してんな。

67：名なしの競馬民

勝った勝った！ やはりシーザスターズが勝った！

68：名なしの競馬民

あつという間にゴール板をくぐりおつたな……。

69：名なしの競馬民

なんだね、この化け物は……。

70：名なしの競馬民
嘘だろ……14馬身くらい突き放してるっぽい……。

71：名なしの競馬民
加減しろ！（白目）

72：名なしの競馬民
これはマルゼンスキーですわ……。

73：名なしの競馬民
外国産馬だしな。

74：名なしの競馬民
父ケープクロス、母がガリレオと同じアーバンシーっだっけ？

75：名なしの競馬民
そう。またとんでもない馬を産んでるなあ……。

76：名なしの競馬民
穴党は成仏していい。

77：名なしの競馬民
来年のクラシックでこいつに勝てる馬っているか？

78：名なしの競馬民
だからあれほど外国産馬をクラシックから弾けと……。

79：名なしの競馬民
おは昭和の日本競馬界。

80：名なしの競馬民

まんまマルゼンスキーになるからやめろ。